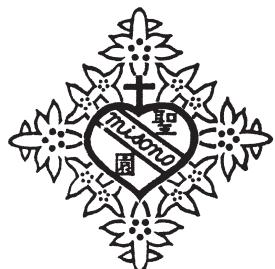


平成30年度 授業概要



S Y L L A B U S

聖園学園短期大学
保育科

目 次

1年次

◆基礎教養科目

キリスト教人間学 I	1
くらしと憲法	2
日本語の表現 I	3
文学	4
子ども文化	5
ボランティア活動	6
子どもと自然	7
保育の英語	8
健康・スポーツ論	9
体育実技	10
情報処理	11

◆専門科目

音楽の理論と合奏	12
声楽 I	13
器楽 I (ピアノ)	14
幼児造形 I	15
福祉基礎理論	16
児童福祉と家庭	17
子どもの保健 I A	18
子どもの保健 II	19
小児栄養	20
保育者論	21
保育の基礎理論	22
社会的養護 I	23
保育の心理学 I	24
保育内容の指導法 人間関係	25

保育内容の指導法 言葉	26
保育内容の指導法 表現	27
乳児保育 I	28
障がい児保育	29

2年次

◆基礎教養科目

キリスト教人間学 II	31
日本語の表現 II	32

◆専門科目

音楽の理論と合奏 II	33
声楽 II	34
器楽 II (ピアノ)	35
幼児造形 II	36
幼児造形 III	37
幼児体育	38
運動表現	39
児童文学	40
数論	41
生活科の研究	42
相談援助	43
保育相談支援	44
家族援助論	45
子どもの保健 I B	46
教育原理	47
保育の心理学 II	48
発達心理学	49
教育制度	50
教育・保育課程総論	51
保育内容総論	52
保育内容の指導法 健康	53
保育内容の指導法 環境	54
保育内容の指導法 表現	55
幼児指導法 II	56
乳児保育 II	57
社会的養護内容	58
援助に生かす心理学	59
保育・教職実践演習(幼稚園)	60
卒業研究	61

実 習

教育実習指導	63
保育実習指導 I	64
保育実習指導 II	65

※実習指導については、2年間を通して行う。

注：今年度開講しない科目については省略

授業と科目の履修について

●出欠席等

- ① 出欠席については、授業科目毎に科目担当者が確認する。
- ② やむを得ない理由により欠席する場合は、科目担当者に「欠席届」を提出すること。緊急を要する場合は、教務課（018-862-0337）に連絡すること。
- ③ 病気等やむを得ない理由により長期欠席をする場合は、医師の診断書等を添えて「欠席届」を教務課に提出する。
- ④ 遅刻は授業開始 10 分以内とし、科目担当者に申し出ること。早退は科目担当者及び担任に申し出ること。
遅刻、早退は 2 回につき 1 時間分の欠席として扱う。
- ⑤ 本学には公認欠席や忌引の扱いはない。ただし、やむを得ない理由（災害、就職試験、実習オリエンテーション等）による遅刻・欠席については考慮される場合がある。
- ⑥ 授業の出席時数が、基準の 3 分の 2（実習、実技は 5 分の 4）に満たない者は受験資格を失い、単位は修得できない。

●科目の履修

- ① 科目には必修・選択の別がある。
- ② 選択科目は更に選択必修と自由選択の科目に分けられる。
これらについては、時間割表やシラバス等を参考に、学生自身が自らの責任において決定し、指定の期日までに教務課に「履修届」を提出しなければならない。
- ③ 「履修届」は、単位算定と成績評価の基礎となり、卒業及び教育職員免許状申請・保育士資格取得の要件につながるものである。
履修の具体的な説明については、次の時期に行う。
1 年次履修科目：教務課が適宜行う。
2 年次 ノ：教務課が適宜行う。
- ④ 科目によっては、授業内容上、受講者数を制限したり、受講者数が極めて少ない場合は開講しないこともある。
- ⑤ 履修科目的変更は、原則として指定期間内のみとする。
- ⑥ 届出以外の科目の授業及び試験は受けられない。
- ⑦ 自由選択科目について
自由選択科目を途中放棄する場合は、学長が定める日まで、教務課に申し出ること。指定された期日以降に途中放棄する場合は、成績評価を F（不合格）とする。

●成 績

- ① 各科目の成績については、試験・レポート・作品・実技・実習・平素の学習状況・出席状況等により、総合的に評価する。
- ② 評点と評価基準は、次のとおりとする。
(学則第 24 条第 2 項)

評 点	評 価
100 点～ 90 点	S
89 点～ 80 点	A
79 点～ 70 点	B
69 点～ 60 点	C
59 点以下	F

1 年 次

科目名	キリスト教人間学Ⅰ		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	門戸 美智	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・通年
授業の概要及び全体目標	旧約聖書を通して神の人間に対する愛と救いの歴史を学び、キリスト教の基本的精神を深め、人を愛して生きる生き方を身に付ける。旧約聖書に描かれている人間の姿は、現代社会と共通する点が多いことに気付くとともに、本学の建学の精神である「真理を求め、人を愛して生きる人生観」を具体的に学びキリスト教の精神で社会に貢献することを理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 旧約聖書にみられる神の人間に対する愛と救いの歴史を理解する 1) 天地創造から始まる人間の罪と神の愛を出来事の中で理解している 2) 旧約聖書の権力闘争、飢饉などの困難から脱出する力を神からの救いであると理解している (2) キリスト教の基本的精神を理解する 1) キリスト教の基本的祈りと聖書の読み方、捉え方を理解している 2) み心のミサ、クリスマスミサ、卒業感謝ミサを通して共に祈り、感謝することを理解している (3) 人生で遭遇する喜びと愛、孤独と悲嘆などの経験から人を愛し愛される大切さを理解する 1) 最初の人間の罪と恵みの問題を捉え神はどう人間を救おうとしているのか理解している 2) 人間と自然、環境の正しいあり方を探り人も自然も守るべきものであることを理解している						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	オリエンテーション 祈り 聖歌 聖書の使い方 読み方 授業の目的					
	2	聖書について 旧約聖書 新約聖書					
	3	天地創造 初めに神は天と地を創られた					
	4	自然 神はすべてを良しとされた					
	5	自然 回勅『ラウダート・シ』について(1)					
	6	自然 回勅『ラウダート・シ』について(2)					
	7	聖心について(み心の愛)					
	8	み心のミサと講演					
	9	最初の人間 神はご自分に似せて人を創造された 創世記2：4～2 創世記3：1～24					
	10	悪・人類最初の罪 アダムとエバとその罪					
	11	悪・人類最初の罪 カインとアベル 創世記4章					
	12	カリタスジャパンについて カリタスジャパンの活動を知り理解を深める					
	13	悪・人類最初の罪 ノアの箱舟 洪水 創世記6章～10章					
	14	悪・人類最初の罪 バベルの塔 創世記11章					
	15	族長物語 アブラハム物語 イサク物語 ヤコブ物語 の流れ					
	16	アブラハム イサク ヤコブの神 アブラハムの召し出し 創世記12章					
	17	アブラハムとイサクの物語 最大の試し 創世記22章					
	18	アブラハム イサク ヤコブの神 ヤコブ物語 創世記25章19～34					
	19	ヨゼフ物語 創世記37章					
	20	ヨゼフ物語 創世記42章					
	21	救い モーセと出エジプトの物語(1)					
	22	待降節とミサについて					
	23	クリスマスミサに参加					
	24	救い モーセと出エジプトの物語(2)					
	25	救い モーセと出エジプトの物語(3) 主の過ぎ越し					
	26	救い モーセと出エジプトの物語(4) 律法と十戒					
	27	神は預言者によって語られた(1) ヨシュア記 士師記 ルツ記					
	28	神は預言者によって語られた(2) サムエル記 ダビデ					
	29	神は預言者によって語られた(3) 列王記 ソロモン					
	30	神は預言者によって語られた(4) イザヤ書 イザヤ エレミア					
成績評価の方法		試験(30%)、提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、聖園アワー・感想(20%)					
テキスト		フランシスコ会聖書研究所訳注:『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ著:『こころにひかりを』(ドン・ボスコ)					
参考文献・資料		ガエタノ・コンプリ著『人生に光を』(ドン・ボスコ) ラシャペル・アンドレ著『人間と聖書 旧約聖書における人間像』(サンパウロ)					
事前・事後学習		授業で使用するプリントを読んでおき、授業後もう一度授業の箇所を読み自分の生活を振り返り考察する。					

科目名	くらしと憲法		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	藤原 美佐子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	憲法の内容と基本的な考え方を自らの社会生活に根ざしたものとして理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 憲法の基本的な考え方を理解することができる 1) 憲法の意義について理解することができる 2) 憲法の基本原則を理解することができる (2) 人権について理解することができる 1) 自由権の意義、内容について理解することができる 2) 社会権の意義、内容について理解することができる (3) 憲法が定める国の統治に関わる制度を理解することができる 1) 選挙制度、立法・行政・司法の役割と関係について理解する (4) 成人として必要な法的知識を身につける 1) 刑事裁判制度、消費者としての知識、身分関係の一般的な法的知識を理解する						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	憲法とは誰のため、何のためにあるのか					(1)-1) 2)
	2	個人の尊重 一人ひとりが大切ということ					(1)-1) 2)
	3	法の下の平等					(1)-2)
	4	内心の自由と信教の自由					(2)-1)
	5	表現の自由					(2)-1)
	6	生存権－健康で文化的な最低限度の生活とは					(2)-2)
	7	労働者の権利 ワークルールを中心として					(2)-2) (4)-1)
	8	子どもの権利					(2)-2)
	9	被疑者・被告人の権利－刑事裁判の基礎知識					(2)-1), (3)-1) (4)-1)
	10	模擬裁判					(2)-1), (3)-1) (4)-1)
	11	女性と子どもの法律問題－離婚からひとり親家庭の支援まで					(2)-2) (4)-1)
	12	消費者を巡る法律問題					(2)-2) (4)-1)
	13	選挙権					(1)-2) (3)-1)
	14	国会・内閣					(1)-2) (3)-1)
	15	裁判所					(1)-2) (3)-1)
成績評価の方法		定期試験(70%)、授業参加態度・意欲(30%)					
テキスト		レジュメを使用します。					
参考文献・資料		伊藤真著：『伊藤真の日本一やさしい「憲法」の授業』(KADOKAWA)					
事前・事後学習		ニュースや報道に接する機会を増やし、社会に起きている出来事と憲法や法律、講義との関係を意識する。自分の考えを伝えられるようにして、講義内での発言ができるようにする。					

科目名	日本語の表現Ⅰ		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	大原 かおり	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・通年
授業の概要及び全体目標	これまで身につけてきた国語の表現を振り返り、社会人・保育者として社会生活を営むために必要な国語の基礎的知識・技術を身につけ、実践に生きる国語力を養う。国語力向上のため、課題の発見、解決を図る姿勢を身につける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 日本語の特質を理解し、適切な表現を用いた言語活動ができる</p> <p>1) 表記・文法・敬語などの基礎的知識を身につけ、適切に表現する</p> <p>2) バランスのよい文字・文章の書き方を身につけ、適切に表現する</p> <p>3) 場に応じた表現方法や技術を身につけ、適切に表現する</p> <p>(2) 自己の課題発見・解決を図る</p> <p>1) 自己の国語力を客観的に把握し、課題解決や国語力向上を図ることができる</p> <p>2) 他者の表現を理解し、適切な判断や助言ができる</p>						
授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号
1	オリエンテーション ー保育者に求められる国語力とは、授業目標・内容・評価方法の説明						(2)-1)
2	国語力トレーニング ー敬語とは・尊敬語						(1)-1) 3),(2)-1)
3	国語力トレーニング ー謙譲語①・謙譲語②・丁寧語①・丁寧語②						(1)-1) 3),(2)-1)
4	国語力トレーニング ー状況に合わせた日本語・第三者を交えた敬語・電話や手紙における敬語						(1)-1) 3),(2)-1)
5	国語力トレーニング ー誤った敬語の使い方・さまざまな敬意表現・敬語の学習のまとめ						(1)-1) 3),(2)-1)
6	総合演習1 ー日本語検定過去問						(1)-1) 3),(2)-1)
7	国語力トレーニング ー可能動詞・受身と使役・文のねじれ						(1)-1) 3),(2)-1)
8	総合演習2 ー日本語検定過去問						(1)-1) 3),(2)-1)
9	日本語検定 6月8日(金)						(1)-1) 3),(2)-1)
10	日本語表現の基礎 ー話し方の基本、美しい文字の書き方 【短作文1】						(1)-1) 2),(2)-1)
11	日本語表現の基礎 ー正しい表記と表現 【スピーチ開始】						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
授業計画	12 文章表現の応用 ー作文800字						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	13 文章表現の応用 ーリピート作文						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	14 文章表現の応用 ー手紙・礼状の書き方						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	15 文章表現の応用 ー評論読解 【短作文2】						(1)-1) 3),(2)-1) 2)
	16 文章表現の応用 ー作文「絵本評」						全項目
	17 文章表現の応用 ー小論文の書き方						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	18 文章表現の応用 ー小論文800字						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	19 日本語表現の応用 ーレポート「聖園だより」について						(1)-1) 3),(2)-1)
	20 日本語表現の応用 ー「聖園祭だより」作成1 記事・レイアウトを考える						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	21 日本語表現の応用 ー「聖園祭だより」作成2 下書き						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	22 日本語表現の応用 ー「聖園祭だより」作成3 清書						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	23 日本語表現の応用 ー「聖園祭だより」相互評価1						(1)-3),(2)-1) 2)
	24 日本語表現の応用 ー「聖園祭だより」相互評価2						(1)-3),(2)-1) 2)
	25 日本語表現の応用 ー「聖園祭だより」自己評価						(2)-1) 2)
	26 日本語表現の応用 ー「しりとり絵本」の作り方						(1)-2) 3)
	27 日本語表現の応用 ー「しりとり絵本」作成1						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	28 日本語表現の応用 ー「しりとり絵本」作成2						(1)-1) 2) 3),(2)-1)
	29 日本語表現の応用 ー「しりとり絵本」読み聞かせ						(2)-1) 2)
	30 まとめ						
成績評価の方法	定期試験(40%)、提出課題(50%)、授業参加態度・意欲(10%)						
テキスト	日本語検定委員会編:『ステップアップ日本語講座 中級』(東京書籍)						
参考文献・資料	授業各回で提示や紹介をする						
事前・事後学習	事前に学習範囲を提示するか、資料を配布するので、取り組んでおくこと。 講義内容をノートにまとめ、資料をファイルするなどして事後の学習に役立てること。						

科目名	文学		必修・選択	選択必修		授業形態	講義
担当者	大原 かおり	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	「絵本学」という観点から、児童文化財である絵本をさまざまな角度から捉え、絵本への造詣を深め、絵本選びや読み聞かせなどの実践に役立てる。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 絵本の基礎事項について体系的に学ぶ</p> <p>1) 歴史・機能・読者・種類について理解する</p> <p>2) 絵本作品を読み、その特色を理解する</p> <p>(2) 絵本の観察解をとおして、絵本のさまざまな機能を理解する</p> <p>1) 絵とテキスト(言葉)の機能・相乗効果について理解する</p> <p>2) テーマ・目的に合わせた絵本選びができる</p>						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	オリエンテーション —さまざまな絵本の見方・絵本の基礎概念					
	2	絵本の歴史1 —世界の絵本の歩み					
	3	絵本の歴史2 —日本の絵本の歩み					
	4	絵本のテキスト1 —現代の絵本					
	5	絵本のテキスト2 —文の機能と絵の機能					
	6	絵本のテキスト3 —画面展開と描写の技法、絵本の視覚表現、色彩表現、時間と空間の表現					
	7	絵本のテキスト4 —絵本の画材と技法					
	8	絵本と読者1 —子どもの発達と絵本、赤ちゃん絵本、幼児と絵本、小中学生と絵本					
	9	絵本と読者2 —障がい者と絵本、絵本の読み合い・読み聞かせ、絵本の選び方					
	10	絵本の種類1 —創作(物語)絵本					
	11	絵本の種類2 —さまざまなジャンルの絵本					
	12	個人研究1 —テーマ・絵本を決める					
	13	個人研究2 —調査・研究					
	14	個人研究3 —レポートとプレゼンテーション資料の作成					
	15	個人研究発表会					
成績評価の方法		提出課題(60%)、レポート(20%)、授業参加態度・意欲(20%)					
テキスト		生田美秋・石井光恵・藤本朝巳編著:『ベーシック絵本入門』(ミネルヴァ書房)					
参考文献・資料		授業各回で提示や紹介をする					
事前・事後学習		事前にテキストや絵本を読んで授業に臨むこと。 講義内容をノートにまとめ、資料をファイルするなどして事後の学習に役立てること。					

科目名	子ども文化		必修・選択	選択必修		授業形態	講義
担当者	猿田 興子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	幼児の表現とその発達について理解するとともに、幼児の感性や創造性を豊かにする様々な専門的事項についての知識・技能・表現力等を身に付けることを目標にする。子どもを取り巻く社会情勢の変化の中で保育における子ども文化の重要性とその課題について理解を深める。また、感性と身体性を喚起させる多様な表現活動に取り組む中で、学生同士が互いに表すことや受け止め合うことの相互作用から幼児の表現の本質に迫る授業を目指す。						
一般目標(No.)及び到達目標No.)	<p>(1) 幼児の表現の姿や、その発達に関心を持ち、身体機能や認知、発達と関連付けて捉えることができる。</p> <p>1) 幼児の遊びや生活における表現の姿や、児童文化の重要性を理解している。</p> <p>2) 幼児の豊かな表現を広げる児童文化の意味を理解して生かそうとする。</p> <p>3) 幼児の素朴な表現を見出し、受け止め、共感することができる。</p> <p>(2) 身体、造形、音楽などの様々な表現の基礎的な知識・技能を学ぶことを通し、幼児の表現を支えるための感性を豊かにする。</p> <p>1) 様々な表現を感じる、みる、聴く、楽しむことを通してイメージを豊かにすることができる。</p> <p>2) 表現することの楽しさを実感するとともに、楽しさを生み出す要因について分析することができる。</p> <p>3) 共同して表現することを通し、他者の表現を受け止め共感し、より豊かな表現につなげていくことができる。</p>						
授業計画	授業回数	授業の内容					
	1	オリエンテーション 授業の流れと目的について 子ども文化とは何か 保育における子ども文化を捉える					
	2	保育における子ども文化（絵本について1） 様々な絵本（大型絵本、布絵本）を知るとともにその活用について					
	3	保育における子ども文化（絵本について2） 子どもの興味の持てる絵本とは 子どもの目線で捉えることの重要性について					
	4	保育における子ども文化（適切な選択と読み方・伝え方の実践） 子どもの目線で考える、適切な教材と環境を捉える					
	5	保育における子ども文化（乳児・幼児、その発達を捉えた遊びの実践） 現場で実践しているゲストスピーカーの遊びから考える					
	6	保育における子ども文化（紙芝居の歴史、読み方・表現の工夫） 紙芝居の選択目的と読み方の効果を探る					
	7	保育における子ども文化（紙芝居を保育に生かす 読む実践） 紙芝居を保育に生かすための適切な準備とその留意点を捉える					
	8	保育における子ども文化（伝承遊び、わらべ歌等から） 乳幼児の遊びから…わらべうたの意味と特徴、楽しさを通して体験する					
	9	保育における子ども文化（エプロンシアター・パネルシアターその他の表現） 保育の場で出会う子ども文化に触れる 作成・実践の意欲につなげる					
	10	乳幼児のための作品制作と実践 グループで作品制作について協議・調査					
	11	乳幼児のための作品制作と実践 グループで作品制作に取り組む					
	12	乳幼児のための作品制作と実践 グループで完成した作品の乳幼児に適した発表を協議・練習・改善					
	13	乳幼児のための作品制作と実践 事前準備と発表・その振り返り					
	14	園行事と子ども文化 園における一年を通した行事を考える 行事における子どもの育ちを捉える					
	15	まとめに 保育者の豊かな表現と子どもの生活を豊かにすることとの関連性を考える					
成績評価の方法		レポート（20%）、提出課題・作品（60%）、授業態度・意欲（20%）					
テキスト		適宜、授業で資料を配布					
参考文献・資料		なし					
事前・事後学習		子ども文化を他教科とも関連付けながら、総合的に捉えたうえで参加すること。実技に向かうまでの準備や配慮も事前・事後学習と捉えて計画的に見通し取り組むこと。					

科目名	ボランティア活動		必修・選択	選択必修		授業形態	講義
担当者	藤原 法生	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	ボランティア活動の原則や歴史的変遷を踏まえて、ボランティア活動の意義を理解する。社会や自身の成長に資するボランタリーな活動の必要性を理解する。 講義のほか、体験学習やグループワーク等を行い、ともに感じて考えながら具体的な学びができる授業構成とする。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) ボランティア活動の意義について理解する。 1) ボランティア活動の原理を理解している。 2) ボランティア活動の歴史と現状を理解している。 (2) ボランタリーな活動を行う組織と、それを支援する組織について理解する。 1) ボランティアグループとN P Oについて理解している。 2) ボランティアセンターについて理解している。 (3) ボランティア活動の領域について理解する。 1) 対人活動について理解している。 2) 環境や災害に関する活動について理解している。 (4) 福祉教育について理解する。 1) 福祉教育の必要性を理解している。						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	ボランティア活動の基礎 ボランティアの語源、ボランティアとはなにか					(1)-1)
	2	ボランティア活動の原理 自発性、主体性					(1)-1)
	3	ボランティア活動の原理 社会性、無償性、創造性・開拓性・先駆性					(1)-1)
	4	ボランティア活動の歴史 戦前戦後の活動、災害とボランティア					(1)-2)
	5	ボランティア活動の現状 活動の種類と範囲					(1)-2)
	6	ボランティア活動の組織 ボランティアグループ、N P O					(2)-1)
	7	ボランティアに対する支援 ボランティアセンター、ボランティアコーディネーター					(2)-2)
	8	ボランティア活動の種類と実際 障害者、高齢者とのかかわり					(3)-1)
	9	ボランティア活動の種類と実際 児童とのかかわり					(3)-1)
	10	ボランティア活動の種類と実際 地域の人とのかかわり					(3)-1)
	11	ボランティア活動の種類と実際 環境への対応					(3)-2)
	12	ボランティア活動の種類と実際 災害への対応					(3)-2)
	13	ボランティア活動の種類と実際 国際活動					(3)-1) 2)
	14	福祉教育 教育機関や地域における福祉教育					(4)-1)
	15	まとめ ボランティア活動の展望					(1)-1) (4)-1)
成績評価の方法		提出課題・レポート(60 %)、授業・ディスカッションへの参加態度(40 %)					
テキスト		柴田謙治・原田正樹・名賀亨 編:『ボランティア論』(みらい)					
参考文献・資料		必要に応じて提示					
事前・事後学習		事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。					

科目名	子どもと自然		必修・選択	選択必修		授業形態	講義
担当者	永井 博敏	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	○人間の生活が自然と深く関わり合っていることに関心をもち、自ら進んで自然環境や事象に触れようとする意欲的で実践的な行動力を身に付ける。 ○子どもの探索活動や興味・関心の支えに生かせるよう、身近な事例から取り上げた動植物や自然事象に関する基礎的事項を理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 身近な自然や事象及び人間の生活とのかかわりに興味・関心をもち、進んで探究しようとする。 1) 身近な動植物や自然事象に関心を示し、課題解決に積極的に取り組む。 2) 身近な自然にかかわろうとする意欲を高め、授業内外での体験活動に主体的に取り組む。 3) 自然環境を生かして生活を豊かにしている人々の知恵や歴史に学ぼうと意欲的に行動する。 (2) 身近な動植物や自然事象に関する課題を解決するための基本的な知識・技能を修得する。 1) 身近な動植物や自然事象に関する基本的な知識を分かりやすく説明することができる。 2) 課題解決のために必要な観察やデータ収集、製作等の技能を身に付け、実際に活用できる。 (3) 自然事象に関して、科学的な思考や判断をし、その過程・結論を自分なりの方法で表現できる。 1) 知り得た情報や体験をもとに分析・思考し、事象変化等の因果関係を導くことができる。 2) 課題解決の課程や成果を個々の特性に応じた多様な表現方法で他者に伝えることができる。						
授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号
1	身近な動植物の名称を言えますか 自然と日本人の文化《秋の七草》その由来と草花の特徴						(1)-1) 3) (2)-1)
2	身近な植物（草花）の基礎知識「厳しさを生き抜く雑草の秘密」 近隣の公園や道端に見られる秋の草本類・木本類 その特徴と生活への活用						(1)-1) 3) (2)-1) 2)
3	フィールドワーク 秋田市植物園（又は千秋公園・秋操近隣公園）で秋の樹木類の観察・木の実採集						(1)-2) (2)-1) 2)
4	草花・樹木の特徴に関する調べ学習と表現活動 子どもが知ってほしい草花（樹木）の秘密～子どもの視点で探ってみよう～						(2)-1) 2) (3)-2)
5	動物園における行動展示の意義と教育的活用法 大森山動物園の展示の特徴及び幼児期・児童期の子どもたちの興味関心						(2)-1) (3)-1)
6	フィールドワーク 大森山動物園で行動展示の観察。『ふれあい広場』で動物との触れ合い体験						(1)-1) 2) 3) (2)-1)
7	水族館の魚たち 男鹿水族館に展示されている主な水生動物（魚類・両生類・哺乳類）の特徴理解						(2)-1) (3)-1)
8	フィールドワーク 男鹿水族館 GAO での館内展示の観察とハタハタ展示室での現地学習						(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)
9	映像資料『ハタハタ 産卵の謎に迫る』の視聴による現地学習の深化 動物園・水族館の体験に基づく表現活動（子ども向けクイズの作成と公開発表の実施）						(1)-1) 3) (3)-1) 2)
10	ルーペで知る微細な世界 1 「カタクチイワシの煮干し解剖」 煮干しの解剖（魚の器官・内臓等を観察）と解剖標本の作製体験						(1)-2), (2)-2) (3)-2)
11	ルーペで知る微細な世界 2 「身の回りの品々に見つける微細な特徴」 野菜・草花・果実種子・海産乾物・印刷物等の細部観察とスケッチ						(1)-2), (2)-2) (3)-2)
12	ルーペで知る微細な世界 3 「ルーペの世界から～私の小さな絵手紙～」 体験活動での“発見・驚き・不思議”を子どもに伝える絵手紙風の表現活動						(1)-2), (2)-2) (3)-2)
13	里山の自然と生活 1 映像資料「里山の音景色」 里山にあふれる『音』を通して考える“日本人の生活と自然との密接な関係性”						(1)-3), (2)-2) (3)-1) 2)
14	里山の自然と生活 2 映像資料「ニッポンの里山ふるさとの絶景 秋田県3編」 県内各地の『水』を通して考える“人々の生活と秋田の豊かな自然との関係性”						(1)-1) 3) (3)-2)
15	映像資料から学ぶ科学の進歩 「最新科学の目で見るニッポンの子育て事情」 “育児不安”を脳科学・生理学・人類学の最新の研究成果から読み解く映像学習						(1)-1) 3) (3)-2)
成績評価の方法	小テスト (20 %)、レポート (30 %)、製作・表現の作品 (30 %)、体験活動の意欲・態度 (20 %)						
テキスト	授業ごとに自作資料 (A4 判) を配布する。ファイルを用意し、学習ポートフォリオとなるよう資料・レポート・作品等を保存する。						
参考文献・資料	関連する資料は授業時に紹介する。 映像資料は主に自然科学関連のDVD・番組録画等による。						
事前・事後学習	自然事象への好奇心を高めるよう、日常的に身近な自然を観察する習慣を身に付けておく。 講義内容の定着を図るために、事後に授業外の探索体験活動が課されることもある。 フィールドワークの条件によっては、事後学習として時間を延長して活動する場合もある。						

科目名	保育の英語		必修・選択	必修		授業形態	(演習)						
担当者	大西 絵理香	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期						
授業の概要及び全体目標	国際化する社会の変化にともなって、保育の現場でも外国人の子どもの受け入れが増加している。現状に対応する力を身につけるため、外国人園児の入園を想定した教科書の学習を通して、英語による子どもの保育や保護者との応対方法を学ぶ。また、言語知識だけではなく、異文化間コミュニケーションに必要な配慮の仕方を理解し、身につける。												
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 日本語を話せない園児が入園する場合を想定し、保育の中で英語を用いながら子どもとコミュニケーションを取る方法を理解している。</p> <p>1)遊びや活動、給食、トイレなどの場面で英語で子どもとコミュニケーションを取ることができる。 2)言語の壁が原因でトラブルが生じた場合、その背景を理解したうえで対処を行うことができる。</p> <p>(2)日本語を話せない保護者との対応を想定し、子どもの様子や活動に関して英語を用いて報告することができる。</p> <p>1)日常の保育や活動における子どもの様子を会話表現で伝えることができる。 2)連絡帳や園だよりの英文訳を用いて保育に関する情報を伝えることができる。</p> <p>(3)保育に関する英語の基礎的知識を持っている。</p> <p>1)園児の持ち物や園内にある物、身体の部位などに関する英語の語句を理解できる。</p>												
授業 回数 計 画	授業の内容	関連する 到達目標番号											
	Unit 1: First Step to Childcare English 外国人の親子との初対面のあいさつや自己紹介、園内の場所に関する語句	(1)-1) (2)-1)											
	Unit 2: Welcome to Minato Nursery School 外国人の園児入園の際のあいさつ、保育室のものを表す語句、家庭調査表作成	(1)-1) (2)-1)											
	Unit 3: Time and Numbers 登園時間の確認をする方法、園児の持ち物を伝える語句	(2)-1) (3)-1)											
	Unit 4: Directions 保育所周辺の場所の案内方法、外国人家庭への生活面のアドバイス	(2)-1) (2)											
	Unit 5: Davy Meets His Classmate Takashi 子どもを遊びに誘う表現、園庭にあるものを表す語句	(1)-1) (3)-1)											
	Unit 6: Dropping Davy Off and Picking Him Up 登園・降園時のあいさつや言葉かけ、子どもの状態や活動を伝える方法	(1)-1) (2)-1)											
	Unit 7: Jobs at Nursery School 保育の仕事に関する英文、外国人園児保育に関する事例資料	(1)-2)											
	Unit 8: Lunchtime 給食やおやつでの言葉かけ、食文化の違い、献立や調理法に関する表現	(1)-1) (2)-1)											
	Unit 9: Toilet Dialog: 子どもの排泄に関する表現、英文による連絡帳の記入方法	(1)-1) (2)-2)											
	Unit 10: Fighting 子どものけんかやトラブル時の言葉かけ、子どもへの指示、身体部位を表す語	(1)-1) (3)-1)											
	Unit 11: Injuries and Illnesses 子どものけがと応急処置に関する表現、子どもの体調不良時の報告方法	(1)-1) (2)-1)											
	Unit 12: Telephone Calls 電話連絡に英語で対応する方法、緊急時に英語で電話連絡を行う方法	(2)-1)											
	Unit 13: Field Trip 年間行事予定表や各種行事のお知らせを英語で作成する方法	(2)-1) (2)											
	Unit 14: Baby Care 赤ちゃんの様子や成長を英文で表現する方法、育児観に関する文化的相違	(2)-1) (2)											
	Unit 15: Graduation Day 卒園の際に英語で祝福を表現する方法、保護者とのあいさつの表現	(1)-1) (2)-1)											
成績評価の方法	定期試験(70%)、レポート(20%)、授業プリント提出(10%)												
テキスト	赤松直子・久富陽子共著:『保育の英会話(Childcare English)』(萌文書林)												
参考文献・資料	大場幸夫・民秋言 他共著:『外国人の子どもの保育』(萌文書林)												
事前・事後学習	授業で学んだことを今後の実習や専門科目の授業でいかに活用できるかを考え、意識を持ち続けることが重要である。												

科目名	健康・スポーツ論		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	内藤 裕子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	<ul style="list-style-type: none"> 生涯にわたって、心身ともに健康な生活をおくるために必要な要素について学ぶ。 スポーツの意義を理解し、その楽しみ方を知る。 						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 健康を多角的にとらえ、日々の生活にいかすことができる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康な生活を維持するための必要な知識を習得する。 2) 自分自身の心身の状態を認識し前向きに生きていく術を探す力を養う。 <p>(2) スポーツの意義を理解し実際の活動にいかすことができる知識やルールを習得する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) するスポーツ、みるスポーツ、支えるスポーツの魅力を探る。 2) 生涯にわたって、体を動かすことの楽しみを理解する。 3) 生涯を通し、スポーツを楽しめる方法を習得する。 						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	オリエンテーション					
	2	健康についての理解1 健康の定義					
	3	健康についての理解2 健康の必要性					
	4	健康な生活について1 セロトニンについて					
	5	健康な生活について2 睡眠について					
	6	食と健康の関係1 食事の意義					
	7	食と健康の関係2 栄養について					
	8	食と健康の関係3 食が身体に及ぼす影響					
	9	体力について					
	10	運動と基礎代謝					
	11	スポーツの意義					
	12	スポーツの起源					
	13	スポーツの重要性					
	14	スポーツと健康の関係					
	15	まとめ					
成績評価の方法		提出課題(30%)、レポート(30%)、授業態度・意欲(40%)					
テキスト		なし					
参考文献・資料		なし					
事前・事後学習		自分自身の日々の健康管理を意識する。					

科目名	体育実技		必修・選択	必修		授業形態	実技
担当者	内藤 裕子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	<ul style="list-style-type: none"> ・さまざまなスポーツを経験することで、その技術をみがく。 ・生涯にわたって、スポーツやレクリエーションに親しめる能力を身に付ける。 						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) スポーツの重要性や意義についての知識を習得する。</p> <p>1) 実際にスポーツやゲームを体験し、その楽しみや魅力を理解する。</p> <p>2) ゲームに関わるルールを理解することで、スポーツに親しむ機会を得る。</p> <p>3) 仲間と関わりを持つことで社会性を身に付ける。</p> <p>(2) 日常的な自分自身の体力強化について意識する。</p> <p>1) 各スポーツのルールを理解し、積極的に取り組める姿勢を作る。</p> <p>2) 生涯にわたって、体を動かすことの楽しみを理解する。</p> <p>3) 仲間とスポーツを楽しむことにより、生きるエネルギーを蓄積する。</p>						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	オリエンテーション					
	2	からだほぐし運動1 楽しくできるウォーミングアップ運動					
	3	からだほぐし運動2 集団でできる運動あそび					
	4	創作ダンス1 学外研修における創作ダンスについての意義を理解し、創作活動を行う					
	5	創作ダンス2 創作ダンスの振り付けを考える					
	6	創作ダンス3 創作ダンスの細かな部分の修正					
	7	創作ダンス4 創作ダンスの発表、意見交換					
	8	ラジオ体操					
	9	バスケットボールの技術習得 ゲーム					
	10	バスケットボールの技術習得 ゲーム					
	11	バレー ボールの技術習得 ゲーム					
	12	バレー ボールの技術習得 ゲーム					
	13	ドッヂボールゲーム					
	14	レクリエーション					
	15	まとめ					
成績評価の方法		提出課題(30%)、実技発表(30%)、授業態度・意欲(40%)					
テキスト		なし					
参考文献・資料		なし					
事前・事後学習		授業内のゲームに備えるよう、日々の体力作りに努める。					

科目名	情報処理		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	杉館 俊彦	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	ITリテラシーを習得するため、パソコンの基礎からインターネットの活用まで実習を通して学ぶ。個人データの保護や著作権などに注意し効率よく作業できるようにする。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) ITリテラシーを高める 1) ローマ字入力をマスターし正確にスピーディな文書作成ができる 2) マウス操作の基本を理解し、移動・複製・拡大縮小がスムーズにできる (2) 個人情報の取り扱い、データの漏洩対策を理解する 1) 文書の共有は便利であるが反面取り扱いには慎重さを要求されることを理解できる 2) インターネットの利活用の注意点を理解する (3) 保育者に要求される様々な文書・集計等を短時間に正確に作成する能力を身に付ける 1) デジタルデータの特長を理解し、短時間で編集する能力を身に付ける 2) 複数のソフト間でコンテンツを利活用できる能力を身に付ける						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	本学パソコン室の機器の使用方法を説明。 マウス操作に習熟する。(ドラッグ・右クリック等) 「ペイント」ソフトを使い、イラストの作成・データの保管・読み込みを取得する。文章の効果的入力を習得する。 ・文節の切り方、再変換の技法を身に付ける						(1)-1) 2)
2	1)「ひよこ」の作成を通じ、画像の重なり・グループ化を学ぶ 2)「案内図・ウサギ」の作成を通じ图形の変形を学ぶ 3)「りす」画像作成を通じ曲線・フリーハンドの技法を学ぶ						(3)-1) 2)
3	1)「園おたより」を題材にワープロ文書の作成技法を学ぶ。 2) Wordのオートシェーブ機能を活用して簡単な、イラストを短時間で作成できる技法を学ぶ。						(2)-1)
4	3) イラストの入った「園おたより」を作成し、印刷まで学ぶ。 4) クリップアートとワードアートの技法を習得する。						(3)-1) 2)
5	1)「クラス表」の作成を通して簡単な表作成技術を学ぶ。 2)「年間カレンダー」の作成を通して、オートフィル機能・シートの複写技術を習得する。						(2)-1)
6	3)「児童台帳」の作成を通じて、入力規則を習得し卒園・入園・進級の操作技法を習熟する。データベース機能を理解する。						(3)-1) 2)
7	4)「身体計測記録台帳」の作成を通して、関数計算とグラフの作成方法を習得する。						
8							
9	1)「園おたより」を題材にワープロ文書の作成技法を学ぶ。						
10	2) Wordのオートシェーブ機能を活用して簡単な、イラストを短時間で作成できる技法を学ぶ。						
11	3) イラストの入った「園おたより」を作成し、印刷まで学ぶ。						
12	4) クリップアートとワードアートの技法を習得する。						
13							
14							
授業計画	15 16 17 18 19 20 21 22						
	1)「クラス表」の作成を通して簡単な表作成技術を学ぶ。 2)「年間カレンダー」の作成を通して、オートフィル機能・シートの複写技術を習得する。						(2)-1)
	3)「児童台帳」の作成を通じて、入力規則を習得し卒園・入園・進級の操作技法を習熟する。データベース機能を理解する。						(3)-1) 2)
	4)「身体計測記録台帳」の作成を通して、関数計算とグラフの作成方法を習得する。						
23	1) 暑中見舞いはがきの作成を通じ、差し込み印刷を理解し、縦書きの実習を行う。						
24	2) インターネットからの画像のダウンロードと図形の貼り込みを実習する。						(3)-1) 2)
25							
26							
27	1) プレゼンテーションソフトを活用した発表の準備を行う。						
28	2) プレゼンテーションソフトへの写真・イラストの貼り込みを通じてマルチメディアの有効活用ができようとする。アニメーションの使い方を理解する。						(2)-2)
29							
30							(3)-1) 2)
成績評価の方法	課題(80%)、授業態度・意欲(20%)						
テキスト	『保育者のためのパソコン講座 Windows7・Office2007/2010/2013対応版』(萌文書林)						
参考文献・資料							
事前・事後学習	授業の最後に次回講義の予告編として、教科書の該当ページ・身に付けるスキル名を説明と課題の概要を説明。教科書を読み、課題を理解しておくことを予習課題とする。						

科目名	音楽の理論と合奏		必修・選択	必修		授業形態	演習
担当者	東海林美代子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	子どもの音楽表現活動を支えるために必要な音楽の基礎理論を学び、楽譜を理解できるようにする。子どもが表現しやすい簡易楽器の基礎的奏法を習得し、全体およびグループでの合奏を通して表現する喜びを味わう。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 音楽の基礎理論を理解する</p> <p>1) 音符や休符、拍と拍子、小節、音名、奏法記号、速度記号等、楽譜に書かれている様々な要素に気付き、理解する。</p> <p>2) 音程や調について理解し、♯・♭ 5個までの長音階が弾け、書ける。</p> <p>(2) 簡易楽器の奏法を習得し、合奏を楽しむ</p> <p>1) カスタネット、すず、タンブリン等の基礎的な奏法を習得する。また、ミュージックベルやトーンチャイム、マリンバ等の演奏を体験し、アンサンブルを楽しむ。</p> <p>(3) 音楽の三要素の一つであるリズムについて、様々なリズムを経験する</p> <p>1) 複雑なリズムやリズムによるアンサンブルを楽しむ。</p>						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	保育における表現活動と音楽の役割 幼児が親しみやすい楽器 リズム遊び 楽器を用いた自己紹介					
	2	写譜 楽譜に書かれている様々な要素 音符と休符 拍と拍子 小節 リズム打ち(5拍子、7拍子)					
	3	音名 奏法記号 速度記号 リズム打ち(3拍子、9拍子)					
	4	音楽用語 全音と半音 リズムアンサンブル(3・5・7・9拍子)					
	5	全音と半音 音程(2音間のへだたり) リズム打ち(プリント)					
	6	確認テスト 音程(1度、4度、5度、8度、2度、3度) リズム打ち(プリント)					
	7	音程(6度、7度、まとめと練習問題) リズム打ち(プリント) 器楽合奏「聖者の行進」					
	8	確認テスト リズム打ち(プリント) 器楽合奏「おどろう楽しいポーレチケ」					
	9	いろいろな音階 リズム打ち(プリント) 器楽合奏「おどろう楽しいポーレチケ」					
	10	音階(長音階♯系) リズム打ち(プリント) ミュージックベル合奏「Are You Sleeping?」					
	11	音階(長音階♭系) リズム打ち(プリント) ミュージックベル合奏「手をたたきましょう」					
	12	音階と調 まとめ リズム打ち(プリント) ミュージックベル合奏「ラバースコンチェルト」					
	13	確認テスト(調について) リズム打ち(プリント) トーンチャイム合奏「大きな古時計」					
	14	演習テスト(長音階上行形のみを弾く) リズム打ち(プリント) トーンチャイム合奏「大きな古時計」					
	15	リズム打ち(プリント) 器楽合奏「ショップスティックス」 まとめ 授業評価					
成績評価の方法		授業態度・意欲(60%)、実技発表・演習テスト(40%)					
テキスト		なし(必要に応じてプリントを配布します) ※五線ノートおよび鍵盤ハーモニカ唄口を各自準備すること					
参考文献・資料		『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社)『聖歌集「神をたたえて」』(聖園学園短期大学)					
事前・事後学習		「音程」「音階」については、授業のノートを活用して十分に復習をすること。					

科目名	声楽 I		必修・選択	必修		授業形態	演習
担当者	櫻庭 優佳	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・通年
授業の概要及び全体目標	「歌うこと」は多くの子どもにとって最も身近な音楽表現方法である。幼児教育者として必要な歌唱に関する基礎的な知識と技能を身につけるとともに、音楽を積極的に楽しむ心と感性を養う。本学の行事等で演奏する聖歌や季節を感じる日本の歌などを合唱や少人数アンサンブルで演奏し、音楽体験を積み重ねることで、音楽への興味・関心を高め、理解を深める。						
一般目標(No.)及び到達目標No.)	<p>(1) 音楽の三要素（リズム・メロディー・ハーモニー）を理解し、歌唱することができる 1) 正しい音程・リズムで歌唱することができる 2) 少人数アンサンブルや合唱などにおいて、2声以上のハーモニーを美しく演奏できる 3) 正しいリズム・メロディー・ハーモニーを聞き分け、アンサンブルをより良いものにしようと努めている</p> <p>(2) ミサ曲や聖歌、子どもの歌などの歌唱を通して、歌にとっての良い発音や良い姿勢・表情について理解し、意欲的に体現しようとする 1) 姿勢や表情に気を付け、良い発声をしようと努めている 2) 人前で歌うことに慣れ、その楽しさを味わおうと努めている 3) 周りの人とともに声を合わせ歌うことの楽しさを分かち合うことができる</p>						
授業計画	授業回数	授業の内容					
	1	オリエンテーション 発声の基本について					
	2	ソルフェージュ① リズムについて～2拍子、3拍子、4拍子、6拍子を理解しリズム打ちする					
	3	ソルフェージュ② コールユーブンゲンを用いて～リズムや音程に気を付けて階名で歌う					
	4	ソルフェージュ③ ミニテスト～リズム打ちや視唱課題に挑戦する					
	5	ミサ曲・聖歌(1) ～み心のミサに向けて～① 18番「かいぬしづが主よ」音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					
	6	ミサ曲・聖歌(1) ～み心のミサに向けて～② 1番「あわれみの賛歌」42番「愛をください」音取りをし、練習する					
	7	ミサ曲・聖歌(1) ～み心のミサに向けて～③ 2番「栄光の賛歌」音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					
	8	ミサ曲・聖歌(1) ～み心のミサに向けて～④ 3番「感謝の賛歌」45番「神さまがわかるでしょ」音取りをし、練習する					
	9	ミサ曲・聖歌(1) ～み心のミサに向けて～⑤ 33番「ごらんよ空の鳥」音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					
	10	季節の歌(1) ～春・夏～① グループ毎に春・夏の歌を選曲し、発表に向けて練習に取り組む					
	11	季節の歌(1) ～春・夏～② グループ毎に選曲した歌について、練習を深める					
	12	季節の歌(1) ～春・夏～③ グループ毎に季節の歌を発表し、互いの演奏から学び合う					
	13	アルカデルト作曲Ave Maria① 言葉、発音、歌詞の意味について理解する					
	14	アルカデルト作曲Ave Maria② メロディーとアルトパートの音取りをし、どちらも歌えるようになる					
	15	アルカデルト作曲Ave Maria③ ソプラノ・アルトに分かれてパート練習に取り組み、より正確に歌えるようになる					
	16	アルカデルト作曲Ave Maria④ グループ毎に練習に取り組み、2声の少人数アンサンブルができるようになる					
	17	アルカデルト作曲Ave Maria⑤ 発表・ミニテスト～グループ毎に演奏し、互いの演奏から学び合う					
	18	ミサ曲・聖歌(2) ～クリスマスミサに向けて～① 26番「しずけき」30番「ああベトレヘムよ」音取りをし、練習する					
	19	ミサ曲・聖歌(2) ～クリスマスミサに向けて～② 27番「きたれ友よ」28番「まきびと」29番「もろびとこぞりて」を練習する					
	20	ミサ曲・聖歌(2) ～クリスマスミサに向けて～③ 7番「さやかに星はきらめき」音取りをし、2声の合唱ができるよう練習する					
	21	季節の歌(2) ～秋・冬～① グループ毎に秋・冬の歌を選曲し、発表に向けて練習に取り組む					
	22	季節の歌(2) ～秋・冬～② グループ毎に選曲した歌について、練習を深める					
	23	季節の歌(2) ～秋・冬～③ グループ毎に季節の歌を発表し、互いの演奏から学び合う					
	24	合唱を楽しむ① アンサンブルコンテストに向けてクラス合唱に取り組む					
	25	合唱を楽しむ② 課題曲・自由曲の音取りをする					
	26	合唱を楽しむ③ パート練習に取り組み、より正確な音程・リズムで歌えるようになる					
	27	合唱を楽しむ④ 歌詞の意味や音楽の特徴を捉え、より良い演奏を目指す					
	28	合唱を楽しむ⑤ 課題曲の演奏では身体表現も加え、より楽しいパフォーマンスになるよう工夫する					
	29	合唱を楽しむ⑥ クラスの仲間と互いの声をよく聴き合い、より良い響きを目指して練習に取り組む					
	30	声楽 I のまとめ 1年間の授業の成果として、クラス合唱を演奏・発表し、互いの演奏から学び合う					
成績評価の方法		実技テスト(20%)、授業内での演奏発表(20%)、授業態度・意欲(60%)					
テキスト		神原雅之 鈴木恵津子 監修・編著：『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 「聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)」					
参考文献・資料		その都度、提示や紹介、配布をする					
事前・事後学習		声楽 I では数多くの知らなかった歌を取り組む。新しい歌との出会いを前向きに捉え、授業前の譜読み、授業後の復習に積極的に取り組んでほしい。また、音程やリズム、発声について疑問や不安に思うことがあつたらその都度質問をし、練習に生かすこと。					

科目名	器楽Ⅰ(ピアノ)		必修・選択	必修		授業形態	演習
担当者	東海林美代子 他8名	担当形態	クラス分け	単位数	1	学年 期間	1年・通年
授業の概要及び全体目標	幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。 簡易伴奏による子どもの歌の弾き歌いができるようにする。 1時間に4～5名程度で個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。 入学時にすでに長期にわたるレッスン受講歴があり、基礎的な演奏技術を習得していると考えられる学生には、4名程度のグループレッスンにより、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 幼児教育者として必要なピアノの基礎的な演奏技術を習得する 1) テキスト中の「バイエル練習曲」他の楽曲に取り組み、音名、運指、リズム、諸記号を理解し演奏する。</p> <p>(2) 音楽に対する感性を磨き、表現力を高める 1) 他者の演奏を聞くことにより、楽曲への理解を深める。また、様々な楽曲を通して各楽曲の特徴を感じ取り、表現力の向上につなげる。</p> <p>(3) 子どもの歌を簡易伴奏によって弾き歌いができる 1) テキスト中の「子どもの歌」について曲想を理解し、ピアノ演奏ができ、弾き歌いができる</p> <p>※ピアノ経験の有無や個々の進度・能力に応じたレッスン形式で行うため、授業内容は個人により進め方等が異なる場合がある。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	事前学習課題「視唱課題」について、個々の取り組み内容を確認する						(1)-1), (3)-1)
2	事前学習課題「ピアノ」について、個々の取り組み内容を確認する 次回の課題を各自に課す						(1)-1)
3	テキストNo.22 同No.23						(1)-1), (2)-1)
4	No.27 No.29 No.30						(1)-1), (2)-1)
5	No.31 No.32 No.33						(1)-1), (2)-1)
6	No.38 「手をたたきましょう」						全項目
7	No.26 「ビーマーチ」「山の音楽家」						全項目
8	No.52 「むすんでひらいて」						全項目
9	「思い出のアルバム」「きよしこのよる」 個々の進度を考慮し前期試験曲を指導担当者との話し合いにより選曲する						全項目
10	チャペルコンサート「音楽と祈りの集い」において独唱、三重唱、オルガン独奏等を鑑賞し、ともに聖歌を歌うことで「み心のミサ」へ向けて気持ちを高める						(2)-1)
11	前期試験曲(例No.48)等						(1)-1), (2)-1)
12	前期試験曲(例No.48)等						(1)-1), (2)-1)
13	前期試験曲(例No.48)等						(1)-1), (2)-1)
14	前期試験(クラス単位で行う。クラス全員の前で1曲を暗譜で演奏し、全員の演奏も聴く公開形式とする)						(1)-1), (2)-1)
15	No.40 「大きな栗の木の下で」 前期試験結果と夏休み期間の課題について						全項目
16	No.40 「たなばたさま」						全項目
17	No.49 「お正月」						全項目
18	No.49 「おもちゃのチャチャチャ」						全項目
19	No.54 「おもちゃのチャチャチャ」						全項目
20	No.54 「おつかいありさん」						全項目
21	No.58 「おつかいありさん」						全項目
22	No.58 「あくしゅでこんにちは」						全項目
23	No.59 「ふしぎなポケット」						全項目
24	No.59 「こいのぼり」						全項目
25	No.62 「ハッピー・バースデー・トゥ・ユー」 これまで取り組んだ曲から指導担当者との話し合いにより後期試験曲を選曲する						全項目
26	No.63 「ゆき」 後期試験曲(例「ふしぎなポケット」)						全項目
27	No.63 後期試験曲(例「ふしぎなポケット」)						全項目
28	後期試験曲(例「ふしぎなポケット」)						全項目
29	後期試験(クラス単位で行う。クラス全員の前で弾き歌い曲1曲を暗譜で演奏し、全員の演奏も聴く公開形式とする)						全項目
30	No.64 次年度へ向けて取り組む曲を選曲する						全項目
成績評価の方法	実技試験(50%)、授業態度・意欲(50%)						
テキスト	東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) 上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する						
参考文献・資料	『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)						
事前・事後学習	毎回課題を十分に練習し授業に臨むこと。練習については毎日行うことが望ましい。						

科目名	幼児造形Ⅰ		必修・選択	必修		授業形態	演習						
担当者	小笠原 京子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・前期						
授業の概要及び全体目標	つくりだす喜びや楽しさを味わいながら造形的な創造性を培うとともに、造形表現に関する知識技能を習得することや幼児の表現の姿や発達、環境構成の大切さについて理解する。												
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 制作活動を通して、造形することの楽しさや喜びを味わうとともに、表現に関する基礎的な知識や技能を習得し、創造性や感性を豊かにする。</p> <p>1) 自らの発想や構想で制作する楽しさを味わおうとすることができます。</p> <p>2) 色彩の基本原理や配色の調和、基本形の作り方など、色や形の基本を理解することができます。</p> <p>3) 造形材料、素材の持つ性質や特徴、技法等を理解し、制作することができます。</p> <p>4) 自然の造形や生活をより豊かにする美術の働きに関心を持つことができる。</p> <p>(2) 幼児の表現の姿やその発達過程について理解し、環境構成の大切さに関心を持つことができる。</p> <p>1) 乳幼児期の描画活動の発達段階について理解することができます。</p> <p>2) 幼児の表現する過程を理解し、素材や用具等の環境構成に関心を持つことができる。</p>												
授業 回数 授 業 計 画	授業の内容	関連する 到達目標番号											
	1 ガイダンス 授業内容の確認 各自準備するもの等を確認する。 表現することとは 原始の時代や幼児の造形表現について触れる。	(1)-4) (2)-1)											
	2 色彩の基礎 色の三要素、三原色、有彩色、無彩色等に触れ、水彩絵の具を使って三原色から色相環を制作する。	(1)-2)											
	3 描画素材の体験Ⅰ 描画表現のさまざまな技法を体験する。クレヨン、クレパス、パステル、水彩絵の具の特色	(1)-2)											
	4 描画素材の体験Ⅱ スクラッチ、フロッタージュ、ステンシル、デカルコマニーにじみ、ぼかし、バチックなどの技法について知り、制作する。	(1)-2)											
	5 見て描く活動 季節の草花を描く。	(1)-2) 3)											
	6 動くおもちゃ いくつかの「動くおもちゃ」のしくみについて知る。	(1)-1) 3)											
	7 メリーゴーランドの制作Ⅰ 構想を練り、使う素材等について検討する。	(1)-1) 3)											
	8 メリーゴーランドの制作Ⅱ 自然素材、紙、毛糸、モール、紙粘土等を使い、下げる物を作る。	(1)-1) 3)											
	9 メリーゴーランドの制作Ⅲ 土台や屋根などの工夫とともに、回るしくみを考え、実際に回るように完成させる。	(1)-1) 3)											
	10 ペーパークラスト さまざまな紙の持つ性質を知り、ペーパークラストの基本やさまざまな模様に展開できる五角形、六角形の基本形の作り方を学ぶ。	(1)-2)											
	11 飛び出すカードⅠ 切る、折るなどの技法を使い、飛び出すしくみを理解する。 数種類のしくみを試作する。	(1)-2) 3)											
	12 飛び出すカードⅡ 飛び出すしくみを選択し、テーマに沿ってプレゼントするカードを制作する。	(1)-1) 3) 4)											
	13 紙版画の制作 凸版、凹版の実際を知り、紙、布を使って作品を制作する。	(1)-1) 3) 4)											
	14 幼児の絵について 子どもの発達段階と子どもの絵の特徴についての理解を深める。	(2)-1)											
	15 幼児の表現活動について 幼児の絵を鑑賞しながら、よみとりを検討し、幼児の表現活動の指導について知る。	(2)-1) 2)											
成績評価の方法	提出課題(50%)、授業態度・意欲(50%)												
テキスト	なし												
参考文献・資料	『色彩ナビ』(財団法人日本色彩研究所) 楳 英子『保育をひらく造形表現』(萌文書林)												
事前・事後学習	事前準備として、制作に関する自分なりのイメージや構想を持って授業に臨むこと。事後学習としては、雑な制作に終了せず不足なところは補充し、発展的な構想、制作となるよう努めて欲しい。												

科目名	福祉基礎理論		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義
担当者	藤原 法生	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	社会福祉の理念や歴史的変遷を踏まえて、現代の状況・取り組み・課題等について学び、福祉の実現について理解する。また、社会福祉における保育士の役割についても理解する。 日常生活に関連する身近な情報を活用し、学生間で情報交換をしながら具体的な学びができるような授業構成とする。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 社会福祉の意義や歴史的変遷について理解する。 1) 社会福祉の理念や概念を理解している。 2) 社会福祉の歴史と現状を理解している。 (2) 社会福祉の領域や制度について理解する。 1) 社会福祉と子ども家庭福祉の領域・関連性を理解している。 2) 社会福祉の制度と法体系を理解している。 (3) 社会福祉における相談援助や利用者の権利について理解する。 1) 相談援助の意義について理解している。 2) 利用者の権利について理解している。 (4) 地域における社会福祉の現状と展望について理解する。 1) 地域の環境と課題や、地域住民を含む連携のあり方について理解している。						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	社会福祉の理念と概念 社会福祉と子ども家庭福祉					(1)-1)
	2	現代社会の理解 少子高齢社会、家族と地域の変化					(1)-2)
	3	社会福祉の歴史的変遷					(1)-2)
	4	社会福祉の制度と実施体系 法体系、国と地方の行政機関、財政					(2)-1) 2)
	5	社会保障制度 社会保障制度の概要、医療保険、年金保険					(2)-1) 2)
	6	公的扶助 生活保護法の目的、原理・原則					(2)-1) 2)
	7	公的扶助 扶助の種類と内容、実施体制、動向					(2)-1) 2)
	8	高齢者福祉 高齢者の理解、高齢者福祉の理念、法体系					(2)-1) 2)
	9	高齢者福祉 介護保険制度					(2)-1) 2)
	10	障害者福祉 障害の理解、障害者福祉の理念					(2)-1) 2)
	11	障害者福祉 障害者福祉の法体系、障害者福祉対策					(2)-1) 2)
	12	社会福祉における相談援助と社会福祉のマンパワー 相談援助の意義、社会福祉のマンパワーと連携					(3)-1)
	13	利用者保護 利用者の権利、情報提供、第三者評価、苦情解決					(3)-2)
	14	地域の福祉 地域福祉の現状、地域福祉の理念					(4)-1)
	15	地域の福祉 地域住民を含む社会資源とその連携、今後の展望					(4)-1)
成績評価の方法		定期試験(80%)、授業・ディスカッションへの参加態度(20%)					
テキスト		直島正樹、原田旬哉 編著:『図解で学ぶ保育 社会福祉』(萌文書林)					
参考文献・資料		『社会福祉小六法 2018』、その他必要に応じて提示					
事前・事後学習		事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。 関連する新聞記事やニュースからも情報を得て学習を深めること。					

科目名	児童福祉と家庭		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義		
担当者	藤原 法生	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期		
授業の概要及び全体目標	<p>子ども家庭福祉の理念や歴史的変遷を踏まえて、現代の状況・取り組み・課題等について学び、子ども家庭福祉の実現について理解する。また、福祉の実現のために保育士が果たすべき役割についても理解する。</p> <p>子どもや家庭に関する身近な情報を活用し、学生間で情報交換をしながら具体的な学びができるような授業構成とする。</p>								
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 子ども家庭福祉の意義や歴史的変遷について理解する。 1) 子ども家庭福祉の理念や子どもの権利を理解している。 2) 子ども家庭福祉の歴史と現状を理解している。</p> <p>(2) 子ども家庭福祉の領域や制度について理解する。 1) 子ども家庭福祉の制度と法体系を理解している。 2) 児童福祉施設の体系と概要を理解している。 3) 子ども家庭福祉の現状と課題について理解している。 4) 子ども家庭福祉の専門職について理解している。</p> <p>(3) 地域における子ども家庭福祉の現状と展望について理解する。 1) 地域の環境と課題や地域住民を含む連携のあり方について理解している。</p>								
授業 計 画	授業回数	授業の内容				関連する 到達目標番号			
	1	社会福祉・子ども家庭福祉の理念と概念 福祉と保育				(1)-1)			
	2	子ども家庭福祉の現状 少子社会、子どもと家庭を取り巻く環境				(1)-2) (2)-3)			
	3	子どもの権利保障				(1)-1)			
	4	子ども家庭福祉の歴史的変遷				(1)-2)			
	5	子ども家庭福祉の制度と実施体系 法体系、国と地方の行政機関、財政				(2)-1)			
	6	児童福祉施設等 児童福祉施設の規定、体系、サービス提供の方法				(2)-1) 2)			
	7	児童福祉施設の概要 保育所、幼保連携型認定こども園、乳児院				(2)-1) 2)			
	8	児童福祉施設の概要 児童養護施設				(2)-1) 2)			
	9	児童福祉施設の概要 母子生活支援施設、障害児入所施設、児童発達支援センター				(2)-1) 2)			
	10	家庭への福祉サービス 子育て支援サービス、保育サービス				(2)-3)			
	11	家庭への福祉サービス 社会的養護				(2)-3)			
	12	家庭への福祉サービス 児童虐待、DV				(2)-3)			
	13	家庭への福祉サービス 障害がある児童				(2)-3)			
	14	子ども家庭福祉の専門職				(2)-4)			
	15	地域における子ども家庭福祉の現状と展望 地域住民を含む社会資源と連携				(3)-1)			
成績評価の方法		定期試験(80%)、授業・ディスカッションへの参加態度(20%)							
テキスト		喜多一憲 監修、堀場純矢 編集：『児童家庭福祉』(みらい)							
参考文献・資料		『社会福祉小六法 2018』、その他必要に応じて提示							
事前・事後学習		事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。 関連する新聞記事やニュースからも情報を得て学習を深めること。							

科目名	子どもの保健ⅠA		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義
担当者	高橋 美砂子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	<p>子どもの健やかな成長に欠かせない年齢に応じた成長発達の知識を理解すると共に、健康的な生活習慣への支援及び社会支援のあり方を考え、保育者としての態度を身につける。</p> <p>子どもの病気や不慮の事故に対して、予防及び初期対応できる知識を身につけ、育児する親への支援ができる。</p>						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 小児に関する施策を学び、小児各期の健康問題を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児の諸統計を理解し、社会の変遷、今後の子育て支援のあり方を考える。 2) 小児各期の健康問題を理解し、自己の生活習慣及び健康管理について認識する。 <p>(2) 小児の成長発達及び健康的な生活習慣の支援を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 成長発達の原則、運動機能、生理機能の発達を理解する。 2) 人間性の発達課題を理解し、情緒社会性の発達支援する関わりができる。 <p>(3) 小児の病気や不慮の事故への対処を理解できる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 主な子どもの病気及び症状に対する対処を理解する。 2) 不慮の事故を予防する保育者としての自覚をもつ。 <p>(4) 子どもの障害や健康問題を抱える親子への関わり方を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの健康問題を抱える親の気持ちを理解する。 2) 親子に寄り添い支援する態度を身につける。 						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	我が国的小児の諸統計、人口動態、乳児死亡率 小児に関する施策、健やか親子21、少子化対策についてグループワーク					
	2	生命の誕生、月経周期 児童虐待予防の母子保健対策、虐待の背景についてグループワーク					
	3	小児各期の健康問題、年齢別死亡順位、SIDS、女性の喫煙の影響 不慮の事故、10代の自殺予防対策についてグループワーク					
	4	小児の成長発達の原則、身長・体重、発達評価 子どもの発達と支援(DVD)					
	5	新生児の特徴、先天性代謝異常検査 消化機能の特徴、母乳栄養、授乳中の飲酒の影響、卒乳					
	6	呼吸器、循環器の特徴、胎児循環 血液、免疫の特徴、自律神経を鍛え病気を予防する体づくり					
	7	脳と脳神経の発達、感覚器の発達 乳児の脳神経発達と反射(DVD) 子どもの脳と慢性疲労、メディアと健康問題					
	8	人間性の発達課題、エリクソンの発達課題と接し方の基本 自己の発達課題を振り返り、自己肯定する(レポート)					
	9	子どもの病気の理解、病児への対応の原則 主な症状への対処、熱性けいれんとてんかん					
	10	感染予防と対策、発疹を伴う主な病気 予防接種ワクチンと適応、副作用、予防接種対象疾患					
	11	先天奇形、代謝異常、ダウン症候群 障害児の生活支援、障害児を産んだ親の反応(DVD母子病棟)					
	12	血液疾患、鉄欠乏性貧血、紫斑病、血友病、白血病 闘病を支える親と妹(DVD母子病棟53')					
	13	アトピー性皮膚炎、子どものスキンケア、川崎病 扁桃炎、仮性クループ、気管支喘息、肺炎					
	14	先天性心疾患の児に対する園での対応、肥厚性幽門狭窄症、腸重積、虫垂炎、感染性胃腸炎、周期性嘔吐					
	15	小児糖尿病、甲状腺機能低下・亢進、尿路感染症、糸球体腎炎、慢性疾患を抱える親子の支援					
成績評価の方法		定期試験(100%)					
テキスト		佐藤益子:『子どもの保健ⅠA』(ななみ書房)					
参考文献・資料		小西 行郎:『赤ちゃんと脳科学』(集英社) 服部 祥子:『生涯人間発達論』(医学書院)					
事前・事後学習		子ども健全な成長発達及び病児・病後児保育を支援できるよう親子に寄り添う感性を深める必要がある。					

科目名	子どもの保健Ⅱ		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	演習
担当者	高橋 美砂子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	<p>子どもの成長発達が、個々の素因と養育環境に関わっていることを理解し、子どものシグナルを読み取れる感性を育む。</p> <p>子どもの生活習慣と心身の健康を支援できる技術を身につけ、日常生活養護の知識を身につける。</p> <p>事故への初期対応を理解し、乳幼児の特徴に合わせて不慮の事故及び感染症を防ぐ安全な環境を整える態度を身につける。</p>						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 子どもの成長発達を促す関わり方・乳幼児健康管理について理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの育ち、母子相互作用を理解し、自己の育児観を養う。 2) 乳幼児健康診査での健康管理を学び、自己の成長発達を振り返ることができる。 <p>(2) 子どもの健康増進のための生活習慣と養護の知識を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの生理機能の発達に合わせた生活習慣を理解する。 2) 乳幼児の日常生活養護の技術を身につけ、養護の知識を理解する。 <p>(3) 乳幼児の特徴を理解し、不慮の事故及び感染症を防ぐ安全への配慮を身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 子どもの事故への初期対応を理解する。 2) 日常生活を振り返り、不慮の事故を防ぐ安全への配慮を身につける。 3) 集団生活の園での感染予防対策を理解する。 						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	子どもの保健とは、園での保健活動と保育士の役割、自己の保育観(レポート) 赤ちゃんからのメッセージ(DVD)					(1)-1) (3)-2) 3)
	2	身体計測(身長・体重・頭囲)、発育の評価、園での身体計測の意義					(2)-2)
	3	園での設備の衛生管理 園での衛生教育、手洗い、うがい、歯磨き、乳歯の虫歯予防					(2)-2) (3)-3)
	4	乳幼児の睡眠の特徴、園での午睡中の事故防止、育児のマニュアル(DVD)					(2)-1)
	5	排泄の習慣、おむつ交換、おむつ離れ、夜尿症の児への対応					(2)-1) 2)
	6	乳幼児の衣類、着脱、乳児の抱き方・背負い方					(2)-1) 2)
	7	母乳栄養、人工栄養、調乳、授乳方法、卒乳					(2)-1) 2)
	8	乳児の沐浴					(2)-1) 2)
	9	小児の水分代謝、子どもの体温の特徴、体温測定、低体温の影響					(2)-1)
	10	園での感染予防対策、迅速診断の意義(溶連菌、マイコプラズマ、インフルエンザ) 病児・病後児保育					(3)-3)
	11	子どもの病気の理解、病児への対応 子ども病院での保育士の役割					(3)-3)
	12	乳幼児健康診査、各月年齢に合わせた健康管理 母子手帳により自己の成長発達をレポート					(1)-1) 2)
	13	事故防止と安全教育、乳幼児の特徴と不慮の事故の現状 子どもを不慮の事故で亡くすということ					(3)-1) 2)
	14	主な事故への対処					(3)-1) 2)
	15	子どもの救命救急、心肺蘇生法・AEDの実技 (秋田市消防本部救急隊救命士による指導)					(3)-1) 2)
成績評価の方法		定期試験(80%)、授業態度(20%)					
テキスト		佐藤益子編:『子どもの保健Ⅱ』(ななみ書房)					
参考文献・資料		山本恵子監:『写真でわかる小児看護技術』(インターメディカ) 五十嵐隆:『目出見る小児救急』(文光堂)					
事前・事後学習		子どもへの関心を高め養護技術を身につけるよう主体的に演習に臨み、振り返ることで学びを深め、自己の育児観を持てるよう期待する					

科目名	小児栄養		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	演習
担当者	佐々木三津子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	<p><概要> 小児栄養は身体発育や精神発達という特徴があることを知る。また、食習慣及び生活習慣の基礎が形成される大切な時期であることを理解する。各期(乳児期・、幼児期・、学童・思春期)の栄養と食生活の特徴を学ぶ。</p> <p><全体目標> 栄養については、人の一生、ライフサイクルに沿って広く関心を持ち食生活の意義や栄養に関する基本的な知識を学ぶ。子どもの食にかかわる扱い手としての役割を学ぶ。</p>						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 栄養について基本的知識を学び実践力を高めることを目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 小児期は栄養状態の適否が発育・発達に影響することを理解する。 2) 成人期と異なる栄養と食生活の特徴を理解する。 3) 食育に関する基本的知識を学びその大切さを理解する 4) 調理実習を通じ適切なコミュニケーション、作業効率を考えた手順等を習得する 						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	授業内容、進め方 小児期の特徴・小児期の栄養と食生活					
	2	栄養の定義、栄養素について					
	3	小児の食物摂取基準 栄養評価について					
	4	日本人の食事摂取基準(2015年版)、合理的な食生活をするための献立・調理について					
	5	乳汁栄養、離乳栄養について					
	6	幼児期栄養の特徴と必要性 栄養生理・栄養上の注意等について					
	7	学童・思春期における心身の発達に対して払うべき栄養上の配慮、摂取上の問題点等について					
	8	食育の基本 小児期における食育 指導媒体について 食育の扱い手として実践力に結びつける					
	9	生涯発達について 家庭の食事と栄養の特徴					
	10	食品の選び方 食の安全性					
	11	集団における給食について 障害のある子どもの摂食と栄養について 食物アレルギーの食事と栄養管理について					
	12	疾病および体調不良時の栄養管理について					
	13	調理実習(1)離乳期の献立・幼児期の間食の献立					
	14	調理実習(2)幼児期の献立・食育クッキング					
	15	授業のまとめ					
成績評価の方法		定期試験(85%)、調理実習評価(実習態度・意欲・協調性)(15%)					
テキスト		『新版 子どもの食生活・栄養、食育、保育-』(ななみ書房)					
参考文献・資料		授業の中で適宜紹介する					
事前・事後学習		事前・事後学習 1~12回 テキスト第2部、第3部を参照し要点を把握する 事前学習 13~14回 調理実習は手順、役割分担を各班で確認する。					

科目名	保育者論		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	加藤 順子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	現代社会における教職・保育職の重要性の高まりを背景に、教職・保育職の意義、教員・保育者の役割・資質能力・職務内容等について身に付け、教職・保育職への意欲を高め、さらに適性を判断し、進路選択に資する教職・保育職の在り方を理解する。話合いや発表を通して主体的・対話的に学び、教職・保育職について理解を深める。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 我が国における今日の学校教育や保育、教職・保育職の社会的意義を理解する。 1) 公教育・保育の目的とその担い手である教員・保育者の存在意義を理解している。 2) 進路選択に向け、他の職業との比較を通して、教職・保育職の職業的特徴を理解している。</p> <p>(2) 教育・保育の動向を踏まえ、今日の教員・保育者に求められる役割や資質能力を理解する。 1) 教職観・保育職観の変遷を踏まえ、今日の教員・保育者に求められる役割を理解している。 2) 今日の教員・保育者に求められる基礎的な資質能力を理解している。</p> <p>(3) 教員・保育者の職務内容の全体像や教員・保育者に課せられる服務上・身分上の義務を理解する。 1) 乳幼児への指導・援助及び指導・援助以外の園務等を含めた教員・保育者の職務の全体像を理解している。 2) 教員・保育者研修の意義及び制度上の位置付け並びに専門職として適切に職務を遂行するため生涯にわたって学び続けることの必要性を理解している。 3) 教員・保育者に課せられる服務上・身分上の義務及び身分保障を理解している。</p> <p>(4) 幼稚園・保育施設等の担う役割が拡大・多様化する中で、園・施設等が内外の専門家等と連携・分担して対応する必要性について理解する。 1) 園・施設内の教職員や多様な専門性を持つ人材と効果的に連携・分担し、チームとして組織的に諸課題に対応することの重要性を理解している。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	保育者の役割 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の役割と専門性、子育て支援における役割						(1)-1) 2) (2)-1)
2	保育者の倫理 専門的倫理の概念と法律、服務上・身分上の義務、専門的倫理を高めるために						(3)-3)
3	保育者の資格と責務 幼稚園教諭・保育士・保育教諭の資格とその要件、職務、研修						(1)-2) (3)-2) 3)
4	養護と教育 養護と教育の内容、養護と教育が一体となった保育						(3)-1)
5	保育者の資質と能力 保育者に求められる資質能力、子どもの育ちを支える専門職の資質能力						(2)-1) 2)
6	専門的な知識・技術・判断 保育者の専門的知識・技術・判断とは何か						(2)-2)
7	保育の省察 省察とは、記録を用いた省察、保育者の専門性としての省察						(3)-1)
8	教育・保育の全体的な計画に関わる保育者の専門性 子どもの主体性を尊重する教育・保育の展開、子どもの発達過程を見通した計画						(3)-1)
9	教育・保育の計画と保育者の専門性 環境を通して行う教育・保育、遊びを通しての指導・援助、育みたい資質能力						(3)-1)
10	保育者の専門性と自己評価 教育・保育の質の向上と評価、自己評価の基本、教育・保育の質と今後の課題						(2)-1) (3)-2)
11	チーム学校運営への対応 1 幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園での協働 組織体制の構築、職員間の連携、情報提供と協働、ドキュメンテーションと協働						(4)-1)
12	チーム学校運営への対応 2 専門機関との連携 医療機関・保健機関・療育機関・教育機関等との連携						(4)-1)
13	保護者及び地域社会との協働 保護者との連携、地域社会との連携、小学校等との連携、家庭的保育者との連携						(1)-1) (4)-1)
14	保育者の専門性の発達 保育者としての発達の道筋、保育者の専門的成长						(3)-2)
15	保育者のキャリア形成 教育・保育の場における学び、保育者の資質向上、保育者のキャリア形成						(3)-2)
成績評価の方法	定期試験(50%)、提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)						
テキスト	児童育成協会 監修 矢藤誠慈郎・天野珠路 編:『基本保育シリーズ7 保育者論第2版』(中央法規出版)						
参考文献・資料	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						
事前・事後学習	授業内容と関連するテキスト部分を事前に読み学習する。授業後、学習内容をまとめて理解を深める。子ども、教育、保育、家庭に関するニュースや記事に关心をもつ。						

科目名	保育の基礎理論		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義
担当者	佐々木 啓子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	子どもの育ち、保育の意義、保育制度・歴史など、保育者として知っておく必要がある基本的な理論や知識について学ぶ。また、保育のしくみ、保育の計画、保育方法など日常の保育を支える理論や人的環境としての保育者の役割について理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1)「幼児理解」のために、保育者が子どもをどのように理解し、保育につなげていくのかという視点をもち、保育の意義や保育の基本について理解する。</p> <p>1) 保育に関する専門的知識を習得し、保育実践に向けての基本的な考え方を身につける。 2) 子どもの育ちを理解し、発達過程に応じた援助や環境構成の重要性を理解する。 3) 保育の内容と方法について理解する。</p> <p>(2) 日本の保育や西洋の保育の歴史及び思想について学び、過去から現在に至るまでの保育の変遷を理解する。</p> <p>1) 家庭や子どもも、社会に関わる保育の歴史や保育の思想を理解する。 2) 保育の思想と歴史的変遷を学び、現在の保育に対応する保育のあり方を考えることができる。 3) 現代社会における保育の課題を歴史的な視点から考えることができる。</p>						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	保育の基本(1) 子どもの最善の利益と保育					(1)-1) 2) 3)
	2	保育の基本(2) 保育の社会的役割と責任					(1)-1) (2)-3)
	3	保育における子ども理解 「子ども観」・「保育観」と保育					(1)-1) 2)
	4	保育の歴史(1) 日本の保育施設の誕生と思想					(2)-1) 2) 3)
	5	保育の歴史(2) 諸外国の保育施設の誕生と思想					(2)-1) 2) 3)
	6	保育の制度 日本の保育制度、諸外国の保育制度					(2)-1) 2)
	7	保育の特性 環境を通して行う教育、発達過程に応じた保育					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)
	8	保育の内容 保育のねらいと内容、領域の考え方					(1)-1) 2) 3)
	9	保育の方法(1) 保育形態と保育方法、生活と遊びを通した総合的な保育					(1)-1) 2) 3)
	10	保育の方法(2) 幼児期にふさわしい生活、個と集団を生かした保育					(1)-1) 2) 3)
	11	保育の計画と実践(1) 保育計画の意義、保育課程と指導計画					(1)-1) 2) 3)
	12	保育の計画と実践(2) 長期指導計画と短期指導計画、指導計画作成の留意点					(1)-1) 2) 3)
	13	保育の実践・評価 省察・評価の意義、保育の評価と改善					(1)-1) 2) 3) (2)-3)
	14	保育の現状と課題 家庭との連携、特別な配慮を必要とする子どもへの対応					(1)-1) 2) 3)
	15	保育者の専門性 保育の質を高めるための保育者の資質・能力					全項目
成績評価の方法		定期試験(70%)、提出課題(10%)、授業態度・意欲(20%)					
テキスト		森上史朗・大豆生田啓友編:『よくわかる保育原理』(ミネルヴァ書房)					
参考文献・資料		厚生労働省編:『保育所保育指針解説書』(フレーベル館)、森上史朗・柏女靈峰編:『保育用語辞典』(ミネルヴァ書房)					
事前・事後学習		現代社会の子どもをめぐる様々な問題に興味・関心をもって、意欲的な態度で授業に臨んでくれることを期待する。授業後には授業内容についてのふりかえり用紙を記入し、自分なりの子ども観・発達観・保育観を語ることができるようになってほしい。					

科目名	社会的養護Ⅰ		必修・選択	選択(保育必修)		授業形態	講義
担当者	佐々木久仁明	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	児童の社会的養護について、児童家庭支援体系を通して児童の発達保障(権利擁護)とその自立を支援していくことを理解し、保育士が社会的養護の中で取るべき倫理性を含む基本的な児童の関わりのあり方や支援の連携、児童養護の社会的・歴史的背景を理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 社会的養護の定義や必要性、その仕組み及び実施体系を理解する。 1) 国、地方公共団体、児童相談所、児童福祉審議会、福祉事務所、保健所、その他の役割を理解している。 2) 児童福祉施設、里親(ファミリーホーム含)、養子縁組制度の対象児童と機能及び役割を理解している。</p> <p>(2) 子どもと家庭を取り巻く社会的状況と対応を理解する。 1) 家庭養育上の問題、非行や心身の障害を抱えた児童等要養護問題の発生要因とその対応について理解している。 2) 児童養護の歴史的変遷及び児童福祉の先駆者たちを学び、今日の国際諸規約・宣言にたって児童福祉の方向について考えることができる。</p> <p>(3) 社会的養護の実践とその基本的原理を理解する。(職員の仕事と専門性の理解) 1) より家庭に近い養育環境の中で、日常的支援を行い子どもの権利擁護と自立支援の実際について理解している。 2) 入所前後から退所前後のケアの流れとその留意点、施設設備等の最低基準について理解している。</p>						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	社会的養護とは何か。その定義、体系、必要性、用語の統一。(家庭養育・家庭養護・家庭的養護) 児童の権利と擁護と国際規約・宣言。(経過・要点)					(1)-1) 2) (2)-2)
	2	権利擁護と自立支援をめざす社会的養護における保育士の仕事。 社会的養護における児童観の変遷。子どもの権利意識、基本的ニーズの変化。					(3)-1)
	3	子どもと家庭を取り巻く社会変化、家庭養育力・地域子育て力の弱体、養護問題発生原因の多様。子ども・家庭の意識変化、ライフサイクルの変化。					(2)-1)
	4	増え続ける児童虐待、通告相談件数の年次動向、児童虐待発生の要因。 児童虐待の定義と児童虐待防止法。					(1)-1) (2)-1)
	5	代理ミンヒハウゼン症候群、心中、車中に放置、留守中の火事など様々な虐待がある。児童虐待保護者支援と家族再結合、その問題点、チェックリストの活用。(必ずしも物理的統合でなくても)					(2)-1)
	6	欧米における社会的養護の歴史、エンクロージャー、産業革命=貧困層の多出と民間や宗教による救済。児童福祉の基盤整備、救貧法と称する貧困者の管理、児童や女子は安い労働力、工場法の成立、ロバート・オーウェンの活動。					(2)-2)
	7	欧米における社会的養護の歴史(その2)、第二次大戦後の児童福祉の展開。イギリスではペヴァリッジ報告、カーティス報告、アメリカではニューディール政策と社会保障法。					(2)-2)
	8	日本における社会的養護の歴史(戦前と戦後に分けて)様々な自然・社会事象と子女たち。孤児、貧児、障害児、非行児等への救済事業を行った先駆者たち。					(2)-2)
	9	戦後における法的整備の事など。主に、児童福祉法、国際条約の批准、ホスピタリズム論争と児童の養育環境の整備向上。家庭的・治療的養護。					(2)-2)
	10	社会的養護の支援体系(図)・補完的・支援的・治療的・代替的・再構築的養護の支援・組織の機能・国・地方公共団体・児童相談所・児童施設・関係機関・里親					(1)-1) 2)
	11	里親制度の現況と課題。児童養護の方向～より家庭に近い養育環境の提供、地域共同(ノーマライゼーション)、里親養育の推進。					(1)-2)
	12	社会的養護の専門職として・保育士・児童指導員・自立支援専門員・生活指導員など。専門職とは何か及び要件 国家資格・任用資格・倫理綱領について。					(3)-1) 2)
	13	児童虐待問題に対応するための職種として・家庭支援専門相談員・心理療法担当職員・個別対応職員などがある。その資格要件、業務内容、ワーカビリティーとは。					(2)-1) (3)-1)
	14	社会的養護の基本原理として社会的養護施設関係の運営指針にある6項目(1)家庭的養護の個別化(2)発達保障と自立支援(3)回復をめざした支援(4)家族との連携協力(5)継続支援と連携アプローチ(6)ライフサイクルを見通した支援					(3)-1) 2)
	15	施設における養育の基本として入所前後から退所前後に4つのケアの流れ(アドミッション、イン、リービング、アフターの各ケア過程)がある。うち自立支援事業としての分園型自活訓練事業はリービング、自立生活援助事業はアフターである。					(3)-1) 2)
成績評価の方法		定期試験(80%) 提出課題(10%) 授業態度・意欲(10%)					
テキスト		新保育士養成講座編纂委員会編:『改訂新保育士養成講座 第5巻社会的養護』(全国社会福祉協議会) 『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房)					
参考文献・資料		『社会福祉基本用語集』(ミネルヴァ書房) ○資料についてはその都度提示します。					
事前・事後学習		用語(特にカタカナ語)の意味を正しく覚えることが大切です。そのためにも参考文献の“用語集”などを活用して、主に事後の学習に努めてください。					

科目名	保育の心理学Ⅰ		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義
担当者	武田 留美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	保育士として子どもに接するにあたり、子どもの発達及び保育に関わる心理学の基礎の理解は不可欠である。特に乳幼児は人生の中で最も変化の大きい時期であり、各発達段階における特徴を理解し、対応していくことが求められる。乳幼児の発達理解と子ども理解を深め、初期経験の重要性と人との相互の関わりの重要性を理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 乳幼児の発達に関する基礎知識を習得する 1) 保育実践に関わる心理学用語について理解する。 2) 発達理解の視点を学ぶ。 3) 乳幼児の様々な能力の発達を理解する。 4) 評価の意義や目的に合わせた観察法の基礎を理解する。 (2) 様々な発達理論を理解する 1) 愛着の重要性を理解する。 2) 人との相互的な関わりの重要性を理解し保育のあり方を考えることができる。 (3) 各発達段階の特徴と発達課題を理解する 1) 初期経験の重要性を理解する。 2) 各発達段階での発達課題を理解し、対応の仕方が考えられる。						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	「発達」とは何か、子どもの発達を理解する視点を学ぶ。 DVD『赤ちゃんの成長と発達』視聴					(1)-2) 3)
	2	発達観、子ども観の様々な視点と保育観					(1)-1) 2)
	3	保育実践の評価と子どもの評価の理解する 評価をする意義を考える					(1)-4)
	4	子どもの発達理解：子どもの発達と環境の関わり					(1)-3)
	5	子どもの発達理解：感情の発達と自我					(1)-3)
	6	子どもの発達理解：身体機能と運動機能の発達					(1)-3)
	7	子どもの発達理解：知覚と認知の発達、思考の発達、記憶の発達					(1)-3)
	8	子どもの発達理解：言葉の発達と社会性、「話す、伝える、考える」発達					(1)-3) (2)-2)
	9	人との相互の関わりの発達：基本的信頼感の発達、母子相互作用、愛着					(2)-2)
	10	人との相互の関わりの発達：愛着の発達と仲間関係					(2)-1) 2)
	11	生涯発達と初期経験の重要性：障害発達と発達援助、ライフサイクルと漸成、初期経験					(3)-1)
	12	胎児期及び新生児期の発達：反射と行動、環境と健康・障害					(3)-2)
	13	乳幼児期の発達					(3)-2)
	14	児童期から青年期の発達					(3)-2)
	15	成人期、老年期の発達					(3)-2)
成績評価の方法		定期試験(70%)、提出課題(15%)、授業態度・意欲(15%)					
テキスト		長谷部比呂美、日々暁美、山岸道子著：『保育の心理を学ぶ』(なみ書房)					
参考文献・資料		その都度、提示や紹介をする。					
事前・事後学習		初めて出会う用語なども多くなるため、指定した範囲の教科書を読んでおくこと。保育や子どもに関する報道やニュースなど、子どもにかかわる時事問題について興味を持って把握しておくこと。					

科目名	保育内容の指導法 人間関係		必修・選択	必修		授業形態	(演習)
担当者	津谷 ゆき子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	幼稚園教育要領に示された領域「人間関係」のねらい及び内容について理解を深め、幼児が人と関わる力の基礎を養うことの重要性を知る。その上で、幼児が、他の人と親しみ、支え合って生活し、自立心を育て、主体的に人と関わる力を養う具体的な指導場面を想定した保育の方法を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「人間関係」のねらい及び内容を理解するとともに、「人と関わる力」の基礎作りの重要性を理解する。</p> <p>1) 幼稚園教育要領に示された保育の基本、領域「人間関係」のねらい及び内容の全体構造を理解している。</p> <p>2) 幼児期に「人間関係」の基礎を養うことの重要性と指導上の留意点を理解している。</p> <p>3) 保育における実践のPDCAサイクルによる評価について理解している。</p> <p>4) 集団生活を通して、様々な人と関わる経験と小学校以降の生活とのつながりについて理解している。</p> <p>(2) 子どもの具体的な姿から発達を読み取り、具体的な指導場面を想定し「人と関わる力」を育てる援助の方法を身に付ける。</p> <p>1) 人と関わりながら楽しい園生活を体験することができる場の設定と構想の重要性を理解している。</p> <p>2) 乳幼児期の発達を考慮し、具体的な場面における個に応じた援助について考えることができる。</p> <p>3) 遊びや生活の中で幼児の内面（思いや願い・思考等）を捉え、人間関係を深める具体的な援助について考え、情報機器の活用を含め、実践への意欲をもつことができる。</p> <p>4) 具体的な場を想定し指導案を作成し、模擬保育やロールプレイ、グループカンファレンス等を通して検討を加え、保育の改善を目指すことができる。</p> <p>5) 領域「人間関係」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組む。</p>						
授業回数	授 業 の 内 容						関連する 到達目標番号
1	保育の基本と、保育内容の5領域と「人間関係」との関連 ・「生きる力」の原点としての人間関係について理解する。						(1)-1) 2)
2	幼児理解と一人一人に応じる保育の必要性（ビデオ視聴と感想記入、情報交換 ・一人一人の思いや願いの捉えと個に応じる保育者の支援を考える。						(1)-2) (2)-2) 3)
3	保育内容「人間関係」示してある3項目のねらいと13の内容 ・保育における「人間関係」の重要性と内容の取扱いについて理解する。						(1)-1) 2)
4	乳児期における「人との関わり」の発達と保育者の援助 ・エピソード記録によるグループカンファレンスで、援助の在り方を探る。						(2)-3) 4)
5	幼児期における「人との関わり」の発達と自立心を育む保育者の援助 ・ロールプレイで、援助の在り方を探る。						(2)-2)
6	児童期以降の「人との関わり」と「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」 ・人間関係の発達と幼小の連携について理解を深める。						(1)-4) (2)-4)
7	遊びの重要性と遊びの中で育つ「人との関わり」：自己主張、ルール、折り合い、協同等) ・ビデオ視聴・エピソード記録等で、遊びの中で育つ人間関係と保育者の援助を考える。						(1)-3) (2)-3)
8	生活の中で育つ「人との関わり」と協同的な活動の構想(PDCAの評価方法の理解) ・指導案作成と模擬保育、振り返り・評価で、指導案を改善することができる。						(1)-3) (2)-4)
9	「人間関係」を深める遊びや活動（模擬保育・実演等） ・人間関係を深める遊びや活動を紹介し合い、遊びの重要性を理解する。						(2)-1) 3)
10	多様な乳幼児の理解と保育者の援助の工夫 ・個性の尊重と障害児への関わり方について理解を深める。						(2)-2) 3)
11	保育者同士の連携と園全体での連携、保護者との連携、地域との連携 ・具体的な事例を通して、連携の重要性を知る。・保護者面談のロールプレイを体験する。						(1)-2) (2)-1) 2)
12	人間関係を育む保育者の保育上の留意点 ・「自我の育ちと自己制御」「依存と自立」「社会性の個性」等から、保育の本質を振り返る。						(1)-2) (2)-1) 2)
13	人間関係と今日的な課題 ・書籍・メディア情報などを参考にしながら、今日的な課題について考える。						(2)-3) (3)-1)
14	幼児理解と保育者の資質向上（ビデオ視聴・グループカンファレンス ・「人間関係」を育てる保育者としての学びと自分の変容について自己評価する。						(2)-4) (3)-1)
15	豊かな「人間関係」を育てる保育者の夢と保育者の自己教育力 ・保育者としての夢と保育者としての成長について語り合う。						(2)-4) (3)-1)
成績評価の方法	試験(50%)、提出課題(20%)、授業態度・意欲(30%)						
テキスト	森上史郎ほか:『最新保育講座8 保育内容人間関係』(ミネルヴァ書房) 『幼稚園教育要領解説』(フレーベル館)						
参考文献・資料	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『保育所保育指針解説』						
事前・事後学習	予習：授業内容に合わせてテキストや関連資料を読み、授業の準備をする。 復習：授業後、テキストに再度目を通し、学習内容をまとめて記録する。						

科目名	保育内容の指導法 言葉		必修・選択	必修		授業形態	(演習)
担当者	蛭田 一美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	幼児の言葉に関する現状や課題を踏まえた上で、幼稚園教育要領に示された領域「言葉」のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深める。そのうえで、幼児の発達に関して、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 幼稚園教育要領等に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい、内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「言葉」のねらい及び内容並び全体構造を理解している。 2) 領域「言葉」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「言葉」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「言葉」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「言葉」の特性、及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び機材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 実習で行った保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付いている。 5) 領域「言葉」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「言葉」のねらい及び内容について、乳幼児の姿と関連付けることを通して理解する。						(1)-1)
2	幼児の言葉と「幼児期に育つてほしい姿」を具体的に関連付けることを通し、幼児の言葉における評価の考え方を理解する。						(1)-1) 2) 3)
3	事例や映像から幼児の心情・認識・思考及び動き等を考察し、乳幼児が経験しながら身に付けていく言葉の内容と指導上の留意点を理解する。						(1)-2) (2)-1) 2)
4	乳幼児の言葉を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。(1) ～乳児期の発達～						(1)-2) 3)
5	乳幼児の言葉を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。(2) ～1歳から3歳の発達～						(1)-2) 3)
6	乳幼児の言葉を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。(3) ～3歳から5歳の発達～						(1)-2) 3)
7	乳幼児の言葉を育む基盤と言葉の発達過程を理解する。(4) ～書き言葉の発達の道筋と小学校における書き言葉～						(1)-2) 3) 4)
8	生活に必要な言葉の習得を支える援助について理解し、言葉を育む環境構成について考える。						(2)-3) 5)
9	言葉による伝え合いを育む援助について理解し、言葉を豊かにする環境構成について考える。						(2)-3) 5)
10	言葉を豊かにする絵本、物語、紙芝居などの教材を保育の中で生かす実践方法について考える。						(2)-3) 4)
11	言葉に対する感覚を豊かにする言葉遊び(しりとり、言葉集めなど)を保育の中で生かす実践方法について考える。						(2)-3) 4)
12	言葉を豊かにする教材としての「すばなし」について理解し、保育の中で生かす実践方法を身に付ける。						(2)-3) 4)
13	保育研究の論文やインターネットで発信されている乳幼児の言葉の発達過程や遊びの実践例から動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。						(2)-2) 3) 5)
14	領域「言葉」に関する具体的な保育場面を想定した指導案の作成に取り組む						(2)-3) 5)
15	指導案の作成を通して「言葉」の授業を振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む						(2)-4) 5)
成績評価の方法	授業への参加度(グループワーク・実技など)(15%)、筆記試験(85%)						
テキスト	柴崎正行・戸田雅美・秋田喜代美編大豆生田啓友他:『保育内容 言葉』(ミネルヴァ書房) 『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						
参考文献・資料	『保育用語辞典』						
事前・事後学習	事前に授業の範囲のテキストを読んで予習しておくこと。毎授業ごとに振り返りの記録を行う。次の授業や他の科目と関連づけながら考えるように、学びの内容を視覚的にわかりやすく、まとめておく。						

科目名	保育内容の指導法 表現		必修・選択	必修		授業形態	(演習)
担当者	蛭田 一美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 幼稚園教育要領等に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい、内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並び全体構造を理解している。 2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。 (2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「表現」の特性、及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び機材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 実習で行った保育や模擬保育などの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付いている。 5) 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現の姿と関連付けることを通して理解する。						(1)-1)
2	幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動に育みたい資質・能力について具体的に考える。						(1)-1) 2)
3	表現活動と「幼児期に育ってほしい姿」を具体的に関連付けることを通し、幼児の表現における評価の考え方を理解する。						(1)-1) 2) 3)
4	事例や映像から幼児の心情・認識・思考及び動き等を考察し、幼児が経験し身に付けていく表現の内容と指導上の留意点を理解する。						(1)-1) 2) 3) (2)-1)
5	幼児期の表現活動と、小学校の様々な教科との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。						(1)-1) 2) 3) 4)
6	3歳未満児の発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや、情報機器および活用方法、教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。						(2)-1) 2) 3)
7	3歳～5歳の発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや、情報機器および活用方法、教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。						(2)-1) 2) 3)
8	五感を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。(音を聴いて色や形、身体で表現するなど)						(2)-1) 3)
9	手足、身体を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。(造形活動と音楽的活動を連動し表現するなど)						(2)-1) 3)
10	自然(風・光・影など)や自然物(土、石、葉、木の実など)を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。						(2)-1) 3)
11	身近な素材(新聞紙、封筒、紙コップ、ペットボトルなど)を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。						(2)-1) 3)
12	保育研究の論文やインターネットで発信されている表現活動の実践例から動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。						(2)-3) 5)
13	これまでの学びを踏まえ総合的な表現活動を実践するために指導案を作成する。						(2)-1) 3) 4)
14	ドキュメンテーションの作成を通して「表現」の授業を振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む						(1)-1) (2)-1) 2) 4) 5)
15	自分で作成したドキュメンテーションを基にグループで発表しあい、これまで学んだ総合的な表現活動について振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深める。						(1)-1) (2)-1) 2) 5)
成績評価の方法	授業への参加度(グループワーク・実技など)(30%)、学びの内容をまとめたノート(30%)、課題レポート(40%)						
テキスト	平田智久・小林紀子・砂上史子編：『保育内容 表現』(ミネルヴァ書房) 『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						
参考文献・資料	『保育用語辞典』						
事前・事後学習	事前に授業の範囲のテキストを読んで予習しておくこと。毎授業ごとに振り返りの記録を行う。次回の授業や他の科目と関連づけながら考えることができるように、学びの内容を視覚的にわかりやすく、まとめておく。						

科目名	乳児保育 I		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	(演習)
担当者	鈴木 万紀子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・前期
授業の概要及び全体目標	乳児期は人格の基礎を作る時期であることを理解し、乳児を保育するために必要な知識と実践を学び、保育者との協働、保護者や関係機関との連携をとおして、保育に携わることの意義を学ぶ。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 乳児保育の理念と役割について理解する。 1) 乳児保育の現状と課題について理解できる。 (2) 乳児の発達とその保育内容を理解し、実践することができる。 1) 基本的な乳児の成長・発達を理解することができる。 2) 乳児の適切な援助の仕方を理解し、実践できる。 (3) 乳児保育における連携について理解する。 1) 保育者との協働や保護者、関係機関との連携について理解できる。						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	映像「赤ちゃんの秘密」を視聴。 映像から赤ちゃんの生命の神秘に触れる。					
	2	乳児を取り巻く保育の現状を学ぶ。 乳児保育の基本を知る。					
	3	0～1歳3カ月未満の発達について知る。 めまぐるしく発達する時期であることを知り、個人差のあることも学ぶ。					
	4	0～1歳3カ月未満の生活の援助の仕方や安全への配慮を知る。 普段の生活の仕方や離乳について学ぶ。					
	5	1歳3カ月～2歳未満の発達について知る。 映像「愛着の実際」を視聴し、乳児の心もちに触れる。					
	6	1歳3カ月～2歳未満の生活の援助の仕方や安全への配慮を知る。映像「あそびの中で乳児は学ぶ」を視聴し、安心して生活できる環境が乳児の学びを支えていることを知る。					
	7	2歳児の生活の援助の仕方や安全への配慮を知る。自我の芽生えの時期であることを知り、尊重しながらも、善悪を伝えることの大切さを学ぶ。					
	8	環境が及ぼすことの意味深さについて考察する。保育者同士の連携の大切さを学び乳児が安心して生活できることにつながることを知る。					
	9	時代と共に変遷してきた育児文化を知り、乳児にとっての望ましい育児文化について考察する。					
	10	乳児の育ちを捉える。家庭における子どもへのまなざしと保育園における子どもへのまなざしを学び、包容力のある柔軟な対応について考察する。					
	11	乳児が安心して生活ができるようより良い援助の実際を学ぶ。 保育者の関わり方が子どもたちの気持ちに大きく左右していく様子を学ぶ					
	12	乳児が病気にかかったときの対応を学ぶ。また、他の保育士との連携の仕方も学ぶ。					
	13	乳児の姿を捉えることで、どのように指導計画を作成していくのかを実際の計画を見ながら考察する。					
	14	家庭との連携の大切さと乳児の最善の利益を考えた関わりができるように考察し、保育実習に向けての心構えを作っていく。					
	15	乳児と触れ合う上での知識の確認をする。遊びが学びであり、生きる力が育まれていくことを確認する。					
成績評価の方法		レポート(50%)、授業態度・意欲(50%)					
テキスト		社会福祉法人あすみ福祉社会：『見る・考える・創りだす 乳児保育』(萌文書林) 『保育所保育指針』					
参考文献・資料		その都度紹介する。					
事前・事後学習		乳児と触れ合う機会を多く持つことで、乳児を理解することにつながる。また、乳児との触れ合いを「楽しむ」ことで学びにつながっていく。					

科目名	障がい児保育		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	(演習)
担当者	永井 博敏	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	1年・後期
授業の概要及び全体目標	○さまざまな障害や個別のニーズによって特別な支援や配慮を必要とする幼児が、園生活の満足感を味わいながら発達に必要な経験を重ねることを通して生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児の遊びや生活上の困難を理解し、そのニーズに応じた対応をしていくための基本的な知識や支援方法を理解するとともに実践的に学ぼうとする意欲や態度を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 特別な支援を必要とする幼児等の障害の特性及び心身の発達を理解する 1) 保育を含むインクルーシブ教育システムの構築等、特別支援教育に関する制度の理念や仕組み等を理解するとともに障害者理解に努めようとしている。 2) 発達障害や知的障害をはじめとする特別な支援を要する幼児の心身の発達や心理的特性及び諸能力の育つ過程を理解している。 3) さまざまな障害のある幼児の園生活や社会生活上で経験する困難について基礎的な知識を身に付ける。 (2) 特別の支援を必要とする幼児を対象とする教育課程及び支援の方法を理解する 1) 発達障害や知的障害をはじめとする特別な支援を必要とする幼児に対する支援の在り方や具体的な方法について例示することができる。 2) 特別支援教育の在り方や教育課程の枠組みを踏まえ、個別の指導計画及び個別の教育支援計画の重要性を理解し、その作成や活用についての基礎的な事項を理解している。 3) 特別支援コーディネーターや療育関係機関、家庭、教育委員会等との連携を深めながら、幼児個々の教育的ニーズを支援する体制づくりと長期的な実践の重要性を理解している。 (3) 障害はないものの特別なニーズをもつ幼児の園生活上の困難やその対応策を理解している。 1) 貧困や育児放棄などの劣悪な養育環境及び母国語使用等に起因するさまざまな困難に直面している幼児等の課題、保育との関連や長期的な教育支援の在り方について理解する。						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	障害児者と家族の生活(生活上の困り感や社会の障害者観を映像資料から読み解く)						(1)-1) 3)
2	各種法令等の障害者規定と障害児・者の実態。障害児教育の変遷と現状						(1)-1)
3	障害児教育と社会的背景(ノーマライゼーションとインクルージョンの構築) 障害児保育の基本と方針(幼稚園教育要領と保育所保育指針等の記述から)						(1)-1), (3)-1) (2)-1) 2) 3)
4	肢体不自由児(主に脳性まひ)の障害特性や療育。保育者の援助の在り方						(1)-2) 3) (2)-1)
5	知的障害児の障害特性と生活上の困り感。 知的発達に遅れのある幼児や特に配慮を要する幼児への保育者の援助・工夫						(1)-2) 3) (2)-1)
6	視覚障害・聴覚障害の特性と療育活動の意義。 視覚・聴覚に障害のある幼児の自立に向けた対応の基本と保育の役割						(1)-2) 3) (2)-1)
7	自閉症スペクトラムを中心とする発達障害児の障害特性 発達障害児や特別支援を要する幼児の保育における対応の基本と保育者の工夫						(1)-2) 3) (2)-1)
8	注意欠如多動症(AD型 HD型)・学習障害の特性と自他の困り感 注意欠如多動症等の特別な配慮を要する幼児への対応の基本と保育者の工夫						(1)-2) 3) (2)-1)
9	注意欠如多動症などの幼児の理解～視点を換えて子どもを見る(リフレーミング)						(2)-1) 2) 3)
10	障害児保育の実際(1) 映像資料①の視聴による理解と観点別レポートの作成						(2)-1) 2) 3)
11	障害児保育の実際(2) 映像資料②を通じたグループカンファレンス						(2)-1) 2) 3)
12	障害児保育の実際(3) 映像資料②を通じた「幼児の育ちを促す経験」の読み取り						(2)-1) 2) 3)
13	障害のある幼児に関する「個別の指導計画」の作成演習(映像資料の事例活用)						(2)-2) 3)
14	インクルーシブ教育システムの構築と多様な教育支援(就学支援)の意義 幼児教育機関における就学支援(保護者や専門機関との連携を生かした支援計画)						(1)-1), (2)-3) (3)-1)
15	障害や貧困・差別など困難を抱えた人々との共生社会の実現と教育の在り方 障害者差別解消法の意義と障害者理解を進めるインクルーシブ教育の重要性						(1)-1) 3) (3)-1)
成績評価の方法	定期試験(50%)、レポート(30%)、授業態度・意欲(20%)						
テキスト	藤永 保 監修 阿部五月／小泉左江子ほか：『障害児保育』(萌文書林)						
参考文献・資料	映像資料DVD「保育のひだまり第1巻～第3巻」日本子ども家庭総合研究所監修 必要資料は授業ごとに配布するのでファイル化すること						
事前・事後学習	授業では基本的な事項や心構えを取り扱うので、予習・復習を主とする授業外学習を通して、主体的に多くの関連情報を求めることが授業内容の定着と拡大深化に不可欠である。また、平素から障害児・者との触れ合い・交流やボランティアなどの社会体験活動等を通じて、共生社会に必要な障害理解(障害者理解)を深めことが求められる。						

2 年 次

科目名	キリスト教人間学Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	門戸 美智	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・通年
授業の概要及び全体目標	新約聖書を通して本学の建学の精神である「子どもたち一人一人を大切にしながら、キリストの心で幼児を教育することを学ぶとともに、キリスト教の精神で、幼児教育を人格形成の基礎を培うものとして捉え理解する。一人一人は、神に支えられ導かれていることを知り、イエス・キリストの生涯と教えを通して人を大切にする生き方を学び、人類社会に貢献する生き方を理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) イエス・キリストの生き方と教えを理解する 1) イエス・キリストの生涯を捉えながらその歴史を理解している 2) イエス・キリストの生き方の中から、その教えと課題を理解している (2) 新約聖書の生き方を実践的に捉え、キリスト教的価値観を理解する 1) 新約聖書について知り、描かれている人物の背景、生き方を理解している 2) 新約聖書の時代と文化を通して、今の時代をどう生きるか理解している (3) 保育者として人類・社会に貢献する基礎的態度を理解する 1) 人類・社会に貢献するためにキリストが教える生き方を理解している。 2) 保育者としてキリスト教的価値観を実践し世界平和の在り方を理解している						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	オリエンテーション 新約聖書と本学の建学の精神					(1)-1) 2), (2)-1) 2)
	2	イエスの告げた福音 喜びの知らせ マルコ1：1					(1)-1) 2), (2)-1)
	3	イエスの荒野での試み マタイ4：1～11					(1)-1) 2)
	4	イエスの弟子 弟子の選び マタイ4：18～22					(1)-1) 2)
	5	イエスの弟子 弟子たちの使命 マタイ10：1～4					(1)-1) 2)
	6	イエスの教え 山上の垂訓 マタイ5：1～10					(1)-1) 2)
	7	み心の「ミサ」について					(3)-1) 2)
	8	み心のミサと講演					(3)-1) 2)
	9	イエスの教え 敵を愛せよ ルカ6：27～36					(2)-1) 2)
	10	イエスの教え 人を裁くな マタイ7：1～5					(2)-1) 2), (3)-1) 2)
	11	イエスのたとえ話 よいサマリア人 ルカ10：25～37					(2)-1) 2), (3)-1) 2)
	12	イエスのたとえ話 金持ちをラザロ ルカ16：19～33					(2)-1) 2), (3)-1) 2)
	13	イエスのたとえ話 種まきのたとえ ルカ8：4～15					(2)-1) 2), (3)-1) 2)
	14	イエスのたとえ話 ぶどう園の労働者 マタイ20：1～16					(2)-1) 2), (3)-1) 2)
	15	祈りについて 主の祈り ルカ11：1～4					(3)-1) 2)
	16	愛とゆるし 見失った羊 ルカ15：4～7					(3)-1) 2), (3)-2)
	17	愛とゆるし 放蕩息子 ルカ15：1～32					(3)-1) 2), (3)-2)
	18	イエスの奇跡 重い皮膚病患者のいやし マルコ1：40～45					(1)-1) 2), (3)-1) 2)
	19	エリコの盲人いやされる マルコ10：46～52					(1)-1) 2), (3)-1) 2)
	20	ヤイロの娘と出血病の女 マルコ5：21～43					(1)-1) 2), (3)-1) 2)
	21	ユダの裏切り マタイ26：14～16					(1)-1) 2)
	22	待降節について知る					(3)-1) 2)
	23	クリスマスマミサに参加					(3)-1) 2)
	24	イエス弟子たちの足を洗う ヨハネ13：1～20					(3)-1) 2)
	25	聖体の制定 マタイ26：26～29					(2)-1) 2)
	26	ゲッセマネでの祈り マタイ26：30～35					(2)-1) 2)
	27	ペトロの呑み マタイ26：30～35					(2)-1) 2)
	28	十字架の刑 犯罪人の赦し 十字架上のイエスの言葉 ルカ23章					(2)-1) 2)
	29	エマオの途上での出現 ルカ24：13～35					(3)-1) 2)
	30	教会の誕生 使徒言行録 2：42～47 パウロの回心					(3)-1) 2), (1)-2)
成績評価の方法		試験(30%)、提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、聖園アワー・感想(20%)					
テキスト		フランシスコ会聖書研究所訳注：『新約聖書』(サンパウロ) ガエタノ・コンプリ：『こころにひかりを』(ドン・ボスコ)					
参考文献・資料		百瀬文明晃：『キリストを知るために』(サンパウロ) 百瀬文明晃：『キリスト教の輪郭』(女子パウロ会)					
事前・事後学習		授業で使用する新約聖書の箇所を読んでおき、授業後もう一度同じ箇所を読んで自分の生活を振り返り考察する。					

科目名	日本語の表現Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	講義					
担当者	大原 かおり	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期					
授業の概要及び全体目標	<p>社会人・保育者として社会生活を営むために必要な国語の基礎的知識を身につけ、実践に生きる国語力を養う。国語力向上のため、課題の発見、解決を図る態度を身につける。絵本というメディアの特徴を理解し、活用する応用力を養う。</p>											
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 日本語の特質について理解を深め、適切な表現を用いた言語活動ができる 1) 表記・文法・敬語などの基礎的知識を適切に表現できる 2) 場に応じた適切な表現方法・技術を用いて、自在に表現できる 3) イメージを言葉や文章で表現できる (2) 自己の課題発見・解決を図ることができる 1) 自己の国語力の向上させるために、課題の発見・解決を図ることができる 2) 他者とコミュニケーションを取りながら、意見を集約することができる (3) 絵本の機能と表現効果を理解し、活用できる 1) 絵とテクスト(言葉)の機能や相乗効果を理解できる 2) 絵本モンタージュ理論を理解できる</p>											
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号					
	1	オリエンテーション —授業目標・内容・評価方法の説明					(2)-1)					
	2	国語力トレーニング1 —正しい日本語の表記・文法					(1)-1) 2) (2)-1)					
	3	国語力トレーニング2 —敬語表現の基本					(1)-1) 2) (2)-1)					
	4	国語力トレーニング3 —場に応じた敬語表現					(1)-1) 2) (2)-1)					
	5	国語力トレーニング4 —総合演習1・解説					(1)-1) 2) (2)-1)					
	6	国語力トレーニング5 —総合演習2・解説					(1)-1) 2) (2)-1)					
	7	就職作文・小論文トレーニング —注意事項・作成					(1)-1) 2) 3) (2)-1)					
	8	絵本モンタージュ 基礎1 —絵本モンタージュ理論について 「おべんとう絵本」の作り方					(3)-1) 2)					
	9	絵本モンタージュ 基礎2 —「おべんとう絵本」作成					(1)-1) 2) 3) (2)-1), (3)-1)					
	10	絵本モンタージュ 基礎3 —「おべんとう絵本」鑑賞・合評会					(2)-1) 2) (3)-1) 2)					
	11	絵本モンタージュ 応用1 —安野光雅『旅の絵本』について テーマ・グループ決め					(2)-1) 2)					
	12	絵本モンタージュ 応用2 —『旅の絵本』テクスト作成1					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2), (3)-1) 2)					
	13	絵本モンタージュ 応用3 —『旅の絵本』テクスト作成2					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2), (3)-1) 2)					
	14	「旅の絵本」読み聞かせ会1					(1)-1) 2) (2)-1) 2), (3)-1) 2)					
	15	「旅の絵本」読み聞かせ会2 まとめ					(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2), (3)-1) 2)					
成績評価の方法	定期試験(40%)、提出課題(50%)、授業態度・意欲(10%)											
テキスト	授業各回で配布する											
参考文献・資料	授業各回で提示や紹介をする											
事前・事後学習	事前に資料を配布するので、目を通すなどして取り組んでおくこと。 講義内容をノートなどにまとめ、資料をファイルするなどして事後の学習に役立てること。											

科目名	音楽の理論と合奏Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	東海林美代子		担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	
授業の概要及び全体目標	<p>子どもの音楽表現活動を支えるために必要な音楽の基礎理論を学び、理解を深める。</p> <p>子どもが表現しやすい簡易楽器の基礎的奏法を習得し、全体およびグループでの合奏を通して表現する喜びを味わう。</p>							
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) コードネームを理解し、コードを使用して旋律譜に伴奏をつけることができる</p> <p>1) コードの仕組みを理解する。また、主要三和音を理解し旋律譜にコードを付けて演奏する。</p> <p>(2) 簡易楽器の奏法を習得し、合奏を楽しむ</p> <p>1) カスタネット、すず、タンブリン等の基礎的奏法を習得する。また、マリンバ、トーンチャイム等によるアンサンブルを楽しむ。</p>							
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号	
	1	コードの仕組みとコードネーム ベースラインを弾く						(1)-1)
	2	いろいろなコードとコードネーム コードの種類						(1)-1)
	3	いろいろなコードとコードネーム ハ長調の主要三和音						(1)-1)
	4	ト長調、ニ長調、ヘ長調の主要三和音						(1)-1)
	5	旋律譜にコードを付けて演奏する ハ長調「ともだちになるために」						(1)-1)
	6	旋律譜にコードを付けて演奏する 「とんぼのめがね」など4曲						(1)-1)
	7	旋律譜にコードを付けて演奏する(演習テスト)						(1)-1)
	8	ミュージックベル、トーンチャイムによる合奏 「サンタが街にやってくる」などのクリスマスソングを練習する						(2)-1)
	9	ミュージックベル、トーンチャイムによる合奏 「サンタが街にやってくる」などのクリスマスソングを練習し、発表する						(2)-1)
	10	器楽合奏「わたしのこころ」						(2)-1)
	11	器楽合奏「わたしのこころ」						(2)-1)
	12	器楽合奏「さんぽ」						(2)-1)
	13	器楽合奏「さんぽ」						(2)-1)
	14	カスタネットアンサンブル「カスタネット四重奏」						(2)-1)
	15	アンサンブルコンテストに向けて練習する						(2)-1)
成績評価の方法		授業態度・意欲(60%)、実技発表・演習テスト(40%)						
テキスト		なし(必要に応じてプリントを配布します) ※五線ノートおよび鍵盤ハーモニカ唄口を各自準備すること						
参考文献・資料		『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)						
事前・事後学習		コードネームについては、ノートを活用して十分に復習と練習をすること						

科目名	声楽Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	演習	
担当者	櫻庭 優佳	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・通年	
授業の概要及び全体目標	より豊かな歌声を目指し自身の発声に向き合ったり、歌詞の解釈を深めたりすることを通して、保育者は子どもの前で自信をもって歌唱できるようになる。子どもたちの音楽活動を適切に援助し、音楽の喜びや楽しさを伝えることができるよう、より高い歌唱技能を身に付ける。また、「子どもの歌」を中心とした総合的な音楽表現等の発表に取り組み、現場で生きる実践的な音楽活動の展開について考察し理解を深める。							
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1)「子どもの歌」を中心とした独唱や少人数アンサンブル等の歌唱ができる</p> <p>1) 明瞭で美しい日本語の発音に留意して歌唱することができる</p> <p>2) 歌唱にとっての良い姿勢を理解し、歌唱することができる</p> <p>3) 無理のないのびやかな発声を常に目指しながら歌唱することができる</p> <p>4) リズム・メロディー・ハーモニーを理解し、より正確な歌唱を心がけている</p> <p>(2) 子どもの心に響く歌唱とは何か、向上心をもって音楽活動に取り組むことができる</p> <p>1) 子どもの前で堂々と歌唱する姿をイメージしながら、楽しく演奏しようと心がけている</p> <p>2) 音楽の特徴を捉え、子どもの心に働きかけるような工夫を加えて歌唱することができる</p> <p>3) 歌や音楽が子どもの心に働きかける内容・意味を理解し、喜びを持って意欲的に音楽活動に取り組むことができる</p>							
授業 計 画	授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号
	1	「子どもの歌」の発表(1)～導入と展開～① 6人程度のグループで「子どもの歌」を選曲し、導入の仕方や展開を考える						(2)-2) 3)
	2	「子どもの歌」の発表(1)～導入と展開～② 楽譜をよく読み取り、音楽の特徴を捉え、解釈を深める						(2)-2) 3)
	3	「子どもの歌」の発表(1)～導入と展開～③ 明瞭な発音やわかりやすい伝わり方を目指し、グループ練習や個人練習を行う						(1)-1), (2)-2) 3)
	4	「子どもの歌」の発表(1)～導入と展開～④ 発表に向けて、必要な制作や制作したものを使いながらの練習を行う						(2)-2) 3)
	5	「子どもの歌」の発表(1)～導入と展開～⑤ 発表に向けて、グループ毎にリハーサルを行い、改善点を加える						(1)-1), (2)-2) 3)
	6	「子どもの歌」の発表(1)～導入と展開～⑥ 発表を行い、互いの発表から学び合う						(1)-1) 2) 3), (2)-1) 2) 3)
	7	ミサ曲・聖歌(1) み心のミサに向けて、聖歌練習を行い、美しいハーモニーを作り出そうと努める						(1)-1) 2) 3) 4)
	8	「子どもの歌」の発表(2)～子どもの心をつかむ歌～① 子どもの心に働きかける歌を7人程度のグループ毎に選曲する						(2)-3)
	9	「子どもの歌」の発表(2)～子どもの心をつかむ歌～② グループ毎に選曲した曲について作品分析を行い、詩の解釈も深める						(2)-3)
	10	「子どもの歌」の発表(2)～子どもの心をつかむ歌～③ 日本語の発音や言葉の伝わり方に留意し、グループ練習や個人練習を行う						(1)-1)
	11	「子どもの歌」の発表(2)～子どもの心をつかむ歌～④ 発表に向けて、独唱を含む少人数アンサンブルとなるよう工夫を加え、練習する						(2)-2) 3)
	12	「子どもの歌」の発表(2)～子どもの心をつかむ歌～⑤ 発表に向けて練習を深め、より豊かな歌声での演奏になるよう努める						(1)-1) 2) 3) 4), (2)-1) 3)
	13	「子どもの歌」の発表(2)～子どもの心をつかむ歌～⑥ 独唱を含む少人数アンサンブルの発表を行い、互いの演奏から学び合う						(1)-1) 2) 3) 4), (2)-1) 2) 3)
	14	「子どもの歌」の独唱・弾き歌い① 器楽Ⅱ(ピアノ)の弾き歌い試験に向けて、各自の試験曲について歌の練習を行う						(1)-1) 2) 3) 4), (2)-1)
	15	「子どもの歌」の独唱・弾き歌い② 器楽Ⅱ(ピアノ)の弾き歌い試験に向けて、各自の試験曲について歌の練習を行う						(1)-1) 2) 3) 4), (2)-1)
	16	合唱を楽しむ(1)① アンサンブルコンテストに向けて、クラス合唱の自由曲を選曲する						(1)-3), (2)-3)
	17	合唱を楽しむ(1)② 課題曲・自由曲の音取りを行う						(1)-2) 3), (2)-3)
	18	合唱を楽しむ(1)③ 課題曲・自由曲のパートを決め、パート毎に練習を行う						(1)-2) 3), (2)-3)
	19	合唱を楽しむ(1)④ パート練習を行い、自分や周囲の歌声によく耳を傾けながら正しい音程・リズムで歌う						(1)-2) 3) 4), (2)-3)
	20	合唱を楽しむ(1)⑤ 合唱練習を行い、互いのハーモニーを感じながら歌う						(1)-2) 3), (2)-3)
	21	合唱を楽しむ(1)⑥ 互いのパートが響き合う楽しさを感じながら合唱練習に取り組む						(1)-2) 3), (2)-3)
	22	クリスマスの歌の発表① 7人程度のグループ毎に子どもと楽しめるクリスマス・ソングを選曲する						(2)-3)
	23	クリスマスの歌の発表② グループ毎に作品分析や解釈を深め、楽器や身体表現を加えるなどの工夫を加える						(2)-2) 3)
	24	クリスマスの歌の発表③ グループ練習やグループ毎にリハーサルを行い、改善点を加える						(1)-3), (2)-1) 2) 3)
	25	クリスマスの歌の発表④／ミサ曲・聖歌(2) 発表を行い、互いの演奏から学び合う／クリスマスミサに向けて聖歌練習を行う						(1)-1) 2) 3), (2)-1) 2) 3)
	26	合唱を楽しむ(2)① アンサンブルフェスティバルに向けて、合唱練習をする						(1)-1) 2) 3), (2)-3)
	27	合唱を楽しむ(2)② 指揮者・伴奏者による合唱練習を行い、より良い演奏を目指す						(1)-1) 2) 3), (2)-3)
	28	合唱を楽しむ(2)③ 必要に応じて身体表現も加えるなど、より良いパフォーマンスになるよう努める						(1)-1) 2) 3), (2)-2) 3)
	29	合唱を楽しむ(2)④ クラスの仲間と互いの声をよく聴き合い、音楽や歌うことの喜びを味わう						(1)-1) 2) 3), (2)-2) 3)
	30	「声楽」のまとめ 2年間の授業の成果として、クラス合唱を演奏・発表し、互いの演奏から学び合う						(1)-1) 2) 3) 4), (2)-1) 2) 3)
成績評価の方法		発表(授業内での演奏発表)(30 %)、授業態度・意欲(70 %)						
テキスト		神原雅之 鈴木恵津子 監修・編著:『幼児のための音楽教育』(教育芸術社) 聖歌集『神をたたえて』(聖園学園短期大学)						
参考文献・資料		その都度、提示や紹介、配布をする						
事前・事後学習		より豊かな声で自信をもって歌唱できるよう、意欲的な姿勢で取り組むこと。授業で学習する曲について、事前の譜読みや授業後の復習を積極的に行ってほしい。また、音程やリズム、発声について疑問や不安に思うことはその都度質問をし、練習に生かすこと。						

科目名	器楽Ⅱ(ピアノ)		必修・選択	必修		授業形態	演習
担当者	東海林美代子 他8名	担当形態	クラス分け	単位数	1	学年 期間	2年・通年
授業の概要及び全体目標	<p>幼児教育者として子どもの表現活動を支えるピアノの基礎的な演奏技術を習得し、表現力を養う。</p> <p>子どもの歌の弾き歌いを表情豊かにできるようにする。</p> <p>1時間に4～5名程度で個人の進度や能力に応じたレッスン形式で行う。</p> <p>入学時にすでに長期にわたるレッスン受講歴があり、基礎的な演奏技術を習得していると考えられる学生には、4名程度のグループレッスンにより、より高い音楽表現のできる奏法を習得させる。</p>						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 幼児教育者として必要なピアノの基礎的な演奏技術を習得する 1) テキスト中の「バイエル練習曲」や他の楽曲に取り組み、音名や運指、リズム、諸記号を理解し演奏する。</p> <p>(2) 音楽に対する感性を磨き、表現力を高める 1) 他者の演奏を聴くことにより、楽曲への理解を深め。また、様々な楽曲を通して各楽曲の特徴を感じ取り、表現力の向上につなげる。</p> <p>(3) 子どもの歌の弾き歌いを表情豊かにできる 1) テキスト中の「子どもの歌」について曲想を理解し、ピアノ演奏ができ、表情豊かに弾き歌いができる</p> <p>※ピアノ経験の有無や個々の進度・能力に応じたレッスン形式で行うため、授業内容は個人により進め方等が異なる場合がある。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	テキストNo.70 「あわてんぼうのサンタクロース」「南の島のハメハメハ大王」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
2	No.70 「ミッキーマウス・マーチ」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
3	No.71 「幸せなら手をたたこう」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
4	No.77 「山のワルツ」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
5	No.79 「山のワルツ」「そうだったらしいのにな」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
6	No.79 「おはながわらった」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
7	No.81 「さんぽ」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
8	No.83 「さんぽ」「ドレミのうた」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
9	No.84 「ドレミのうた」個々の進度を考慮し前期試験曲を指導担当者との話し合いにより選曲する						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
10	No.85 前期試験曲(例「犬のおまわりさん」)等						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
11	No.85 前期試験曲(例「犬のおまわりさん」)等						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
12	前期試験曲(例「犬のおまわりさん」)等						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
授業計画	前期試験(クラス単位で行う。クラス全員の前で弾き歌い曲1曲を暗譜で演奏し、全員の演奏も聴く公開形式とする。)						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
13	No.96 「世界中のこどもたちが」前期試験結果と夏休み期間の課題について						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
14	「アラベスク」「世界中のこどもたちが」「うれしいひなまつり」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
15	「アラベスク」「パストラル」「一年生になったら」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
16	「パストラル」「にんげんっていいな」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
17	「せきれい」「にんげんっていいな」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
18	「せきれい」「さよならぼくたちの保育園(幼稚園)」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
19	「おしゃべりさん」「さよならぼくたちの保育園(幼稚園)」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
20	「おしゃべりさん」「あめふりくまのこ」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
21	「バラード」「あめふりくまのこ」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
22	「バラード」「あめふりくまのこ」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
23	「バラード」「あめふりくまのこ」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
24	「シュタイヤー舞曲」「バスごっこ」指導担当者との話し合いにより後期試験曲を選曲する						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
25	「シュタイヤー舞曲」「バスごっこ」						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
26	後期試験曲(例「乗馬」「アイアイ」)						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
27	後期試験曲(例「乗馬」「ヘイ！タンブリン」)						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
28	後期試験曲(例「乗馬」「ヘイ！タンブリン」)						(1)-1), (2)-1), (3)-1)
29	後期試験曲(例「乗馬」)						(1)-1), (2)-1)
30	後期試験(クラス単位で行う。クラス全員の前で1曲を暗譜で演奏し、全員の演奏も聴く公開形式とする。)						(1)-1), (2)-1)
成績評価の方法	実技試験(50%)、授業態度・意欲(50%)						
テキスト	東京福祉専門学校編『幼稚園教諭・保育士のためのピアノ入門』(ドレミ楽譜出版社) 上記テキスト終了後は個々の進度・能力に応じたものを使用する						
参考文献・資料	『幼児のための音楽教育』(教育芸術社)						
事前・事後学習	毎回課題を十分に練習し授業に臨むこと。練習については毎日行うことが望ましい。						

科目名	幼児造形Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	演習	
担当者	小笠原 京子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
授業の概要及び全体目標	造形表現活動を通して、自らの感性を高め、意図に応じて自分の表現方法を考え創造的に表すことや幼児の造形表現活動における保育者の役割、環境構成などの具体的な展開の方法について関心を持つことができる。							
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 対象の造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現の構想を鍛ったり、表現方法を考えたりしながら、創造的に表すことができる。</p> <p>1) 身近な自然やものの色や形、感触などから、創造的な発想をしたり、構想を練ったりすることができる。</p> <p>2) 造形材料や用具、表現方法の特性から、制作順序等を総合的に考えながら、見通しを持って表すことができる。</p> <p>3) 美術作品などの造形的な美しさや創造的な表現などについて、考えたり見方や感じ方を深めたりすることができます。</p> <p>(2) 幼児の造形表現活動における保育者の役割、環境構成などの具体的な展開の方法について、関心や意欲を持つことができる。</p> <p>1) 幼児の素朴な表現や表現を生成する過程について理解することができる。</p> <p>2) 幼児のさまざまな遊びと造形表現とのつながり等について考え、素材や用具等の環境構成や保育者の役割について、関心を持つことができる。</p>							
授業 計 画	授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号
	1	表現を通して育てたいもの 表現を育む保育者の役割 子どもの表現活動の理解と支援のありかたについてVTRを視聴しながら理解する。						(2)-2)
	2	指人形の制作 ボール紙、各種自然材、毛糸等を使って、子どもとともに作れる指人形を制作する。それを自己紹介等に役立てる。						(1)-1) 2)
	3	ひもで動く登り凧の制作 紙、たこ糸等を用いて、登る凧(さまざまな形・平面・半立体・立体)を制作する。実際に作ったもので遊んでみる。						(1)-1) 2)
	4	折り紙I 折り紙の基本と制作 簡単折り紙から、動きやストーリー性のある作品づくりを体験する。						(1)-2)
	5	折り紙II 折り紙による多様な作品を知り、テーマに沿って制作する。						(1)-1) 2)
	6	お面の制作I 紙による簡単動物お面を制作する。色や動物の特徴を捉え、工夫しながら制作し、互いの作品を鑑賞し合う。						(1)-1) 2) 3)
	7	お面の制作II 紙粘土やその他の素材を活用しながら、人間や動物、キャラクター等のお面を制作する。						(1)-1) 2)
	8	お面の制作III 立体感のある成形や着色の手順を考えたり、発表会等を意識した活用を考慮したりしながら、計画的に制作する。						(1)-1) 2) (2)-2)
	9	季節感を生かした環境構成 壁面や空間を想定した保育環境構成を考える。						(1)-1) 2)
	10	季節感を生かした環境構成 つるす、つなぐ、置くなどの条件や年齢や発達を考えながら、素材を選び制作する。						(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)
	11	季節感を表すカレンダーの制作I スパッタリング、貼り絵、切り絵、にじみ等のさまざまな技法や多様な描画材料を用いて制作する。						(1)-1) 2) 3)
	12	季節感を表すカレンダーの制作II 全体構成やレタリング等にも配慮しながら、見通しを持って制作する。						(1)-1) 2) 3)
	13	季節感を表すカレンダーの制作III 全員の作品について、鑑賞し合い、現場での活用につながる表現材料や表現技法等について確認し合う。						(2)-2)
	14	子どもの遊びと造形表現について 子どものさまざまな遊びから造形活動とのつながりを捉え、幼児の感性や創造性を豊かにする表現遊びについて考える。						(2)-1)
	15	造形遊びの実際 新聞紙や紙コップなど身近な素材を用いた遊びの体験を通して、素材の特性を生かした表現の展開の実際を知る。						(2)-1) 2)
成績評価の方法		提出課題(50%)、授業態度・意欲(50%)						
テキスト		『幼稚園教育要領』						
参考文献・資料		横 英子:『保育をひらく造形表現』(萌文書林) 辻 泰秀:『幼児造形の研究~保育内容 造形表現』(萌文書林)						
事前・事後学習		参考資料等を用いて題材について調べたり、園での実際の作品や環境構成等について、観察したりすることや、制作したものを実習で活用するなどして、実際に生かすことを心がけて欲しい。						

科目名	幼児造形Ⅲ		必修・選択	選択		授業形態	(演習)
担当者	菊地 真樹子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	保育者としての造形表現力を豊かにするとともに、幼児の発達と表現の意味を理解し、子どもと一緒に楽しめる造形活動を模索したり、環境構成を工夫したりできる力を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 造形表現に関するさまざまな体験を通して、幼児の表現を支えるための美的感性を豊かにする。</p> <p>1) 美術の表現や鑑賞に対する関心、意欲をもつことができる。</p> <p>2) 造形表現をするための知識、技能を高めることができる。</p> <p>(2) 幼児の表現の姿やその発達を理解し、幼児の造形活動や環境構成について考えることができる。</p> <p>1) 幼児の表現の意味やよさを見いだし、共感することができる。</p> <p>2) 幼児の発達段階に応じた素材や表現方法による造形活動を考えることができる。</p> <p>3) 幼児の造形活動をうながす環境構成に関心をもち、知識、技能を高めることができる。</p>						
授業 計 画	授業回数	授 業 の 内 容					
	1	幼児の育ちと表現 幼児の年齢に応じて変化する造形表現活動の理解 VTR を視聴					
	2	メッセージカードの制作Ⅰ カードの台紙にマスキングテープを工夫して貼る。台紙とテープの色の調和を考える。					
	3	メッセージカードの制作Ⅱ 紙袋の一部を切り抜いて、カードの台紙に並べてから、貼り付け、カラーペンなどで、簡単な図案を描き加える。					
	4	メッセージカードの制作Ⅲ 消しゴムで簡単なはんこを作り、色や構成を工夫してカードをつくる。					
	5	メッセージカードの制作Ⅳ 絵の具などを使って様々な技法(デカルコマニー、ローラ遊び、バッヂクなど)で表したものを作り抜いてカードに利用する。					
	6	メッセージカードの制作Ⅴ これまで体験したカード作りの応用として、様々な方法を組み合わせて自分なりのカードを作る。完成したカードを皆で鑑賞する。					
	7	メッセージカードの制作Ⅵ 同上					
	8	造形遊びⅠ 砂と植物から思いついた造形活動をする。					
	9	造形遊びⅡ 前回の造形遊びについて、話し合い、幼児の造形遊びについての理解を深める。					
	10	環境構成Ⅰ ダンボールハウスを組み立て、グループで装飾について話し合う。					
	11	環境構成Ⅱ グループごとにダンボールハウスに必要な材料や手順を計画する。					
	12	環境構成Ⅲ ダンボールハウスの装飾を進める。					
	13	環境構成Ⅳ 装飾活動を工夫しながら進める。					
	14	環境構成Ⅴ 同上					
	15	環境構成Ⅵ 制作したものを鑑賞する。					
成績評価の方法		提出課題(50%)、授業態度・意欲(50%)					
テキスト		『幼稚園教育要領』					
参考文献・資料		『幼児の造形表現』、渡辺一洋:『毎日が造形遊び 0~5歳児』(学習研究社)					
事前・事後学習		既習した内容や参考資料等とも関連させ、発達に応じた造形材料の選択や応用力を身に付けることを期待する。実習とも絡み合わせながら、現場で生かせるよう主体的に活動して欲しい。					

科目名	幼児体育		必修・選択	必修		授業形態	(演習)
担当者	内藤 裕子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児に適した様々な運動あそびを経験することで、その重要性や意義を理解する。 ・集団遊びを通して、コミュニケーション能力をみがく。 						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 幼児のための運動あそびの重要性や意義についての知識を習得する。</p> <p>1) 実際にあそび体験し、その楽しみや魅力を理解する。</p> <p>2) あそびを理解し、指導法について考えてみる。</p> <p>3) 集団の一員としての関わりを持つことで社会性を身に付ける。</p> <p>(2) 日常的な自分自身の体力強化について意識する。</p> <p>1) 幼児向けのあそびに、積極的に取り組める姿勢を作る。</p> <p>2) 既存のあそびからバリエーションを広げていく術を習得する。</p>						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	オリエンテーション					
	2	運動あそびの理論と実際1 運動あそびの意義					
	3	運動あそびの理論と実際2 運動あそびと子どもの発達について					
	4	創作ダンス1 パフォーマンスの考え方					
	5	創作ダンス2 グループ制作					
	6	創作ダンスの細かな部分の修正					
	7	創作ダンスの発表、意見交換					
	8	創作ダンス まとめ					
	9	運動あそびの指導法1 運動あそびと事故の関連性					
	10	運動あそびの指導法2 運動あそびと環境について					
	11	運動あそびの指導法3 運動嫌いな子供について考える					
	12	あそびの作り方1 年齢にあったあそびの作り方					
	13	あそびの作り方2 四季折々のあそびについて					
	14	あそびの作り方3 環境作りを考える					
	15	まとめ					
成績評価の方法		提出課題(30%)、実技発表(30%)、授業態度・意欲(40%)					
テキスト		なし					
参考文献・資料		なし					
事前・事後学習		日々、遊びに対して広い視野を持って情報を吸収し情報を得る。					

科目名	運動表現		必修・選択	選択		授業形態	(演習)
担当者	内藤 裕子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	<ul style="list-style-type: none"> 日々の体力作りを意識しながらスポーツを楽しむ。 運動を通して、内面にある色々な感情をかたちに表わしてみる。 						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) しなやかな動きを身に付け、日々動作を豊かなものにする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 健康な生活を維持するための必要な知識を習得する。 2) 様々なスポーツを体験し、体力作りの一助とする。 <p>(2) 身体の色々な動きを習得し、リズムダンスの楽しさを知る。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ダンスステップの基本を習得し、色々なダンスの魅力を探る。 2) 創作ダンスに挑戦し、作品を作るプロセスを習得する。 						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	オリエンテーション					
	2	体力作り(バレーボール)					
	3	体力作り(バレーボール)					
	4	体力作り(バスケットボール等)					
	5	体力作り(バスケットボール等)					
	6	体力作り(バドミントン等)					
	7	体力作り(バドミントン等)					
	8	体力作り(ドッヂボール等)					
	9	リズム運動1 ダンスステップについて					
	10	リズム運動2 幼児体操の実際					
	11	創作ダンス1 ダンスの選曲について					
	12	創作ダンス2 踊跡について					
	13	創作ダンス3 創作活動のまとめ					
	14	創作ダンス発表					
	15	まとめ					
成績評価の方法		提出課題(30%)、授業態度・意欲(70%)					
テキスト		なし					
参考文献・資料		なし					
事前・事後学習		自分自身の日々の健康管理、体力作りについて意識する。					

科目名	児童文学		必修・選択	選択必修		授業形態	講義
担当者	大原 かおり	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	多くの児童文化財を生み出した児童文学について学び、時代による児童文学作品の変容、各ジャンルの特徴など専門的事項に関する知識を身につける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 児童文学の歴史を理解できる 1) 近代以降の日本の児童文学作品とそこに表れた時代性を考察できる 2) 児童文学作品に表れた子ども観を考察できる (2) さまざまなジャンル・作家の特徴を理解できる 1) 児童文化財(児童文学作品)について、基礎的な知識を身につけることができる 2) 作家や作品について考察できる						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	オリエンテーション —児童文学とは 絵本考察					
	2	児童文学の歴史と作品1 —江戸以前と明治					
	3	児童文学の歴史と作品2 —大正1					
	4	児童文学の歴史と作品3 —大正2					
	5	児童文学の歴史と作品4 —昭和1					
	6	児童文学の歴史と作品5 —昭和2					
	7	児童文学の歴史と作品6 —現代					
	8	昔話の世界1 —昔話の構造					
	9	昔話の世界2 —昔話絵本					
	10	海外の作品 —翻訳絵本					
	11	作品・作家・テーマ研究について					
	12	グループ研究1 —グループ作り、テーマ・作品を決める					
	13	グループ研究2 —作品・作家について調べて話し合う					
	14	グループ研究3 —資料作り、発表準備					
	15	グループ研究発表会					
成績評価の方法		提出課題(60%)、研究発表(20%)、授業態度・意欲(20%)					
テキスト		授業各回で配布する					
参考文献・資料		授業各回で提示や紹介をする					
事前・事後学習		事前に資料を配付、または読んできて欲しい作品を指定するので、読んでおくこと 講義内容をノートにまとめ、事後の研究に役立てること					

科目名	数論		必修・選択	選択必修		授業形態	講義
担当者	小林 真人	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	身近な数理現象についての興味喚起を行い、解説、受講生自身による手作業、グループ作業や発表を通して、数や図形に対する関心を高め、論理的な思考力を身に付けることができるようとする。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 身近なできごとに数理関係が働いていることを理解する</p> <p>1) 身近にある数理関係の具体例を複数あげ、それを、簡単な数式を用いて説明できる</p> <p>2) 身近な現象から、数理関係を見出すことができる</p> <p>(2) 数や図形を新しい切り口で見つめることに関心をもつ</p> <p>1) 授業で得られた、あらたな切り口を説明できる</p> <p>2) あらたな切り口に対する印象を、具体例をあげて説明できる</p> <p>3) 数式を理解して目的に適った簡単な作業を実行することができる</p>						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					
	1	平均とつりあいの関係を、簡単な実験を通して実感する					
	2	平均とつりあいの関係を、数式を用いて理解する					
	3	ヒストグラムという統計グラフを紹介し、どんな傾向が読み取れるかを考える					
	4	ヒストグラムから平均を読み取る方法を理解し、グループで実行する					
	5	サインウェーブという繰り返し図形を紹介し、身近にさがす					
	6	サインウェーブを作図する					
	7	文字コード、ファイルサイズ、コード体系、文字の表示に必要なコードのサイズなどを理解する					
	8	可変長コード、誤読を起こさない方法を理解し、暗号文を作り、やり取りする					
	9	分数の星を作図し、図を用いて足し算を行う					
	10	バイパス路のない線画に秘められた数量関係を発見し、それを証明（確認）する					
	11	一般の線画に秘められた数量関係を発見し、それを証明する					
	12	ぬり絵に秘められた数理関係を発見し、体感する					
	13	ぬり絵を最小の色数で完成させる際に現れる数理関係を発見し、体験する					
	14	ウエーブのブレンド作業を行う					
	15	ウエーブのブレンド作業を応用して、花もようを作成する					
成績評価の方法		試験(30%)、レポート(40%)、授業態度・意欲(30%)					
テキスト		とくに使用しない					
参考文献・資料		必要な資料は講義の際に渡す					
事前・事後学習		授業で得たあらたな視点を見直し、不思議さや発見の感動を再体験して確かなものとすることが、到達目標の達成に不可欠である					

科目名	生活科の研究		必修・選択	選択必修		授業形態	講義
担当者	永井 博敏	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	(1) 幼児教育と小学校教育との連続性・一貫性を生かした教育活動の必要性や意義を理解する。 (2) スタート・カリキュラム及び小学校生活科の意義や目的、内容、指導計画等についての基礎的事項を理解する。 (3) 具体的な地域探索活動や栽培活動、製作・表現活動などの体験活動を通して小学校生活科の特質を理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 幼児期の発達特性を生かした教育課程の重要性に基づいて、幼児教育の位置づけや小学校低学年教育の特徴をとらえようとする。 1) 幼児期の発達特性を生かす教育課程や教育の連続性についての課題意識をもつ。 2) 小学校生活科に関する事項や保育との関連についての関心や体験活動への意欲をもつ。 (2) 生活科の意義や目的、内容、指導計画等についての基礎的知識や技能を修得する。 1) 生活科誕生の背景や生活科の目標・内容・指導計画等に関する基本的な事項を説明できる。 2) 生活科で扱われる内容に関する具体的な活動を実体験し、教科の特質を考察することができる。 (3) 生活科の特質に関する課題解決や体験等の活動を行い、考察や成果を的確な方法で表現する。 1) 生活科の特質と日常生活や興味関心との関連について考察し、所見にまとめることができる。 2) 生活科との関連の視点から、幼児期に育てたい子どもの資質・能力、保育者の役割について保育関連科目での学びと関連付けて考察し、所見を述べることができる。 3) 体験活動(地域探索・栽培・製作表現)の成果を多様な表現方法で可視化することができる。						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	オリエンテーション(保育者養成校で、なぜ「小学校生活科」を学ぶのか?) 小学校の教育課程の概要						(1)-1) 2)
2	合科的な指導から生活科へ～子どもの視座に立つ低学年教育への一大転換～ 低学年児童の発達特性を生かした学習指導の必要性。幼児教育との連続性の重視。						(1)-1) 2) (2)-1)
3	「ジャガイモのプランター栽培活動をしよう 1回目」 二人一組でプランター栽培 「土づくりと種イモの準備、植え付け作業」						(1)-2) (2)-2)
4	生活科の目標について「学習指導要領解説編」から読み解く。 ～「教科目標の構造的理解」と「学年目標の構成・趣旨」～						(1)-1) (2)-1)
5	生活科の内容構成の考え方と内容9項目のあらまし ～幼小連携の視点から「幼児期の終わりまでに育てたい姿と関連付けて～						(2)-1) (3)-2)
6	スタートカリキュラムや生活科の活動を具体的な事例に見る ～A・B小学校の具体的な活動例(A・B小学校)やスタートカリキュラム						(2)-1) (3)-2)
7	「ジャガイモのプランター栽培活動をしよう 2回目」 屋外作業：中間作業の「芽欠き、土増し、追肥、支柱立て」を行う						(1)-2), (2)-2) (3)-3)
8	生活科の実践活動例「通り町商店街の街たんけん」1回目 《地域探索活動》 地元商店街の探索を通して、各種安全施設・商店街の各種販売促進策を見つける						(2)-2) (3)-1) 2)
9	生活科の実践活動例「通り町商店街の街たんけん」2回目 《表現活動》 地域探索「街たんけん」での気付きをマップやパンフなど多様な方法で表現する						(3)-1) 2) 3)
10	生活科の実践活動例「身近な素材を使った製作活動」1回目 《製作・表現活動》 日用品・生活廃材を活用したおもちゃ作りを通して工夫・改良する喜びを味わう						(1)-2), (2)-2) (3)-3)
11	幼・小関連の活動「身近な素材を使ったおもちゃ作り」1・2回目《製作・表現》 生活用品・廃材を活用した製作を通じて工夫や改良の経験をし、その喜びを味わう						(1)-2), (2)-2) (3)-3)
12	1回目：牛乳パックと輪ゴムを使った幼児用「うごくおもちゃ」の製作・実演 2回目：紙コップと輪ゴムによる児童用「一弦ギター」の製作と演奏発表						(1)-2), (2)-2) (3)-3)
13	「ジャガイモのプランター栽培活動をしよう 3回目」 屋外作業：収穫作業「ジャガイモ収穫と後片付け作業」を行う						(1)-2), (2)-2) (3)-3)
14	生活科の実践活動例「マイ・ジャガイモ」の調理をして味わおう 自分で育てて収穫したジャガイモを使って簡単な調理し、味わってみる、						(1)-2), (2)-2) (3)-3)
15	幼児教育と小学校教育との連続性を生かした教育の在り方についての所見や実体験を通して獲得した知見や技能、意欲についての自己評価をレポート形式で表現する						(1)-1) (3)-1) 2)
成績評価の方法	定期試験(30%)、レポート・作品(30%)、授業態度・意欲(20%)、体験活動の状況(20%)						
テキスト	文科省『小学校学習指導要領解説(生活編)』(東洋館出版) その他は自作資料による						
参考文献・資料	特定せず その都度、図書館蔵書等から紹介する						
事前・事後学習	探索・製作・表現・栽培など生活科の特徴的な学習活動を受講生が自ら体験するアクティブラーニング活動を随所に挟んで展開する。その場合は授業時間以外の事前・事後の活動が不可欠である。あらかじめ課題発見や課題設定のために調査をするなど事前の学習をしたり、事後には検証的な活動を追加して課題解決を果たすなど、主体的に学習に取り組むことが望まれる。						

科目名	相談援助		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	演習
担当者	藤原 法生	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	保育士がソーシャルワーカーであることを自覚し、保護者等が抱える様々な問題に対応できるよう、相談援助の原則や援助技術について理解する。 基本的援助技術については、ロールプレイなどの演習をとおして具体的な学びができるような授業構成とする。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 相談援助の概要について理解する。 1) 相談援助の理論や機能を理解している。 2) 保育における相談援助の意義を理解している。 3) ソーシャルワークの体系について理解している。 (2) 相談援助の方法と技術について理解し、基本的技術を身に付ける。 1) 援助者としての基本的態度について理解している。 2) 相談援助の原則、援助過程、専門的技術を理解している。 3) 基本的技術を活用することができる。 (3) 相談援助の具体的展開について理解する。 1) 面接、援助計画、記録の方法について理解している。 2) 社会資源の活用と連携について理解している。 3) 事例検討学習をとおして援助の意義や対象者への理解を深める。						
授業 回数 計 画	授業の内容	関連する 到達目標番号					
	1 相談援助の概要 保育における相談援助	(1)-1) 2)					
	2 相談援助の基本 専門対人援助関係	(2)-1)					
	3 相談援助の基本 援助者の自己覚知	(2)-1)					
	4 相談援助の基本 援助者の基本姿勢、信頼関係の構築	(2)-1)					
	5 相談援助の基本 援助の基盤となるコミュニケーション	(2)-1)					
	6 ソーシャルワークの体系 直接援助技術、間接援助技術、関連援助技術	(1)-3)					
	7 ケースワーク ケースワークの定義と原則	(2)-2) 3)					
	8 ケースワーク ケースワークの原則	(2)-2) 3)					
	9 ケースワーク ケースワークの方法と技法	(2)-2) 3)					
	10 ケースワーク ケースワークの技法	(2)-2) 3)					
	11 グループワーク 人間と集団、グループワークの定義	(2)-1) 2)					
	12 グループワーク グループワークの原則、展開過程、技術	(2)-2)					
	13 相談援助の具体的展開 アセスメント、援助計画の策定、記録	(3)-1)					
	14 相談援助の具体的展開 社会資源の活用と連携	(3)-2)					
	15 事例検討学習	(3)-3)					
成績評価の方法	定期試験(70%)、授業・ロールプレイ・ディスカッションへの参加態度(30%)						
テキスト	小林育子、小館静枝、日高洋子 著:『保育者のための相談援助』(萌文書林)						
参考文献・資料	必要に応じて提示						
事前・事後学習	事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。 可能な範囲で学習内容を日常生活の中で実践すること。						

科目名	保育相談支援		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	演習
担当者	蛭田 一美	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期
授業の概要及び全体目標	子育て支援・保育相談支援の内容、現状、課題などを踏まえた上で、保育所保育指針に示された「子育て支援」の内容について背景となる専門知識と関連させて理解を深める。その上で、保育士の行う保護者支援、子育て支援の内容と方法及び技術を現場体験や実践事例を通して理解し身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 保育士の行う保育の専門性を背景とした保護者に対する相談、助言、情報提供、行動見本の提示等の支援(保育相談支援)について、その特性と展開を具体的に理解する。</p> <p>1) 保育所保育指針における「子育て支援」の内容を理解している。</p> <p>2) 子育て支援の多様性と現代の家庭を取りまく社会現状を理解している。</p> <p>3) 日常の保育においての保護者支援の内容と実践を理解している。</p> <p>(2) 保育士の行う子育て支援について、様々な場や対象に即した支援の内容と方法及び技術を、実践や事例等を通して具体的に理解する。</p> <p>1) 地域における子育て支援活動について具体的な内容を調べ、関係機関や他の専門職との協働について理解を深める。</p> <p>2) 現場体験を通し、保護者とのかかわりについて理解を深め、実践的な方法、技術を身に付ける。</p> <p>3) 保育相談支援の直接的、間接的な手段を学び技術を身に付ける。</p> <p>4) 多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解を深めるために、多様な子育て支援(ノーバディズパーエフェクトプログラム等)の手法を身に付ける。</p>						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	保育所保育指針における「子育て支援」の内容について、子育て家庭の現状や課題を踏まえながら理解する。					(1)-1)
	2	保育所において日常的に行われる保護者との相互理解と信頼関係の形成について理解する。					(1)-1)
	3	子どもや保護者が多様な他者と関わる機会や場の提供について考え、保育士の行う子育て支援の特性について理解する。					(1)-2)
	4	子育て支援の多様性と現代の家庭を取りまく社会現状のニーズを理解する。					(1)-2)
	5	日常的な保育の中で行われる保護者支援の在り方についてグループでディスカッションする。					(1)-3)
	6	子育て支援活動の実際をグループで企画し、必要な教材等を準備する。					(2)-1)
	7	保護者や子育て家庭に対する理解をするために具体的な方法や技術を支援センターのスタッフ等の動きから学んで理解する機会を設ける。(学園内)					(2)-2) 3)
	8	保護者や子育て家庭に対する理解をするために具体的な方法や技術を支援センターのスタッフ等の動きから学んで理解する機会を設ける。(学園外・地域)					(2)-2) 3)
	9	保育士の行う子育て支援の実際について支援の計画と環境構成について理解する。					(2)-2)
	10	保育所における保育相談支援の特性について理解する。					(2)-2) 3)
	11	保育相談支援の方法と技術について理解する。					(2)-2) 3)
	12	保育相談支援の具体的な事例を通して実践力を付けていく。(I 発達援助の技術)					(2)-2) 3)
	13	保育相談支援の具体的な事例を通して実践力を付けていく。(II 生活援助や関係構築の技術)					(2)-2) 3)
	14	保育相談支援の具体的な事例を通して実践力を付けていく。(III 環境構成や遊びを展開する技術)					(2)-2) 3)
	15	多様な支援ニーズを抱える子育て家庭の理解を深めるために、多様な子育て支援(ノーバディズパーエフェクトプログラム等)の手法を身に付ける。					(2)-4)
成績評価の方法		筆記試験(85%)、子育て支援センター活動の参加(実技)(15%)					
テキスト		適宜資料を配布					
参考文献・資料		『保育所保育指針解説』、『保育用語辞典』					
事前・事後学習		毎授業ごとに振り返りの記録を行う。次回の授業や他の科目と関連づけながら考えができるように、学びの内容わかりやすく、まとめておく。					

科目名	家族援助論		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義
担当者	藤原 法生	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期
授業の概要及び全体目標	様々な課題を抱えながらも幸せな生活を築こうとする現代の家族の実態と、家族を取り巻く状況について理解する。 家族の福祉の実現のための支援体制や支援方法について具体的に理解する。また、家族の福祉の実現のために保育士が果たすべき役割についても理解する。 家族や家庭に関する身近な情報を活用し、学生間で情報交換をしながら具体的な学びができるような授業構成とする。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 家族・家庭の意義とその機能、援助の必要性について理解する。 1) 家族・家庭の定義と意義・機能を理解している。 2) 家族・家庭支援の必要性と保育士の役割を理解している。 (2) 家族・家庭を取り巻く状況について理解する。 1) 家族・家庭と地域の変容について理解している。 2) 家族・家庭に起こる諸問題を理解している。 (3) 子育て家庭に対する支援体制について理解する。 1) 家族・家庭支援の体制と社会資源を理解している。 2) 子育て支援施策を理解している。 (4) 家族・家庭支援の具体的な展開について理解する。 1) 子育て支援サービスを理解している。 2) 地域の子育て家庭への支援について理解している。 3) 関係機関とその連携について理解している。						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	家族・家庭の福祉 家族・家庭の定義と意義・機能						(1)-1)
2	家族・家庭への援助 家族・家庭への援助の必要性と意義、保育士の役割						(1)-2)
3	家庭を取り巻く状況 家族の形態と家族に起こる問題の変容						(2)-1) 2)
4	家庭を取り巻く状況 地域と家族に起こる問題の変容						(2)-1) 2)
5	家庭を取り巻く状況 現代の家族の姿とそこに起こる諸問題(人間関係)						(2)-2)
6	家庭を取り巻く状況 現代の家族の姿とそこに起こる諸問題(社会との関係)						(2)-2)
7	家族・家庭に対する支援 支援体制と社会資源						(3)-1)
8	家族・家庭に対する支援 支援の基本、支援過程						(3)-1) 2) (4)-1) 2) 3)
9	家族・家庭に対する支援 子育て支援施策						(3)-2)
10	家族・家庭支援の具体的展開 子育て支援サービス						(4)-1)
11	家族・家庭支援の具体的展開 ケース別対応(DV①)						(4)-1) 2)
12	家族・家庭支援の具体的展開 ケース別対応(DV②)						(4)-1) 2)
13	家族・家庭支援の具体的展開 ケース別対応(要保護児童)						(4)-1) 2)
14	家族・家庭支援の具体的展開 ケース別対応(障害児のいる家庭)						(4)-1) 2)
15	家族・家庭支援の具体的展開 関係機関とその連携						(4)-3)
成績評価の方法	定期試験(80%)、授業・ディスカッションへの参加態度(20%)						
テキスト	吉田真理 著:『児童の福祉を支える 家庭支援論』(萌文書林)						
参考文献・資料	『社会福祉小六法 2018』、その他必要に応じて提示						
事前・事後学習	事前にテキストの該当項目を一読し、授業後はノートとテキストを再読すること。 関連する新聞記事やニュースからも情報を得て学習を深めること。						

科目名	子どもの保健ⅠB		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	講義
担当者	武田 留美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期
授業の概要及び全体目標	人を取り巻く環境の変化などから様々な心身の問題が年々取り上げられている。子どものみならず、子育て中の養育者のへの対応も求められている。悩みとなる子ども自身の特徴や心のサインに関して把握し理解すること、また保護者自身の心身の問題についての背景の理解やその対応を学ぶ。保育者としてだけでなく、一人の人間としての健康を考え理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 精神保健とその課題等について理解する 1) 健康と精神保健の意義について理解する。 2) 子どもの心身の発達と健康について理解する。 (2) 精神疾患を含む心の諸問題への知識の習得と一般的な対応について理解する 1) 各発達段階のこころの諸問題と対応の基礎について理解する。 2) ストレスと関連する心の問題について理解する。 (3) 健康とメンタルヘルスへの理解 1) 母子保健とメンタルヘルスについて理解する。 2) DVについて考える。 3) 自分自身の健康や自分らしい生き方に関心を持ち、考えることができる。						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	健康と精神保健、精神保健運動の歴史					(1)-1)
	2	子どもの成長と発達：胎生期・新生児期・乳幼児期					(1)-2)
	3	子どもの成長と発達：幼児期					(1)-2)
	4	乳児期・幼児期の心の諸問題と発達：発達障害、排泄の問題、言葉の問題					(2)-1)
	5	児童期の心の諸問題と発達(1)：第二次成長と社会化					(2)-1)
	6	児童期の心の諸問題と発達(2)：摂食障害					(2)-1)
	7	青年期の心の諸問題と発達(1)：青年期の発達課題、統合失調症					(2)-1)
	8	青年期の心の諸問題と発達(2)：不安障害、強迫性障害					(2)-1)
	9	青年期の心の諸問題と発達(3)：うつ病、リストカット、ひきこもり					(2)-1)
	10	身体症状とストレス：心身症、習癖異常					(2)-2)
	11	母子保健とメンタルヘルス(1)：妊娠・出産・育児を行う女性の心理と行動、DVD視聴『出生前診断』					(3)-1)
	12	母子保健とメンタルヘルス(2)：家族のありかたと、男性の立場から見た育児 DVD視聴『ママたちの非常事態』					(3)-1)
	13	ドメスティック・バイオレンス(DV)について考える					(3)-2) 3)
	14	保育者のメンタルヘルス：保育者自身のケア、ストレスへの対処法を考える					(2)-2) (3)-3)
	15	災害ストレスと子どものケア・保育者自身のケアについて理解する					(2)-2) (3)-3)
成績評価の方法		定期試験(75%)、提出課題(10%)、授業態度・意欲(15%)					
テキスト		なし					
参考文献・資料		滝川一廣『子どものための精神医学』(医学書院) その他、その都度提示、紹介していく。					
事前・事後学習		指定した授業範囲の専門用語について調べておくこと。また、新聞やニュースなどで日々取り上げられる子どもについての話題を自身にかかわることとして、興味関心をもって把握しておくことが必要である。					

科目名	教育原理		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	五十嵐 隆文	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	教育の基本的概念の理解を基に、教育の理念や思想の流れと、さまざまな教育実践を歴史的に俯瞰し、考察すると共に、現代における日本の教育の方向性と教育課題について、多面的に学修する。授業中の話し合い、発表や、授業ノートにおける考察を通して、主体的・対話的で深い学びを得る。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 教育の基本的概念を身につけるとともに、教育を成り立たせる諸要因とそれら相互の関係を理解する。 1) 教育学の諸概念並びに教育の本質及び目標を理解している。 2) 子ども・教員・家庭・学校など教育を成り立たせる要素とそれらの相互関係を理解している。 (2) 教育の歴史に関する基本的知識を身につけ、それらと多様な教育の理念との関わりや過去から現代に至るまでの教育及び学校の変遷を理解する。 1) 家族と社会による教育の歴史を理解している。 2) 近代教育制度の成立と展開を理解している。 3) 現代社会における教育課題を歴史的な視点から理解している。 (3) 教育に関する様々な思想、それらと多様な教育の理念や実際の教育及び学校との関わりを理解している。 1) 家庭や子どもに関わる教育の思想を理解している。 2) 学校や学習に関わる教育の思想を理解している。 3) 代表的な教育家の思想を理解している。						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	教育の基本的概念 (1) 教育と保育の全体像 教育の意義と目的					(1)-1)
	2	教育の基本的概念 (2) 家庭、幼児教育施設、学校、社会における教育					(1)-2) 1)
	3	教育の基本的概念 (3) 教育・保育と法制度① 教育・保育を支える法制度					(1)-1) 2)
	4	教育の基本的概念 教育・保育と法制度② 学習指導要領、保育指針等の要点					(1)-1) 2) (2)-3)
	5	教育の基本的概念 (4) 教育・保育職の専門性と研修					(1)-1) 2) (2)-3)
	6	教育に関する歴史 (1) 公教育の歴史と「子供觀」の変遷					(2)-1)
	7	教育に関する歴史 (2) 江戸時代までの教育と近代学校教育の展開					(2)-1) 2)
	8	教育に関する歴史 (3) 日本における幼児教育・保育施設の誕生と発展					(2)-1) 2) 3)
	9	教育に関する思想 (1) 近代教育に大きな影響を与えた欧米の思想家達					(3)-1) 2) 3)
	10	教育に関する思想 (2) さまざまな教授理論と教育実践					(3)-2) 3) 1)
	11	教育に関する思想 (3) 幼児教育・保育を考えた人たち(倉橋惣三を中心に)					(3)-3) 1) 2)
	12	現代社会における教育課題 (1) 保育者にとってのコンプライアンス 秘密を守る義務、信用失墜行為の禁止等					(1)-2) (2)-3)
	13	現代社会における教育課題 (2) 保育者にとってのコンプライアンス 懲戒と体罰					(1)-2) (2)-3)
	14	現代社会における教育課題 (3) 幼児期におけるキャリア教育の意義					(2)-3)
	15	現代社会における教育課題 (4) 幼児教育の不易と流行					(1)-2) (2)-3)
成績評価の方法		授業ノート(40%)、レポートと発表(40%)、授業態度・意欲(20%)					
テキスト		パワーポイントと配布プリント資料を使用する。A4綴じ込みファイル必須 また、授業後に提出するため、「授業のまとめと考察ノート(A4版)」必須					
参考文献・資料		保育小六法最新版(ミネルヴァ書房)、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領					
事前・事後学習		毎時間の授業の重要なポイントと考察を授業ノートにまとめ、指定日に提出する。					

科目名	保育の心理学Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	演習					
担当者	加藤 順子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期					
授業の概要及び全体目標	<p>子どもの心身の発達及び学習の過程について基礎的な知識を身に付け、各発達段階における心理的特性を踏まえた経験や学びを支える指導・援助の基礎となる考え方を理解する。課題や事例についての話し合いや発表、考察などを通して、具体的な指導・援助の在り方について理解を深める。</p>											
一般目標 (No.) 及び到達目標 No.)	<p>(1) 子どもの心身の発達の過程及び特徴を理解する。 1) 子どもの心身の発達に対する外的及び内的要因の相互作用、発達に関する代表的理論を踏まえ、発達の概念及び教育・保育における発達理解の意義を理解している。 2) 乳幼児期の各時期における運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達について、その具体的な内容を理解している。</p> <p>(2) 子どもの学習に関する基礎的な知識を身に付け、発達を踏まえた経験や学習を支える指導・援助について基礎的な考え方を理解する。 1) 様々な学習の形態や概念及びその過程を説明する代表的理論の基礎を理解している。 2) 主体的学習や活動を支える動機づけ・集団づくり・評価の在り方について、発達の特徴と関連付けて理解している。</p> <p>3) 子どもの心身の発達を踏まえ、主体的な学習や活動を支える指導・援助の基礎となる考え方を理解している。</p>											
授業 回数 計 画	授業 回数	授業の内容					関連する 到達目標番号					
	1	発達を通した子どもへの理解 子ども理解における発達の把握、発達の原理・原則、発達を理解するための手法					(1)-1) 2)					
	2	個人差や発達過程に応じた教育・保育 個人差とは、発達過程とは					(1)-1) 2)					
	3	身体感覚を伴う多様な経験と環境との相互作用 子どもにとっての経験とは何か、身体感覚と知覚					(1)-1) 2)					
	4	環境としての保育者と子どもの発達 子どもと環境の相互作用、教育・保育の環境と保育者、保育者の関わりが子どもに与える影響					(1)-1) (2)-2) 3)					
	5	子ども相互の関わりと環境づくり 仲間とともに育つ、社会性の発達、仲間関係の発達といざこざ					(1)-2) (2)-1) 2) 3)					
	6	自己主張と自己統制 自己認識の発達、自己統制の発達、他者の理解と心の理論					(1)-1) 2)					
	7	子ども集団と教育・保育の環境 個と集団、集団内でのつまずき、集団を意識した教育・保育の環境					(2)-1) 2) 3)					
	8	子どもの生活と学び 学びとは何か、学びの理論、学びを育む教育・保育					(2)-1) 2) 3)					
	9	子どもの遊びと学び 遊びとは何か、遊びの分類、遊びを通して学ぶ					(1)-2) (2)-1) 2)					
	10	生涯にわたる生きる力の基礎を培う 生きる力とは何か、生きる力の基礎となる要素					(2)-1) 2) 3)					
	11	基本的生活習慣の獲得と発達援助 基本的生活習慣とは何か、保育者としての発達援助、養護と教育の一体化					(1)-1) 2)					
	12	自己の主体性の形成と発達援助 主体性とは何か、主体性を育む教育・保育					(1)-1) (2)-2) 3)					
	13	発達の課題に応じた援助や関わり 個人差に配慮した発達援助、特別な配慮が必要な子どもへの発達援助					(1)-2) (2)-3)					
	14	地域との連携、発達の連続性と就学への支援 発達の連続性とは何か、幼稚園・保育所・こども園等と小学校の連携					(1)-1) 2)					
	15	現代社会における子どもの発達と教育・保育の課題 子どもを取り巻く問題と教育・保育の課題、コミュニケーションの課題と教育・保育の役割					(1)-1) (2)-3)					
成績評価の方法	定期試験(50%)、提出課題(20%)、授業態度・意欲(30%)											
テキスト	松本峰雄 監修:『よくわかる!保育士エクササイズ4 保育の心理学演習ブック』(ミネルヴァ書房)											
参考文献・資料	その都度提示や紹介をする。											
事前・事後学習	授業内容と関連するテキスト部分を事前に読み学習する。 授業後、テキストや資料を再読し、学習課題についてまとめて理解を深める。											

科目名	発達心理学		必修・選択	選択		授業形態	講義	
担当者	武田 留美	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期	
授業の概要及び全体目標	幼稚園や保育所等で遭遇する諸問題について発達の視点から考えることができ、その対応法について理解することができる。そのためには、子どもを見る視点、発達を見る指標についての理解を深めることが必要であり、社会の変化に伴い求められている育児支援としての保護者対応を考えることができる。							
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 子どもの発達を見る視点を養う 1) 人との相互のかかわりの発達を理解する。 (2) 子どもの日常的な言動、エピソードから発達を理解する視点を養う 1) 気になる子どもの特徴を捉える。 2) どの特徴が困り感へつながっているのかを捉え、理解することができる。 (3) 保護者対応として相談場面でのきく技術を習得する 1) 相談場面の設定の仕方や配慮、「きく」とは何かを理解する。 2) 「聞く」ことの重要性と「伝える」ことの重要性を理解する。 (4) 幼稚園や保育所等で遭遇する諸問題について対応するための基礎を習得する 1) 事例から、困り感を捉え、対応の仕方の工夫を考える。 2) 発達援助としての保育の工夫を考えることができる。							
授業 計 画	授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号
	1	授業の進め方、発達を理解する意義の理解						(1)-1)
	2	愛着の発達						(1)-1)
	3	人との相互作用、関わりの発達						(1)-1)
	4	保育の場面での「気になる子」を発達的視点で理解する						(1)-1) (2)-1) 2)
	5	保育の場面での「気になる子」への対応の工夫						(2)-1) 2) (4)-2)
	6	保育カウンセリングと保育						(2)-1) 2) (3)-1) 2)
	7	日々の保育の蓄積を生かす工夫						(2)-1) 2)
	8	保護者対応の基礎：話を「きく」練習						(3)-1)
	9	保護者対応の基礎：相談の中でなにを「きく」か、どう伝えるか						(3)-1) 2)
	10	事例から考える：「気になる子」の事例から対応を考える						(2)-1) (4)-1)
	11	事例から考える：「対応に困る保護者」の事例をグループで検討する						(4)-1)
	12	発達援助の実際の工夫：落ち着きのない子どもへの対応						(4)-2)
	13	発達援助の実際の工夫：発達障害、感覚過敏のある子どもへの対応						(4)-2)
	14	地域の中での保育の役割について考えてみよう						(4)-1) 2)
	15	授業のまとめと保育に発達の視点を生かす意義とは何かを確認しよう						(1)-1)
成績評価の方法		授業態度・意欲(80%)、レポート・提出課題(20%)						
テキスト		なし						
参考文献・資料		繁多進監修、向田久美子・石井正子著：『新 乳幼児発達心理学 - もっと子どもがわかる好きになる』(福村出版) その他、その都度、提示や紹介をしていく						
事前・事後学習		演習やグループワーク、事例検討など、今まさに保育現場で対応が求められる内容について多く取り入れるため、積極的に参加や発言することが求められる。そのためには、興味関心、または様々な事例に対して疑問を持ち考えることができる姿勢が必要である。						

科目名	教育制度		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	五十嵐 隆文	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期
授業の概要及び全体目標	教育に関する制度的、経営的事項について、多面的に考察すると共に、学校と地域の連携や学校安全への対応などの現代的課題について学修する。授業中の話し合い、発表や授業ノートにおける考察を通して、主体的・対話的で深い学びを得る。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1-2) 現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識を身につけるとともに、そこに内在する課題を理解する。</p> <p>1) 公教育の原理及び理念を理解している。 2) 公教育制度を構成している教育関係法規を理解している。 3) 教育制度を支える教育行政の理念と仕組みを理解している。 4) 教育制度をめぐる諸課題について例示することができる。</p> <p>(1-3) 学校や教育行政機関の目的とその実現について、経営の観点から理解する。</p> <p>1) 公教育の目的を実現するための学校経営の望むべき姿を理解している。 2) 学校における教育活動の年間の流れと学校評価の基礎理論を含めたPDCAの重要性を理解している。 3) 学級経営の仕組みと効果的な方法を理解している。</p> <p>(2) 学校と地域との連携の意義や地域との協働の仕方について、取り組み事例を踏まえて理解する。</p> <p>1) 地域との連携・協働による学校教育活動の意義及び方法を理解している。 2) 地域との連携を基とする開かれた学校づくりが進められてきた経緯を理解している。</p> <p>(3) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、学校保健安全法に基づく、危機管理を含む学校安全の目的と具体的な取り組みを理解する。</p> <p>1) 学校の管理下で発生する事件、事故及び災害の実情を踏まえ、危機管理や事故対応を含む学校安全の必要性について理解している。 2) 生活安全・交通安全・災害安全の各領域や我が国の学校をとりまく新たな安全上の課題について、安全管理及び安全教育の両面から具体的な取り組みを理解している。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号
1	教育・保育に関する制度的事項 (1) 公教育の原理と理念						(1-2)-1)
2	教育・保育に関する制度的事項 (2) 日本国憲法、教育基本法、学校教育法との関わりの要点						(1-2)-2) 1)
3	教育・保育に関する制度的事項 (3) 教育公務員特例法、地方公務員法との関わりの要点						(1-2)-2) 1)
4	教育・保育に関する制度的事項 (4) 児童の権利に関する条約、児童福祉法との関わりの要点						(1-2)-2)
5	教育・保育に関する制度的事項 (5) 教育行政と教育委員会制度						(1-2)-3) 1)
6	教育・保育に関する経営的事項 (1) 教育・保育施設の目的と機能						(1-3)-1)
7	教育・保育に関する経営的事項 (2) 園の組織と運営						(1-3)-1) 2)
8	教育・保育に関する経営的事項 (3) 学校評価の在り方と活用－自己評価、学校関係者評価、第三者評価						(1-3)-2)
9	教育・保育に関する経営的事項 (4) 学級経営とその効果的な方法－「おたより」を通した保護者との連携						(1-3)-3)
10	教育・保育施設と地域との連携 (1) 「開かれた学校づくり」のために－「社会に開かれた教育課程」と「チームとしての学校」						(2)-1) 2)
11	教育・保育施設と地域との連携 (2) 地域との連携・協働による学校教育活動の推進の具体例						(2)-1) 2)
12	教育・保育施設における安全への対応 (1) 危機管理の全体像と保育者の責任						(3)-1) 2)
13	教育・保育施設における安全への対応 (2) 危機管理の具体的な事例の考察						(3)-1) 2)
14	教育・保育に対する期待と課題 (1) いじめを考察する						(1-2)-4)
15	教育・保育に対する期待と課題 (2) 幼児教育・保育への期待と課題						(1-2)-4)
成績評価の方法	授業ノート(40%)、レポートと発表(40%)、授業態度・意欲(20%)						
テキスト	パワーポイントと配布プリント資料を使用する。A4綴じ込みファイル必須 また、授業後に提出するための、「授業のまとめと考察ノート(A4版)」必須						
参考文献・資料	『保育小六法最新版』(ミネルヴァ書房)、『幼稚園教育要領』、『保育所保育指針』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						
事前・事後学習	毎時間の授業の重要なポイントと考察をノートにまとめ、指定日に提出する。						

科目名	教育・保育課程総論		必修・選択	必修		授業形態	講義						
担当者	猿田 興子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期						
授業の概要及び全体目標	幼稚園教育要領等を基準として各幼稚園において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解するとともに、各幼稚園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解する。												
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 教育課程・保育課程の役割・機能・意義を理解する。 1) 幼稚園教育要領等の性格及び位置づけ並びに、教育課程編成の目的を理解している。 2) 幼稚園教育要領等の改訂の変遷及び主な改訂内容並びにその社会的背景を理解している。 3) 教育課程が社会において果たしている役割や機能を理解している。</p> <p>(2) 教育課程編成の基本原理及び保育実践に即した教育課程編成の方法を理解する。 1) 教育課程編成の基本原理を理解している。 2) 総合的に捉えた保育内容を選択・配列する方法を例示することができる。 3) 長期的な視野で捉える教育課程編成や、幼児や幼稚園、地域の実態を踏まえて教育課程や指導計画を検討することの重要性を理解している。</p> <p>(3) 全年齢におけるカリキュラムを把握し、幼稚園教育課程全体をマネジメントすることの意義を理解する。 1) 幼稚園教育要領等に規定するカリキュラム・マネジメントの意義や重要性を理解している。 2) カリキュラム評価の基礎的な考え方を理解している。</p>												
授業 回数 授 業 計 画	授業の内容	関連する 到達目標番号											
	幼稚園・保育所の教育・保育課程の役割・機能・意義について 要領・指針から教育・保育課程の目的を探る。幼児の生活する姿をとらえる。	(1)-1) 2) (2)-3)											
	幼稚園・保育所の教育・保育課程の役割・機能・意義について 幼児の発達特徴を捉え、教育・保育課程の連續性と一貫性について学ぶ。	(1)-1) (2)-3)											
	教育・保育課程を基本とした指導計画作成について 幼稚園教育要領等の内容(資質・能力の三つの柱、5領域、10の姿等の方向性から)を深める。	(2)-1) 2) (3)-1)											
	教育・保育課程を基本とした指導計画作成について 指導計画の具体的な項目と内容を知る	(2)-1) 2)											
	指導計画を作成するうえで配慮すべき点と記述内容について 子どもの姿・ねらい・内容・環境の構成を中心に学び、記述する	(1)-1), (2)-1) (3)-1)											
	指導計画作成するうえで配慮すべき点と記述内容について 保育者の援助・配慮点を中心に学び、保育の見通しと保育用語の特徴をとらえる	(2)-1) 2) (3)-1) 2)											
	グループディスカッション(実習後の振り返りと他学生の実践から視野を広げる) 担当した園児の年齢別に分かれ指導案とその評価について考える	(2)-1) 2) (3)-1) 2)											
	映像を通して学ぶ指導計画と保育の実際について 指導計画と保育・指導計画と子どもの姿から保育における指導計画の意味を考える	(1)-1) 2) (2)-1) 2)											
	教育・保育課程と長期の指導計画(幼児の生活する姿を見通すこと) 長期の指導計画・指導の重点について学ぶ	(2)-1) 2) 3)											
	教育・保育課程と長期の指導計画(地域の実態と園の実態を踏まえた編成の意義) 幼児の発達を見据えた事例を通して深める	(2)-1) 2) 3)											
	教育・保育課程と短期の指導計画(一日の生活の流れを予想した指導計画について) 実習体験を生かした事例研究と省察を通して考える	(2)-1) 2) 3)											
	教育・保育課程と長期・短期の指導計画 カリキュラム・マネジメントについて考える 保育における計画・実践・省察・評価・改善について学ぶ	(3)-1) 2)											
	指導計画と評価について カリキュラム・マネジメントについて考える 望ましい保育の展開と子どもの実態をとらえる保育者の視点を知る	(3)-1) 2)											
	様々な指導計画にふれる 11月幼稚園実習における指導計画作成を考え、作成に取り組む	(1)-1), (2)-2) (3)-1) 2)											
	まとめとして これまでの学びを生かした自身の保育を創造する期待と関心をもつ	(1)-1) 2), (2)-1) 2) 3) (3)-1) 2)											
成績評価の方法	試験(60%)、レポート(20%)、授業態度・意欲(20%)												
テキスト	文部科学省:『指導計画の作成と保育の展開』(フレーベル館)												
参考文献・資料	『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説書』、『幼保連携型連携こども園教育・保育要領解説書』、『保育用語辞典』												
事前・事後学習	教科を超えた要領・指針の理解が重要な保育・教育課程編成も意識しながら事前に読んで授業参加すること。指導計画を作成する力を身に付けるために年齢による発達の特徴や適切な保育内容を調査する。												

科目名	保育内容総論		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	演習						
担当者	津谷 ゆき子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期						
授業の概要及び全体目標	保育所保育指針・幼稚園教育要領の趣旨に沿い、保育の理念と保育内容を理解するとともに、保育者としての役割を理解する。また、遊びの中での具体的な幼児の姿をと関連づけながら、環境を構成し、実践するために必要な知識や技能を身に付ける。												
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 保育所保育指針・幼稚園教育要領に示された保育の基本と保育内容を理解する。</p> <p>1) 幼児期の保育における基本的な見方・考え方について、事例を挙げて説明ができる。</p> <p>2) 遊びを通しての総合的な援助の意義と保育者の役割が説明できる。</p> <p>3) 幼児の心に寄り添う幼児理解の方法と援助の在り方について説明できる。</p> <p>4) 幼稚園・保育所の保育と小学校教育との円滑な接続について理解している。</p> <p>(2) 子どもの具体的な姿から、発達を読み取り、個に応じた援助について考える。</p> <p>1) 遊びや生活の中で、幼児の心を捉え、適切な援助の方法を考えることができる。</p> <p>2) DVD視聴やエピソード記録から発達の様子を読み取り、保育の在り方を探ることができます。</p> <p>3) 具体的な幼児の姿から、保育計画を作成する手順や留意点、評価の方法が分かる。</p> <p>4) 身近な教材・教具等を活用して、保育の内容を工夫することができる。</p> <p>(3) 具体的な場面を想定し、互いに意見を述べ合い、求められる保育の方法を積極的に模索する。</p> <p>1) グループカンファレンスやロールプレイ等を通して、意見を述べ合い保育の方法を意欲的に探ることができます。</p> <p>2) 保育の今日的な課題を理解し、具体的な保育の方法の工夫改善に活用することができます。</p> <p>3) 多様な子どもへの対応について、意見を述べ合い創意工夫することができます。</p>												
授業回数	授業の内容						関連する到達目標番号						
1	<p>保育の基本と保育内容</p> <p>・保育所保育指針・幼稚園教育要領における保育のねらいと内容を理解する。</p>						(1)-1)						
2	<p>保育の全体構造と保育内容</p> <p>・養護と教育に関わるねらい及び内容の関連を理解する。</p>						(1)-1)						
3	<p>保育内容5領域の関連</p> <p>・「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の総合的な活動の展開を理解する。</p>						(1)-2)						
4	<p>遊びや生活と乳幼児の学び(DVD視聴・グループカンファレンス)</p> <p>・遊びや生活を通して学ぶ姿から、乳幼児期の保育の在り方を探る。</p>						(1)-2), (2)-2) (3)-1)						
5	<p>発達を促す遊びの環境</p> <p>・具体的な遊び場を設計し、協議し、改善する。</p>						(2)-1)						
授業計画	6	<p>0～1歳児の発達と保育の在り方・留意点</p> <p>・DVDを視聴して、赤ちゃんの豊かな世界を理解し、その関わりについて考える。</p>						(1)-3) (2)-2)					
	7	<p>2～3歳児の幼児理解と育ちの重要性</p> <p>・DVD視聴やエピソード記録から、発達の様子と遊びの重要性を理解する。</p>						(1)-3) (2)-2)					
	8	<p>4～5歳児の遊びと生活の広がり(ロールプレイとグループ発表)</p> <p>・「自分」と「友達」との関わりと「協同」することの重要性を理解する。</p>						(2)-1) (3)-1)					
	9	<p>「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と活動のつながり</p> <p>・乳児期・幼児期・学童期以降の育ちのつながりを理解する。</p>						(1)-4)					
	10	<p>長期的・短期的保育計画の特徴と作成の留意点</p> <p>・実際の保育計画を持ち寄り、指導法について学ぶ。</p>						(2)-3)					
	11	<p>保育の一日常案の作成と模擬保育 保育のPDCAサイクルの理解</p> <p>・作成した保育案の模擬授業を行い、改善を加える。(グループでの学び合い)</p>						(2)-3)					
	12	<p>保育の今日的な課題と子育て支援</p> <p>・保育の今日的な課題と解決の方法を考える。・子育て支援の実情理解と地域連携を考える。</p>						(3)-2)					
	13	<p>多様な子どもへの対応(事例の紹介:DVD・エピソード記録の活用)</p> <p>・特別な支援を必要とする幼児に対する保育の工夫</p>						(2)-2) (3)-3)					
	14	<p>保育の内容を深める遊びや文化財(ワークショップ形式)</p> <p>・幼児と楽しむ絵本・紙芝居・遊びを紹介し合う。</p>						(2)-4) (3)-1)					
	15	<p>幼児期の体験の重要性と保育者の資質能力の向上</p> <p>・学習の振り返りと保育者の使命と役割、保育者の夢について、記入紙にまとめる。</p>						(3)-1)					
成績評価の方法	試験(50%)、提出課題(20%)、授業態度・意欲(30%)												
テキスト	大豆生田啓友・渡辺英則・柴崎正行・増田まゆみ編:『最新保育講座4保育内容総論』(ミネルヴァ書房)『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領解説書』												
参考文献・資料	『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』												
事前・事後学習	予習:授業内容に合わせてテキストや関連資料を読み取りと授業の準備をする。 復習:授業後、テキストに再度目を通し、学習内容を記録する。												

科目名	保育内容の指導法 健康		必修・選択	必修		授業形態	(演習)
担当者	猿田 興子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	幼稚園教育要領の領域「健康」のねらいと内容及び内容の取扱いについて理解し、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作り出す力を養うために必要な知識・技術を身に付ける。事例に触れる中で、保育者のかかわり方や環境構成、運動遊びなど実践的な学びを取り入れる。そこから乳幼児期の健康に関わる生活習慣や心身の発育・発達・運動発達の特徴の理解を深め、適切な指導方法を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び到達目標 No.)	<p>(1) 幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「健康」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、領域「健康」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 領域「健康」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「健康」において幼児が経験し身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「健康」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「健康」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とその振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「健康」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する到達目標番号
	1	保育における「健康」とは —社会環境の変化と子どもの「健康」との関連を理解する—					(1)-1) (2)-1)
	2	保育における「健康」とは —幼児教育の基本と領域「健康」のねらい及び内容の理解—					(1)-1)
	3	「養護」と「教育」の一体性について —実践事例における子どもの姿と保育者の援助から探る—					(2)-1)
	4	健やかな心と体を育む保育について —発達の特徴と幼児理解から保育の視点を理解する—					(1)-2) (2)-1)
	5	領域「健康」における心身の発達の特徴を踏まえた環境構成と援助 —気になる子、障害児、肥満児、家庭経験、性格特性等に応じた援助の在り方—					(1)-1) (2)-1) 3)
	6	健やかな心と体を育む保育について —遊びや生活の中の動きの経験を促す環境構成と援助を理解する—					(1)-1) (2)-4)
	7	基本的生活習慣の形成を支える援助 —食事、排泄、着脱衣、清潔の習慣形成を支える環境構成と援助—					(1)-1) (2)-3)
	8	健康管理と安全能力を育む援助 —健康指導、交通安全や避難訓練等の指導と安全能力を育む援助(特別な配慮を要する子どもへの援助を含む)—					(1)-1) 2)
	9	多様な動きの経験を促す援助 —運動遊びを中心とした具体的な環境構成と援助を探る(指導立案1)—					(1)-1) (2)-2) 3) 4)
	10	健やかな心と体を育む保育の創造 —生活と運動遊びを中心とした具体的な指導案の作成を理解する(指導立案2)—					(1)-1) 2) (2)-3) 4) 5)
	11	健やかな心と体を育む保育の実践 —運動遊びを中心とした保育実践から学ぶ(模擬保育)—					(2)-1) (2)-1) 3) 4)
	12	健やかな心と体を育む保育の実践 —健康指導、安全指導を中心とした具体的な指導を実践から探る—					(1)-1) 2) (2)-2) 3) 5)
	13	健やかな心と体を育む保育の評価と改善について —発達の特徴、幼児の実態を基盤にした評価の在り方—					(1)-3) (2)-4)
	14	幼児期に育まれる健やかな心と体と小学校の生活や学習で生かされる力 —「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と小学校教科とのつながり—					(1)-1) 2) 4) (2)-1)
	15	領域「健康」をめぐる現代的課題と保育実践 —幼児を取り巻く現代的課題を踏まえた健やかな心と体を育む保育(まとめ)					(1)-2) (2)-1) 5)
成績評価の方法		指導計画の立案、模擬保育の実践(40%)、レポート(30%)、授業態度・意欲(30%)					
テキスト		河邊貴子・柴崎正行・杉原隆編:『最新保育講座7 保育内容「健康』』(ミネルヴァ書房)					
参考文献・資料		『幼稚園教育要領解説』『保育所保育指針解説』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』『保育用語辞典』					
事前・事後学習		事前: テキスト・要領・指針を事前に読んだうえで参加する。 事後: 授業内で配布した資料への書き込みとレポート課題を通して復習し、次回に備える。					

科目名	保育内容の指導法 環境		必修・選択	必修		授業形態	(演習)
担当者	佐々木 啓子	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・後期
授業の概要及び全体目標	幼稚園教育要領に示された領域「環境」のねらい及び内容についての理解を深め、子どもを取り巻く環境について学び、乳幼児期にふさわしい環境を考えることができるようになる。また、子どもが環境に関わって遊ぶことの重要性を理解し、具体的な指導場面を想定した保育の構想、指導方法を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「環境」のねらい及び内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領に示された幼稚園教育の基本、領域「環境」のねらい及び内容並びに全体構造を理解している。 2) 領域「環境」のねらい及び内容を踏まえ、子どもが経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「環境」に関わる周囲の様々な環境に好奇心や探求心をもって関わり、それらを生活に取り入れていこうとする経験と、小学校以降の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 子どもの発達や学びの過程を理解し、領域「環境」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 子どもの心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「環境」の特性及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 模擬保育とそのふりかえりを通して、保育を改善する視点を身に付けている。 5) 領域「環境」の特性に応じた現代的課題や保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号
1	領域「環境」の意義 子どもが環境と関わることの重要性						(1)-1)
2	保育と「環境」 領域「環境」のねらいと内容						(1)-1)
3	子どもの育ちと領域「環境」 乳幼児期の特性を踏まえた環境						(1)-1) 2)
4	子どもを取り巻く物的環境 I 遊びや生活の中の物・道具 物の性質と仕組み						(1)-1) 2) 4)
5	子どもを取り巻く物的環境 II 数量や図形、文字や標識との関わり						(1)-2) (2)-1) 4) 5)
6	子どもを取り巻く自然環境 I 身近な自然への関わり(季節、植物、動物、昆虫)						(1)-2) (2)-1) 4) 5)
7	子どもを取り巻く文化的環境 文化財への関わり(絵本・紙芝居・施設)						(1)-2) (2)-1) 5)
8	子どもを取り巻く人的環境 友だちの存在、保育者の役割						(1)-1) 2) 4) (2)-1)
9	活動計画の作成 活動・ねらいの設定、指導案の作成						(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2) 3) 4)
10	模擬保育 活動計画に基づいた保育						(1)-3) (2)-1) 2) 3) 4)
11	子どもの発達と園の環境 生命の保持、情緒の安定						(1)-1) 2) (2)-1)
12	生きる力を育む環境 I 好奇心・探求心を育む環境						(1)-1) 2) (2)-1)
13	生きる力を育む環境 II 自立心・道徳心を育む環境						(1)-1) 2) (2)-1)
14	関わりたくなるような環境の構成 環境を通して行う保育						(1)-1) 2)
15	環境を通して行う保育の課題 子どもを取り巻く社会環境・保育環境の課題						(1)-2) (2)-1) 5)
成績評価の方法	試験(70%)、授業態度・意欲(30%)						
テキスト	酒井幸子・守巧 編著:『保育内容環境 あなたならどうしますか?』(萌文書林)						
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』(フレーベル館)						
事前・事後学習	テキストの授業内容に該当する箇所に事前に目を通し、理解が深まるように準備して授業に臨んでほしい。また、事後にはテキストやプリントを見返し、授業での学びを身に付けてほしい。身近な自然について、日常的に興味・関心をもち、環境に関わる力が育つことを期待する。						

科目名	保育内容の指導法 表現		必修・選択	必修		授業形態	(演習)
担当者	蛭田 一美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	乳幼児期に育みたい資質・能力を理解し、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に示されたねらい及び内容について表現と関連させて理解を深め、幼児の発達に即し、主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 幼稚園教育要領等に示された幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい、内容を理解する。 1) 幼稚園教育要領における幼稚園教育の基本、各領域のねらい及び内容並び全体構造を理解している。 2) 領域「表現」のねらい及び内容を踏まえ、幼児が経験し身に付けていく内容と指導上の留意点を理解している。 3) 幼稚園教育における評価の考え方を理解している。 4) 領域「表現」に関わる幼児が身に付けていく内容の関連性及び小学校の教科等とのつながりを理解している。</p> <p>(2) 幼児の発達や学びの過程を理解し、領域「表現」に関わる具体的な指導場面を想定した保育を構想する方法を身に付ける。 1) 幼児の心情、認識、思考及び動き等を視野に入れた保育構想の重要性を理解している。 2) 領域「表現」の特性、及び幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び機材の活用方法を理解し、保育構想に活用することができる。 3) 指導案の構造を理解し、具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。 4) 実習で行った保育や模擬保育などの振り返りを通して、保育を改善する視点を身に付けています。 5) 領域「表現」の特性に応じた保育実践の動向を知り、保育構想の向上に取り組むことができる。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号
1	幼稚園教育の基本を踏まえ、領域「表現」のねらい及び内容について、乳幼児の表現の姿と関連付けることを通して理解する。						(1)-1)
2	幼児の発達や学びの過程を理解し、表現活動に育みたい資質・能力について具体的に考える。						(1)-1) 2)
3	表現活動と「幼児期に育ってほしい姿」を具体的に関連付けることを通し、幼児の表現における評価の考え方を理解する。						(1)-1) 2) 3)
4	事例や映像から幼児の心情・認識・思考及び動き等を考察し、幼児が経験し身に付けていく表現の内容と指導上の留意点を理解する。						(1)-1) 2) 3) (2)-1)
5	幼児期の表現活動と、小学校の様々な教科との学びの連続性について理解し、具体的な実践を考える。						(1)-1) 2) 3) 4)
授業計画	6 3歳未満児の発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや、情報機器および活用方法、教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。						(2)-1) 2) 3)
6	7 3歳～5歳の発達や環境等の様々な要因を考え、表現活動や遊びを広げるための言葉かけや、情報機器および活用方法、教材の提示方法、環境を踏まえた教材研究について考える。						(2)-1) 2) 3)
7	8 五感を使った総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。(音を聴いて色や形、身体で表現するなど)						(2)-1) 3)
8	9 手足、身体を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。(造形活動と音楽的活動を連動し表現するなど)						(2)-1) 3)
9	10 自然(風・光・影など)や自然物(土、石、葉、木の実など)を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。						(2)-1) 3)
10	11 身近な素材(新聞紙、封筒、紙コップ、ペットボトルなど)を用いた総合的な表現活動を実践し、活動の特徴や面白さ、留意点などを考える。						(2)-1) 3)
11	12 保育研究の論文やインターネットで発信されている表現活動の実践例から動向や課題を知り、自らの保育構想の向上に取り組む。						(2)-3) 5)
12	13 これまでの学びを踏まえ総合的な表現活動を実践するために指導案を作成する。						(2)-1) 3) 4)
13	14 ドキュメンテーションの作成を通して「表現」の授業を振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深め保育構想の向上に取り組む						(1)-1) (2)-1) 2) 4) 5)
14	15 自分で作成したドキュメンテーションを基にグループで発表しあい、これまで学んだ総合的な表現活動について振り返り、幼児の心情や思考についての理解を深める。						(1)-1) (2)-1) 2) 5)
成績評価の方法	授業への参加度(グループワーク・実技など)(30%)、学びの内容をまとめたノート(30%)、課題レポート(40%)						
テキスト	平田智久・小林紀子・砂上史子編『保育内容 表現』(ミネルヴァ書房) 『保育所保育指針解説書』、『幼稚園教育要領解説書』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』						
参考文献・資料	『保育用語辞典』						
事前・事後学習	事前に授業の範囲のテキストを読んで予習しておくこと。毎授業ごとに振り返りの記録を行う。次の授業や他の科目と関連づけながら考えることができるように、学びの内容を視覚的にわかりやすく、まとめておく。						

科目名	幼児指導法Ⅱ		必修・選択	必修		授業形態	(演習)					
担当者	佐々木 啓子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・後期					
授業の概要及び全体目標	子どもは遊びの中で想像力や感性を育成していく。子どもの遊びについて実践を通して学びながら、保育の場で必要な保育実践力を身に付ける。 身近な素材を使って遊びを作り上げるおもしろさを学び、子どもたちが主体的に遊びに取り組むための援助や環境構成が考えられるようになってほしい。											
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 子どもの発達と遊びの展開の関連について理解する。 1) 遊びの意味や発達への影響について理解することができる。 2) 子どもの成長・発達にとって意味のある環境構成ができるようになる。 3) 発達の特性を踏まえた保育の方法や技術について理解する。 (2) 遊びを指導することの意味を知り、具体的な指導方法を身に付ける。 1) 多様な保育技能を習得し、保育実践能力の向上をめざす。 2) 子ども一人一人応じた援助について考えられるようになり、保育実践に生かすことができる。											
授業 計 画	授業回数	授業の内容										
	1	遊びの本質を考える	自分の子ども時代の遊びをまとめる			(1)-1)						
	2	子どもの生活と遊び	発達段階に応じた遊びを理解する			(1)-1) 2) 3)						
	3	表現したくなる環境 I	絵本の読み聞かせの工夫			(1)-2) 3) (2)-1) 2)						
	4	〃 II	実践発表			(1)-2) 3) (2)-1) 2)						
	5	伝承遊び I	保育の中で行うわらべうたの必要性を理解する			(1)-1) 3) (2)-1)						
	6	〃 II	わらべうたの調査、実践			(1)-1) 3) (2)-1)						
	7	身近な素材の研究 I	各自が選んだ素材の特性を生かし、			(1)-2) 3) (2)-1) 2)						
	8	II	廃材を使った遊びを考える			(1)-2) 3) (2)-1) 2)						
	9	III				(1)-2) 3) (2)-1) 2)						
	10	子どもとおもちゃ	遊びにおけるおもちゃの役割、発達に応じたおもちゃ			(1)-1) 2)						
	11	手作りおもちゃの製作 I	各自が選んだ素材の特性を生かし、			(1)-1) 2) (2)-1) 2)						
	12	〃 II	手作りおもちゃを製作する			(1)-1) 2) (2)-1) 2)						
	13	〃 III				(1)-1) 2) (2)-1) 2)						
	14	まとめ	手作りおもちゃの発表			(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)						
	15	まとめ	〃			(1)-1) 2) 3) (2)-1) 2)						
成績評価の方法		実践発表(40%)、レポート(40%)、授業態度・意欲(20%)										
テキスト		平田智久・小林紀子・砂上史子編：『最新保育講座 11 保育内容「表現」』(ミネルヴァ書房)										
参考文献・資料												
事前・事後学習		主体的に遊びに取り組む子どもの育成には保育者の保育力が大きな鍵を握っていると言える。日頃から子どもの遊びや生活に興味・関心をもち、意欲的な態度で授業に臨んでくれることを期待する。										

科目名	乳児保育Ⅱ		必修・選択	選択		授業形態	講義
担当者	畠山 礼子	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	乳児期は心身共に成長、発達の著しい時期である。その大事な時期に温かく、受容的・応答的に関わることで、その後の人格形成の基礎をつくると言われていることを踏まえ、基本的な知識や保育者として必要な態度や関わりを身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	(1) 乳児の発達を理解する。 1) 各年齢の発達の基本的な姿を理解している。 2) 環境としての保育者の関わりを身に付けようとしている。 (2) 子どもの主体的な活動を支える方法を知る。 1) 具体的な事例を通して、子どもの育ちを支える環境に関心がもてる。 2) 子どもの内面にある育ちを支えるために大切なことを理解しようとする。 (3) 保育所で働く保育者としての役割を知る。 1) 複数担任であるための役割を理解している。 2) 記録の取り方を理解している。 3) 子育て支援について関心がもてる。						
授業 計 画	授業回数	授業の内容					関連する 到達目標番号
	1	乳児保育で大切にしたいこと①					(1)-2) (2)-2)
	2	乳児保育で大切にしたいこと②					(1)-2) (2)-2)
	3	0歳児低月齢児（6ヵ月未満児）の発達と援助					(1)-1)
	4	0歳児低月齢児（6ヵ月未満児）の遊びと環境					(1)-2) (2)-1)
	5	0歳児高月齢児（6ヵ月～1歳3ヵ月児）の発達と援助					(1)-1)
	6	0歳児高月齢児（6ヵ月～1歳3ヶ月児）の遊びと環境					(1)-2) (2)-1)
	7	1歳児の発達と援助					(1)-1)
	8	1歳児の遊びと環境					(1)-2) (2)-1)
	9	2歳児の発達と援助					(1)-1)
	10	2歳児の遊びと環境					(1)-2) (2)-1)
	11	保育者間の連携について					(3)-1)
	12	保育の記録の取り方について					(3)-2)
	13	子育て支援について… 子どもの育ちを家庭と連携して支援する					(3)-3)
	14	乳児担当保育者としての役割… 乳児の心をくみとることのできる保育者であるために					(2)-2)
	15	まとめ 乳児保育の楽しさを知る					(2)-2)
成績評価の方法		レポート(70%)、授業参加・態度(30%)					
テキスト		なし					
参考文献・資料		『保育所保育指針ハンドブック』／樋口正春 編著『根っこを育てる乳児保育』 ちいさいなかま編集部編『保育の基本ゼロ・1歳児』					
事前・事後学習		授業では基本的な発達や保育者としての関わり方を伝えていくので、保育雑誌や保育所保育指針を自主的に読み、実習などを通じて授業内容を理解していく。					

科目名	社会的養護内容		必修・選択	選択(保育必修)		授業形態	(演習)
担当者	佐々木久仁明	担当形態	単独	単位数	1	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	社会的養護 I の基礎理論を踏まえ、より深くより具体的に児童の援助方法を知ると共に、演習事例をおして権利擁護や自立支援の実践的側面に触れ、保育士の責任と役割の重要性及びその内容を理解する。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 現代社会の家族や児童の状況を知り、その背景を探りながら社会的養護の必要性やあり方を理解する。</p> <p>1) 社会的養護に関わる専門的知識・技術を学び、ケアの流れ(アドミッション→イン→リーピング→アフター)の内容や留意点を理解する。</p> <p>2) 社会的養護における保育士の役割を理解し、養護の対象児童とその家族の現状に沿った支援計画を作成できる。</p> <p>3) 子どもの養育は、その保護者や地域との関わりの中で成り立つことを理解する。(特に入所時)</p> <p>(2) 施設養護や里親制度などの社会的養護の特性や実際について理解する。</p> <p>1) さまざまな事例を元に、子どもの自己決定を大切にした生活プログラム(日課)を理解できる。</p> <p>2) 仲間との交流や職員の温かく見守る姿勢の大切さや日常生活の支援、治療的支援、自立支援等について理解する。</p> <p>(3) さまざまな施設の特徴について理解するとともに子どもたちの生活支援について学ぶ。</p> <p>1) 安心、安全、個別化、愛着形成などについて理解を深める。特に愛着形成と自立との関係性について学ぶ。</p> <p>2) ユニットケア、グループホーム、里親制度など家庭的養護について学ぶ。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号
1	今日の養護問題と保育士の仕事 ○家庭状況の変化、ライフサイクルの変化、施設機能と養護体系(演習) T君の事例と保育士の仕事「あなたがこの子の先生だったらどうしたいと思いますか」						(1)-2)
2	社会的養護にはそれぞれのプロセスがあります。アドミッションケア、インケア、リーピングケア、アフターケアそして個々にP・D・C・Aです。各々の留意点及び施設養護の長所・短所を理解します。(演習)家庭復帰が遅れたA君の事例						(1)-1)
3	児童養護施設の生活を例として、その基本的な援助のあり方(日常生活支援) 自立に向けての支援、生活プログラム(一日の流れ)及び衣食住・保健衛生・金銭物品管理等のあり方 ○親子関係を繋ぐ						(1)-3) (2)-1)
4	前回3の動き→学習指導、余暇指導、遊び、環境整備、レクリエーション、安全指導、地域交流(提出課題演習)行動計画をたてよう又は遊びの意義について						(2)-2)
5	小規模グループケア、家庭的援助(こころの援助)①おちついた生活環境②大人との心の安定③仲間との生活体験 次の形態での生活状況は?・ユニットケア・地域小規模児童養護施設・ファミリーホーム・分園型自活訓練事業(3)-1)2)						(3)-1) 2)
6	グループ討議 ①演習事例検討「新入所児を迎えて」M子の事例 ・甘えと依存 ・他の子への影響と配慮						(1)-1)
7	乳児院の生活 ・ホスピタリズムからの出発→愛着形成、担当制、親子関係、家庭復帰 里親制度 ・里親委託、パーマネンシー(プランニング) ・課題 子どもの問題、ミスマッチ(里親不調)、実親との関係						(3)-1) 2)
8	児童自立支援施設における生活 歴史経過、日課、入所経路、生活指導、作業指導、学習指導、寮生活、三能主義						(2)-1) 2) (3)-1)
9	母子生活支援施設における生活 入所理由、DV、シェルター的役割、母子自立支援(サテライト型)、就業支援						(1)-3) (2)-1) 2)
10	事例検討 A太君の親子関係を考える 親子関係の調整における保育士の役割						(1)-3)
11	グループ討議② 演習事例検討「肢体不自由のある子どもの自立援助を考える」T志君の事例 ・ADLと自己決定						(2)-1)
12	知的障害児施設における生活→自己決定、社会的許容、自閉症児施設 児童家庭支援センター・児童観→相談援助、子育て支援						(3)-1)
13	児童心理治療施設→虐待、トラウマ、心理療法、家庭との連携 一時保護所→虐待と緊急入所、提出課題・演習「自立支援計画を立てよう」						(2)-2)
14	分園型自活訓練事業 リーピングケアの一例 児童自立生活援助事業 アフターケアの一例 ●自立とは?ある小児科医の体験から						(2)-2)
15	まとめ						(3)-2)
成績評価の方法	定期試験(70%)、ポート(20%)、授業態度・意欲(10%)						
テキスト	辰己隆・岡本眞幸:『改訂 保育士をめざす人の社会的養護内容』(みらい)						
参考文献・資料	『社会福祉小六法』(ミネルヴァ書房) 庄司順一・鈴木力也編著:『社会的養護シリーズ』全4巻(福村出版)						
事前・事後学習	グループ討議も行います。この場合は事前にテーマを示しますので、事前の学習と討議終了後のレポートの提出をしてください。						

科目名	援助に生かす心理学		必修・選択	必修		授業形態	講義
担当者	武田 留美	担当形態	単独	単位数	2	学年 期間	2年・前期
授業の概要及び全体目標	<p>幼稚園における幼児の生活や遊びの実態に即して、幼児の発達や学び及びその過程で生じるつまずき、その要因を把握するための原理や対応の方法を考えることができる。</p> <p>集団の中で適応的に生活する力を育み、個々の成長・発達を支援する教育活動（教育相談）に対応できるよう、幼児の発達の状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するため必要な基礎的知識（カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎知識を含む。）を身に付ける。</p>						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>幼児理解の理論及び方法</p> <p>(1) 幼児理解についての知識を身に付け、考え方や基礎的態度を理解する。 1) 幼児理解の意義及び発達や学びを捉える原理を理解している。 2) 幼児理解を深めるための教師の基礎的な態度を理解している。</p> <p>(2) 幼児理解の方法を具体的に理解する。 1) 観察と記録の意義や目的・目的に応じた観察法等の基礎的な事柄を例示できる。 2) 個と集団の関係を捉える意義や方法を理解している。 3) 幼児のつまずきを周りの幼児との関係やその背景から理解している。 4) 保護者の心情と基礎的な対応の方法を理解している。</p> <p>教育相談（カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。）の理論及び方法</p> <p>(3) 教育相談の意義と理論を理解する。 1) 教育相談の意義と課題を理解し、教育相談に関わる心理学の基礎的な理論・概念を理解している。 4) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識を理解する。 1) 幼児の不適応や問題行動の意味、発するシグナルに気づき把握する方法を理解する。 2) カウンセリングマインドの必要性を理解し、受容・傾聴・共感等のカウンセリングの基礎的な姿勢やスキルを理解している。</p> <p>(5) 教育相談の進め方やポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。 1) 役割に応じて、幼児や保護者に対する教育相談を行う際の目標の立て方や進め方を例示することができる。 2) いじめ・不登園・虐待・非行等の課題に対する幼児の発達段階や課題に応じた教育相談の進め方を理解している。 3) 教育相談の計画作成や必要な体制の整備など、組織的な取組みの必要性を理解している。 4) 地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義や必要性を理解している。</p>						
授業回数	授 業 の 内 容						関連する到達目標番号
1	<p>授業の進め方</p> <p>援助に生かす心理学とは何か、幼児発達理解の視点</p>						(1)-1) (2)-2)
2	<p>心理学を援助に生かすとは：心理学の歴史の視点から 様々な援助の場にどのように生かされているかを知る</p>						(1)-1)
3	<p>発達心理学の復習：乳幼児の発達理解の重要性と発達の確認</p>						(1)-1)
4	<p>心理アセスメントの概要：心理テストを行う意義と様々なアセスメントの理解</p>						(2)-1)
5	<p>心理学的援助理論：精神分析、行動療法</p>						(3)-1) 2)
6	<p>心理学的援助理論：来談者中心療法、遊戲療法、芸術療法 来談者中心療法を例にとり、相談を進めるときに必要なカウンセリングの基礎的知識、姿勢や態度を理解する</p>						(3)-1) 2) (4)-2)
7	<p>心理学的援助理論：短期療法、臨床動作法など様々な心理療法の理論</p>						(3)-1) 2)
8	<p>乳幼児の心の諸問題：各発達段階の課題と諸問題（乳児～就学まで） 保護者の不安につながりやすい要因を理解し、保護者支援としての教育相談を考える</p>						(2)-3)
9	<p>発達障害の捉え方：様々な発達障害の特徴と対応の基礎を理解する</p>						(2)-4)
10	<p>発達生涯の捉え方：就学へむけて保育の場でできる援助とは何か、就学後のつまずきへの支援としていじめ、登校しづら里、友人関係を理解する</p>						(1)-3), (2)-2) 3) (5)-2) 3)
11	<p>虐待：虐待の特徴と関連する法律を理解する</p>						(2)-4)
12	<p>虐待：虐待の心理的影響を理解し、保育者としてできることを考える</p>						(2)-4), (4)-1) (5)-3)
13	<p>心身に現れる不安のサインへの気づきと基本的対応を理解する</p>						(4)-1)
14	<p>地域における子育ての連携と保育：子育ての現状と課題、地域との連携を理解する</p>						(1)-2), (2)-4) (4)-2), (5)-4)
15	<p>地域における子育ての連携と保育：子育て不安をどう支えるか、カウンセリングマインドの必要性と現代の育児不安の要因と地域での支援について考える</p>						(1)-2), (2)-4) (4)-2), (5)-1)
成績評価の方法	<p>試験 (75 %)、課題提出 (5 %)、授業参加態度・ディスカッションや発表への意欲 (20 %)</p>						
テキスト	<p>なし</p>						
参考文献・資料	<p>馬場禮子、青木紀久代編『保育に生かす心理臨床』(ミネルヴァ書房) 下山晴彦編『よくわかる臨床心理学』(ミネルヴァ書房) その他、適宜紹介や提示をしていく。</p>						
事前・事後学習	<p>授業では基本的事項が中心となるが、発達（特に乳幼児）の理解なくしては集団への適応やつまずきへの対処、保護者への対応を考えることは難しい。発達の基礎的な知識をその都度復習し理解しておくこと。時事問題に関して興味関心をもつ姿勢が求められる。</p>						

科目名	保育・教職実践演習(幼稚園)	必修・選択	必修		授業形態	(演習)	
担当者	五十嵐隆文・猿田興子	担当形態	オムニバス	単位数	2	学年 期間	2年・後期
授業の概要及び全体目標	これまでの教育・保育専門科目の履修を振り返り、自己にとって何が課題であるのかを自覚し、不足している知識や技能等を補い、実践的指導力を高める為、使命感や対人関係能力、幼児理解、保育内容の指導力の向上方法などについて、事例研究やグループ討議、調査、実技、模擬授業などをとおして学ぶ。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 保育者の専門性、保育に対する使命感と責任感、情熱等をもち、を目指す保育者像を持つ。</p> <p>1) 保育者の専門性、その特質を考え、自身のを目指す姿を意識できている。</p> <p>2) 保育者の成長を考える中で、研修の重要性と新人保育者としての課題を理解している。</p> <p>3) 全国保育士倫理綱領から、保育者としての倫理を学び、理解している。</p> <p>(2) 幼児理解に基づいたクラス運営、保育内容の指導とその評価に関する知識や技能の重要性を理解し、身に付けている。</p> <p>1) 省察的実践者としての保育者になるとと、その過程での成長と困難を理解し、保育に真摯に向き合おうとしている。</p> <p>2) 省察的実践者として、子ども理解の方法と実際を理解している。</p> <p>3) 保育者に求められる実践的力量の内容を知り、自身の課題を把握している。</p>						
授業 回数 計 画	授業の内容	関連する 到達目標番号					
	授業の概要について(本科目の目標と計画、担当者等について説明する) これまでの学修の振り返りを行う(学修を振り返り、各科目的状況を把握する)	(1)-1) 2)					
	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身に付ける -子どもの発達的特徴を捉える-	(1)-1) (2)-1) 2)					
	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身に付ける -子どもの生活における基本的生活習慣を捉える-	(1)-1) (2)-1) 2)					
	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身に付ける -子どもの遊びを理解する-	(1)-1) (2)-1) 2)					
	保育における子ども理解の方法を探り、指導計画を作成する力を身に付ける -子どもの人間関係を理解する-	(1)-1) (2)-1) 2)					
	幼児理解とカンファレンスを実践する。 -学生間のディスカッション後、幼児理解につながるカンファレンスについて学ぶ-	(1)-1) 2) (2)-1) 2)					
	子ども理解と省察・記録・評価の意義を理解する。 -エピソードの記述を通して、望ましい保育内容を理解する-	(1)-1) 2) (2)-1) 2)					
	子ども理解と省察・記録・評価の意義を理解する。 -エピソードの記述と読み取り・評価・省察について理解する-	(2)-2) 3)					
	保育者として倫理を理解し、使命感や責任感、教育的愛情について考える。 -保育専門職の基本を理解し、外部講師の講話で学ぶ-	(1)-3) (2)-1) 2) 3)					
	社会的・対人関係能力等のスキルアップを求めて講義・グループ討議を行う。 -上司・同僚との望ましい人間関係につながるスキル(事例についてグループ討議)	(1)-1) 3)					
	社会的・対人関係能力等のスキルアップを求めて講義・グループ討議を行う。 -保護者との望ましい人間関係につながるスキル(事例についてグループ討議) -	(1)-1) 3)					
	これからの幼児教育・保育について深めて学ぶ。 -幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領改訂 -	(1)-1) 2) 3) (2)-3)					
	保育実践力・指導力の向上につながる実践的学びをする。 -保育における運動遊び、遊びの充実を実践から学ぶ-	(2)-1) 2) 3)					
	保育実践力・指導力の向上につながる実践的学びをする。 -保育における造形・表現の指導について美術館見学において学ぶ-	(2)-1) 2) 3)					
	幼児理解とクラス運営について外部講師の講義から理解する -クラス運営を中心に講義を受け、自身の保育者像につなげて考える—	全項目					
成績評価の方法	提出課題(70%)、授業態度・意欲(30%)						
テキスト	随時、プリント、資料等を配布する。						
参考文献・資料	『保育小六法』『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』						
事前・事後学習	初回の授業のみならず、これまでの学びを確認しながら参加すること。課題に丁寧に取り組み、提出を怠らないこと。						

科目名	卒業研究		必修・選択	必修		授業形態	(演習)			
担当者	専任教員 11名		担当形態	単独	単位数	2	学年 期間			
授業の概要及び全体目標	これまでの教育・保育専門科目の履修を振り返り、自らの興味関心のある内容や不足している内容について、自分なりのテーマや課題を持って研究活動に取り組む。									
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	各担当者による									
授業回数	授業の内容				関連する 到達目標番号					
授業計画	<p>各自が選択したテーマにそって、担当教員と相談しながら計画を立て、研究を進める。 詳細は、『卒業研究説明会』で配布する資料参照のこと。</p>									
成績評価の方法	各担当者による									
テキスト	各担当者による									
参考文献・資料	各担当者による									
事前・事後学習	各担当者の指示に従い、準備すること									

実 習

科目名	教育実習指導		必修・選択	選択(幼免必修)		授業形態	実習				
担当者	佐々木 啓子	担当形態	複数	単位数	1	学年 期間	1・2年通年				
授業の概要及び全体目標	<p>講義や映像、附属幼稚園見学などの体験を通して、実習の意義や目的を理解するとともに、実習を円滑に進めるための心構えや実践的知識を理解する。</p> <p>さらに幼稚園の役割や機能、保育内容等を総合的に学び、実践を通して自らの保育の課題を明確にし、保育者になるための能力や態度を身に付ける。</p>										
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 事前指導では教育実習生として実習施設の教育活動に参画する意識を高め、事後指導では実習で得られた成果と課題等を省察するとともに、教員免許取得に向けて習得すべき知識や技術等について知り、これらを通して教育実習の意義を理解する。</p> <p>1) 教育実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に教育実習に参加することができる。</p> <p>2) 教育実習を通して得られた知識と経験をふりかえり、教員免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解する。</p> <p>(2) 授業で学んだ領域や教職に関する専門的な知識・理論・技術等を、保育で実践するための基礎を身に付ける。</p> <p>1) 幼稚園教育要領及び幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>2) 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成等）を実地に即して身に付けるとともに、子どもの体験との関連を考慮しながら適切な場面で情報機器を活用することができる。</p> <p>3) 学級担任の役割と職務内容を実地に即して理解する。</p> <p>4) 様々な活動の場面で適切に子どもと関わることができる。</p>										
授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号				
1	オリエンテーション	実習の意義・目的について知る					(1)-1) 2)				
2	教育実習の位置づけ	2年間の実習予定について（実習の種類・期間・回数）					(1)-1) 2), (2)-4)				
3	実習園の選択について	実習園の選択と留意すること					(1)-2), (2)-3) 4)				
4	幼稚園とは	幼稚園・保育所・認定こども園の違い、幼稚園の一日の流れ					(1)-1) 2), (2)-3) 4)				
5	保育者のイメージ	幼稚園の中の子どもと保育者					(2)-3) 4)				
6	実習の方法と理解	DVD視聴による学習					(1)-2), (2)-3) 4)				
7	実習オリエンテーション	内容、連絡方法の理解、態度、持ち物の確認等オリエンテーションの具体的な方法					(1)-1)				
8	幼稚園教育要領を見るI	環境を通して行う保育とはどのような保育か					(1)-1) 2)				
9	幼稚園教育要領を見るII	遊びを中心とした保育の重要性					(1)-1) 2)				
10	幼稚園教育要領を見るIII	幼稚園の特徴（小学校との指導方法の比較から）を知る					(1)-1) 2), (2)-3) 4)				
11	実習における基本的態度・マナーI	実習中の生活、健康管理の重要性					(1)-1) 2)				
12	実習における基本的態度・マナーII	実習生の社会性（コミュニケーション）					(1)-1) 2)				
13	附属幼稚園の見学I	子どもの園生活の姿・保育の環境構成・保育者の援助の理解					(2)-1) 3)				
14	附属幼稚園の見学II	見学後のグループディスカッションによる省察					(1)-1) 2), (2)-3) 4)				
15	実習に必要な準備	事前に準備すること（エプロン、絵本、手遊び）					(1)-1), (2)-1) 3)				
16	教育実習記録の記述I	実習記録の記述方法と留意点・保育の用語について					(1)-1) 2), (2)-2) 4)				
17	教育実習記録の記述II	子ども理解、保育者の動き、環境構成を視点にした記述					(1)-1) 2), (2)-2) 3)				
18	総合的発達の特徴	子どもの生活と発達を関連づけて考える					(2)-1) 2) 3) 4)				
19	領域のとらえ方	遊びや生活の姿から発達を読み取る					(2)-1) 2) 3) 4)				
20	活動のとらえ方	子どもの視座から活動をとらえる					(1)-1) 2), (2)-1) 2)				
21	環境構成と主体的遊び	子どもが環境と関わる重要性					(1)-1) 2), (2)-1) 2)				
22	教育実習を終えてI	自己評価を通した教育実習のふりかえり					(1)-1) 2), (2)-2) 4)				
23	教育実習の省察I	実習中のエピソードから教育実習を省察					(1)-1) 2), (2)-2) 4)				
24	教育実習の省察II	部分実習の反省、次回の実習に向けての課題確認					(1)-1) 2), (2)-2) 4)				
25	指導計画の立案	主活動の教材研究、責任実習の指導案作成					(1)-1) 2), (2)-3) 4)				
26	教育実習の省察	グループディスカッションを通した教育実習の省察					(1)-1) 2), (2)-3) 4)				
27	【演習】環境構成を考える	グループワークによる指導案の検討、パソコンによる指導案作成					(1)-1) 2), (2)-1) 2)				
28	【演習】援助のポイントを考える	グループワークによる指導案の検討、パソコンによる指導案作成					(1)-1) 2), (2)-1) 2)				
29	保育者の専門性	保育者としての意識、専門性についての理解					(1)-2), (2)-1)				
30	教育実習の学びとまとめ	子ども・保育を観る目の変容					全項目				
成績評価の方法	提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、実習評価(40%)、実習記録(10%)										
テキスト	大豆生田啓友／高杉展／若月芳浩：『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)										
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説』、『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』、『保育用語辞典』(フレーベル館)										
事前・事後学習	自らが幼児期の発達に関わることを自覚し、目的をもって実習にあたることができるように自主的に学びを進めてほしい。保育者に求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」を作成し、事前事後の学習に効果的に活用すること。										

科目名	保育実習指導Ⅰ		必修・選択	選択(保育必修)		授業形態	(演習)
担当者	猿田 興子	担当形態	複数	単位数	2	学年 期間	1・2年通年
授業の概要及び全体目標	実習に向け児童福祉施設の目的とその機能を理解し、実習を円滑に進めていくための実践的知識や心構えを会得する。さらに実習の内容を理解し、自らの課題を明確にするとともに実習の事前事後授業を通して保育者として必要な資質・能力・技術の理解を深める。保育の実際を体験的・総合的に理解し、保育実践並びに保育実践研究の基礎的な能力と態度を身に付ける。						
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲的に参加する意識を持ち、事後指導では成果と課題等を省察するとともに免許取得に向け習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して保育実習の意義を理解する。</p> <p>1) 実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加することができる。</p> <p>2) 実習を通して得られた知識と経験を振り返り、免許取得までにさらに習得することが必要な知識や技能等を理解している。</p> <p>(2) これまで学んだ領域や保育に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身に付ける。</p> <p>1) 各要領・指針と幼児の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>2) 保育に必要な基礎的技術（話法・保育形態・保育展開・環境構成など）を身に付けるとともに適切な場面で自身の技術を活用することができる。</p> <p>3) 保育者の役割と職務内容を理解している。</p> <p>4) 様々な活動の場面に応じて適切な対応を考慮しながら関わり行動できる。</p>						
授業回数	授業の内容						関連する 到達目標番号
1	オリエンテーション 2年間における保育実習の回数・期間・種類について						(1)-1) 2)
2	各実習の内容とその位置づけ 実習の目的とその概要について						(1)-1) 2), (2)-4)
3	実習園の選択について 実習先(児童福祉施設)選択とその留意点と記述について						(1)-2), (2)-3) 4)
4	実習の方法と理解 映像を通して						(1)-2), (2)-3) 4)
5	保育所保育指針から 子どもの発達とその特徴 幼稚園教育要領との違いから						(1)-1) 2), (2)-2) 3) 4)
6	保育所保育指針から 子どもの生活環境と保育園での生活について						(1)-1) 2), (2)-2) 3) 4)
7	実習園におけるオリエンテーションについて 連絡方法・態度・持ち物・事前準備・その重要性						(1)-1)
8	実習における基本的態度・マナーと意識 実習生の生活習慣・健康維持・マナーと生活から						(1)-1) 2)
9	実習における基本的態度・マナーと意識 実習生の社会性について考え方						(1)-1) 2)
10	保育実習における安全管理の重要性 守秘義務の重要性・養護と教育を事例から						(1)-1) 2)
11	保育実習記録の記述について 保育所の目的と機能・保育のねらいから						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
12	保育実習記録の記述について 保育所生活の流れ・保育の見方・子ども理解につながる記録						(1)-1) 2), (2)-2) 3)
13	保育実習記録の記述について 保育用語・記録法・記録時の留意点について						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
14	乳児保育における養護と教育について 保育実習を通して・乳児への望ましい援助について						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
15	0・1・2歳児の生活と遊び その特徴と配慮すべき点、適切な環境について						(2)-1) 2), (2)-3) 4)
16	3・4・5歳児の生活と遊び その特徴と配慮すべき点、適切な環境について						(2)-1) 2) 3) 4)
17	保育実習を終えて 学生同士の話し合い 省察レポートを記述等で振り返りをする						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
18	施設実習に向けて 学生同士のイメージの伝え合いから						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
19	施設実習について 施設の種類とその特徴						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
20	施設実習について 施設の生活と保育者の援助 実習生の援助について						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
21	施設実習について 施設職員の職務内容と保育士の役割について						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
22	施設別実習事前オリエンテーション 学生・施設別担当教員による協議を通しての学び						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
23	施設別実習事前オリエンテーション 学生・施設別担当教員による協議を通しての学び						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
24	施設実習記録の記述について 施設別先輩実習生から実践事例を聞く						(1)-1) 2), (2)-2) 4)
25	施設実習記録の記述について 施設別先輩実習生から実践事例を聞く						(1)-1) 2), (2)-2) 3) 4)
26	施設実習を終えて 学生・施設別担当教員による協議を通して省察する						(2)-2) 3) 4)
27	施設実習を終えて 学生・施設別担当教員による協議を通してまとめる						(2)-2) 3) 4)
28	保育所保育指針より 子育て支援の現状と保育者の役割について学ぶ						(1)-2) 1)
29	保育所保育指針より 保育者の専門性について 実習体験をまとめる						(1)-2) 1)
30	2年間における保育実習のまとめ 乳児・幼児・入所児の内面理解と自身の変化について						全項目
成績評価の方法	提出課題(30%)、授業態度・意欲(20%)、実習評価(40%)、実習記録(10%)						
テキスト	大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)						
参考文献・資料	『幼稚園教育要領解説書』『保育所保育指針解説書』『幼稚園連携型認定こども園教育・保育要領』『保育用語辞典』						
事前・事後学習	保育者の求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」を作成し、事前事後の学習に効果的に活用すること。授業毎に実習に関する課題があるので、期日を意識して取り組むこと。						

科目名	保育実習指導Ⅱ		必修・選択	選択(保資必修)		授業形態	(演習)						
担当者	猿田 興子	担当形態	複数	単位数	1	学年 期間	2年・通年						
授業の概要及び全体目標	これまでの実習体験を生かしながら、部分・責任実習に向け指導計画の理解・作成・実践・評価について総合的に学び理解する。さらに実習事後のグループ協議・省察を通して保育の観察の視点、記録の仕方及び自身の保育を振り返ることで指導計画における評価と保育の改善について実践的に深めることができる。												
一般目標 (No.) 及び 到達目標 No.)	<p>(1) 事前指導では実習生として実習施設の保育活動に意欲的に参加する意識を持ち、事後指導では成果と課題等を省察するとともに免許取得に向け習得すべき知識や技能等について理解する。これらを通して保育実習の意義を理解する。</p> <p>1) 実習生として遵守すべき義務等について理解するとともに、その責任を自覚したうえで意欲的に実習に参加することができる。</p> <p>2) 実習を通して得られた知識と経験を振り返り、免許取得までにさらに習得するが必要な知識や技能等を理解している。</p> <p>(2) これまで学んだ領域や保育に関する専門的な知識・理論・技術等を保育で実践するための基礎を身に付ける。</p> <p>1) 各要領・指針と児童の実態等を踏まえた適切な指導案を作成し、保育を実践することができる。</p> <p>2) 保育に必要な基礎的技術(話法・保育形態・保育展開・環境構成など)を身に付けるとともに適切な場面で自身の技術を活用することができる。</p> <p>3) 保育者の役割と職務内容を理解している。</p> <p>4) 様々な活動の場面に応じて適切な対応を考慮しながら関わり行動できる。</p>												
授業 回数 授 業 計 画	授業の内容	関連する 到達目標番号											
	1 保育所保育指針について 保育実習における責任実習 幼児理解と「教育」「養護」を再確認する	(1)-1) 2) (2)-1) 2)											
	2 保育計画とは 実践に生きる計画とは 子どもの視点から計画を考える	(1)-1) 2) (2)-3) 4)											
	3 保育計画と実践・評価 附属幼稚園模擬授業を通して(活動と遊びの姿を捉える)	(2)-1) 2) 3) 4)											
	4 保育計画と実践・評価 附属幼稚園模擬授業を通して(計画と実践の関係性を探る)	(2)-1) 2) 3) 4)											
	5 保育における活動のとらえ方について 保育者の願いと子どもの思い 事例から考える	(2)-1) 2) 3) 4)											
	6 保育における活動のとらえ方について 子どもの興味関心・発達段階・季節・経験から考える	(2)-1) 2) 3) 4)											
	7 遊びの総合的発達とは 遊びと生活の姿を領域から捉え、総合的発達へつなげる	(2)-1) 2) 3) 4)											
	8 子どもの遊ぶ姿から 事例を通して記録・振り返り・評価・保育の展開へとつなぐ学び	(1)-1) 2) (2)-1) 2)											
	9 子どもの生活する姿から 事例を通して記録・振り返り・評価・保育の展開へとつなぐ学び	(1)-1) 2) (2)-1) 2)											
	10 活動のとらえ方 園生活の実態と指導計画 その実践と評価	(1)-1) 2) (2)-1) 2)											
	11 環境の構成と主体的遊びについて 子どもの視座から環境を捉え直す	(1)-1) 2) (2)-1) 2)											
	12 日の指導計画立案と作成 発達・時期・興味・関心と子どもの姿	(1)-1) 2) (2)-3) 4)											
	13 保育実習の振り返り 責任実習での振り返りと課題 グループディスカッションを通して	(1)-1) 2) (2)-3) 4)											
	14 保育所保育指針から 保育の記録と評価、保育所児童保育要録記述について	(1)-1) 2) (2)-1) 2)											
	15 二年間の学びにおける実習生の変容 まとめとして 子どもを理解する視点の変化を中心に	全項目											
成績評価の方法	提出課題(30%) 授業態度・意欲(20%)、実習評価(40%)、実習記録(10%)												
テキスト	大豆生田啓友/高杉展/若月芳浩『最新保育講座12 幼稚園実習 保育所・施設実習』(ミネルヴァ書房)												
参考文献・資料	『保育所保育指針解説書』『幼稚園教育要領解説書』『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説書』『保育用語辞典』												
事前・事後学習	保育者の求められる基本的な実践力を養うために「実習ノート」を作成し、事前事後の学習に効果的に活用すること。授業毎に実習に関する課題があるので、期日を意識して取り組むこと。												

